２０１９年度

SYLLABUS

沖縄県立看護大学大学院

授　業　時　間　割（2019年度）

【博士前期課程1年次】

前学期

前半　　2019年4月8日（月）～6月16日（日）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10	各領域の特論Ⅰ／実践看護特論Ⅰ	実践臨床病態生理学	保健看護と研究Ⅰ	領域の演習／実践看護演習Ⅰ	特別研究Ⅰ／課題研究		
7　19:20～20:50							

※　各領域・実践看護の特論Ⅰ、演習、演習Ⅰ、特別研究Ⅰ又は課題研究は担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　「生涯人間発達論」は集中講義で開催します。

後半　　2019年6月17日（月）～8月14日（水）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10	実践看護特論Ⅱ	看護倫理／看護管理・政策	生体機能とリスク	領域の演習／実践看護演習Ⅰ	特別研究Ⅰ／課題研究		
7　19:20～20:50							

※　実践看護の特論Ⅱ・各領域・実践看護の演習、演習Ⅰ、特別研究Ⅰ又は課題研究は担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　「看護管理・政策」の非常勤講師担当分は集中講義で開講します。（7月21・22日）

※　「看護倫理」の非常勤講師担当分は集中講義で開講します。（6月30日・7月1日）

※　「質的研究方法論」は集中講義で開講します。

【博士前期課程1年次】

後学期

前半　　2019年10月1日（火）～12月1日（日）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10						実践ヘルスアセスメント	
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10	実践看護特論Ⅲ	実践臨床薬理学／保健看護情報	継続保健看護教育Ⅰ	実践看護演習Ⅱ	特別研究Ⅰ／課題研究		
7　19:20～20:50							

※　各領域・実践看護の特論Ⅲ、演習Ⅱ、特別研究Ⅰ又は課題研究は担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

後半　　2019年12月2日（月）～2020年3月14日（土）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10						実践ヘルスアセスメント	
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10	実践看護特論Ⅳ	疫学と保健統計Ⅰ	看護ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ論	実践看護演習Ⅱ	特別研究Ⅰ／課題研究		
7　19:20～20:50							

※　各領域・実践看護の特論Ⅳ、演習Ⅱ、特別研究Ⅰ又は課題研究は担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　「ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・健康教育Ⅰ」は集中講義で開講します。

授　業　時　間　割(2019年度)

【博士後期課程1年次】

前学期

前半　　2019年4月8日(月)～6月16日(日)

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10		各領域の特論ⅡA		特別研究Ⅱ		各領域の特論ⅡB	
7　19:20～20:50							

※　各領域の特論Ⅱ、特別研究Ⅱは担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

後半　　2019年6月17日(月)～8月14日(水)

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10				特別研究Ⅱ		保健看護と研究Ⅱ(研究デザイン編)	
7　19:20～20:50							

※　各領域の特別研究Ⅱは担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　「保健看護と研究Ⅱ(研究デザイン編)」の非常勤講師担当分は集中講義で開講します。

【博士後期課程1年次】

後学期

前半　　2019年10月1日（火）～12月1日（日）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10				特別研究Ⅱ	保健看護と研究Ⅱ（研究執筆編）		
7　19:20～20:50							

※　各領域の特別研究Ⅱは担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　「保健看護と研究Ⅱ（執筆編）」の非常勤講師担当分は集中講義で開講します。

後半　　2019年12月2日（月）～2020年3月14日（土）

時　限	月	火	水	木	金	土	日
1　8:40～10:10							
2　10:20～11:50							
3　12:40～14:10							
4　14:20～15:50							
5　16:00～17:30							
6　17:40～19:10		継続保健看護教育Ⅱ	疫学と保健統計Ⅱ	特別研究Ⅱ			
7　19:20～20:50							

※　各領域の特別研究Ⅱは担当教員の指示により曜日・時限を変更することがあります。

※　講義等の場所、時刻等について、掲示又はメールによる連絡に注意してください。

※　選択科目の曜日・時限は担当教員と履修者との協議によって変更することがあります。

※　「ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・健康教育Ⅱ」は集中講義で開講します。

博士前期　教育課程　カリキュラムツリー（30単位以上）

※特別研究Ⅰ（8単位）あるいは 課題研究　（8単位）の
どちらかを選択する

2年次

- 保健看護管理・教育特別研究Ⅰ or 保健看護管理・教育課題研究
- 地域・精神保健看護特別研究Ⅰ or 地域・精神保健看護課題研究
- 母性・小児保健看護特別研究Ⅰ or 母性・小児保健看護課題研究
- 成人・老年保健看護特別研究Ⅰ or 成人・老年保健看護課題研究
- 新領域保健看護特別研究Ⅰ or 新領域保健看護課題研究
- 島嶼保健看護特別研究Ⅰ or 島嶼保健看護課題研究

1年次

- 保健看護管理演習 / 保健看護管理実習
- 保健看護教育演習 / 保健看護教育実習
- 地域保健看護演習 / 地域保健看護実習
- 精神保健看護演習 / 精神保健看護実習
- 母性保健看護演習 / 母性保健看護実習
- 小児保健看護演習 / 小児保健看護実習
- 成人保健看護演習 / 成人保健看護実習
- 老年保健看護演習 / 老年保健看護実習
- 新領域保健看護演習 / 新領域保健看護実習
- 島嶼保健看護演習 / 島嶼保健看護実習

選択科目：「生涯人間発達学」「生体機能とリスク」「疫学と保健統計Ⅰ」「ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ」「保健看護情報」
「地域文化看護論」「看護倫理」「看護コンサルテーション」「看護管理・政策」「実践臨床薬理学」
「実践ヘルスアセスメント」「実践臨床病態生理学」「医療の質保証と安全管理」「質的研究方法論」

- 保健看護 管理・教育特論Ⅰ
- 地域・精神 保健看護特論Ⅰ
- 母性・小児 保健看護特論Ⅰ
- 成人・老年 保健看護特論Ⅰ
- 新領域 保健看護特論Ⅰ
- 島嶼保健看護 特論Ⅰ

専門科目・コア科目：**「継続保健看護教育Ⅰ」「保健看護と研究Ⅰ」**

※コア科目は3分野6領域共通　博士前期課程　院生全員履修する

博士前期　長期履修　教育課程　カリキュラムツリー（30単位以上）

※特別研究Ⅰ（8単位）あるいは 課題研究　（8単位）の
どちらかを選択する

3年次

- 保健看護管理・教育特別研究Ⅰ or 保健看護管理・教育課題研究
- 地域・精神保健看護特別研究Ⅰ or 地域・精神保健看護課題研究
- 母性・小児保健看護特別研究Ⅰ or 母性・小児保健看護課題研究
- 成人・老年保健看護特別研究Ⅰ or 成人・老年保健看護課題研究
- 新領域保健看護特別研究Ⅰ or 新領域保健看護課題研究
- 島嶼保健看護特別研究Ⅰ or 島嶼保健看護課題研究

2年次

- 保健看護管理演習 / 保健看護管理実習
- 保健看護教育演習 / 保健看護教育実習
- 地域保健看護演習 / 地域保健看護実習
- 精神保健看護演習 / 精神保健看護実習
- 母性保健看護演習 / 母性保健看護実習
- 小児保健看護演習 / 小児保健看護実習
- 成人保健看護演習 / 成人保健看護実習
- 老年保健看護演習 / 老年保健看護実習
- 新領域保健看護演習 / 新領域保健看護実習
- 島嶼保健看護演習 / 島嶼保健看護実習

選択科目：「生涯人間発達学」「生体機能とリスク」「疫学と保健統計Ⅰ」「ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ」「保健看護情報」
「地域文化看護論」「看護倫理」「看護コンサルテーション」「看護管理・政策」「実践臨床薬理学」
「実践ヘルスアセスメント」「実践臨床病態生理学」「医療の質保証と安全管理」「質的研究方法論」

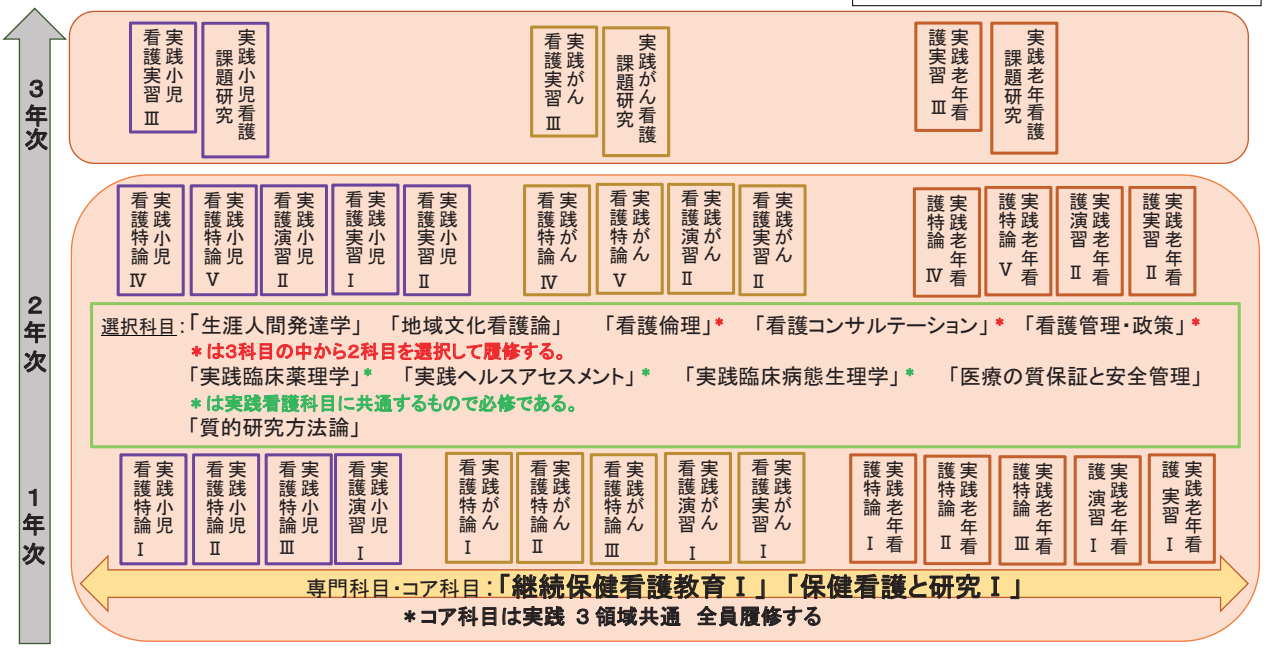
- 保健看護 管理・教育特論Ⅰ
- 地域・精神 保健看護特論Ⅰ
- 母性・小児 保健看護特論Ⅰ
- 成人・老年 保健看護特論Ⅰ
- 新領域 保健看護特論Ⅰ
- 島嶼保健看護 特論Ⅰ

専門科目・コア科目：**「継続保健看護教育Ⅰ」「保健看護と研究Ⅰ」**

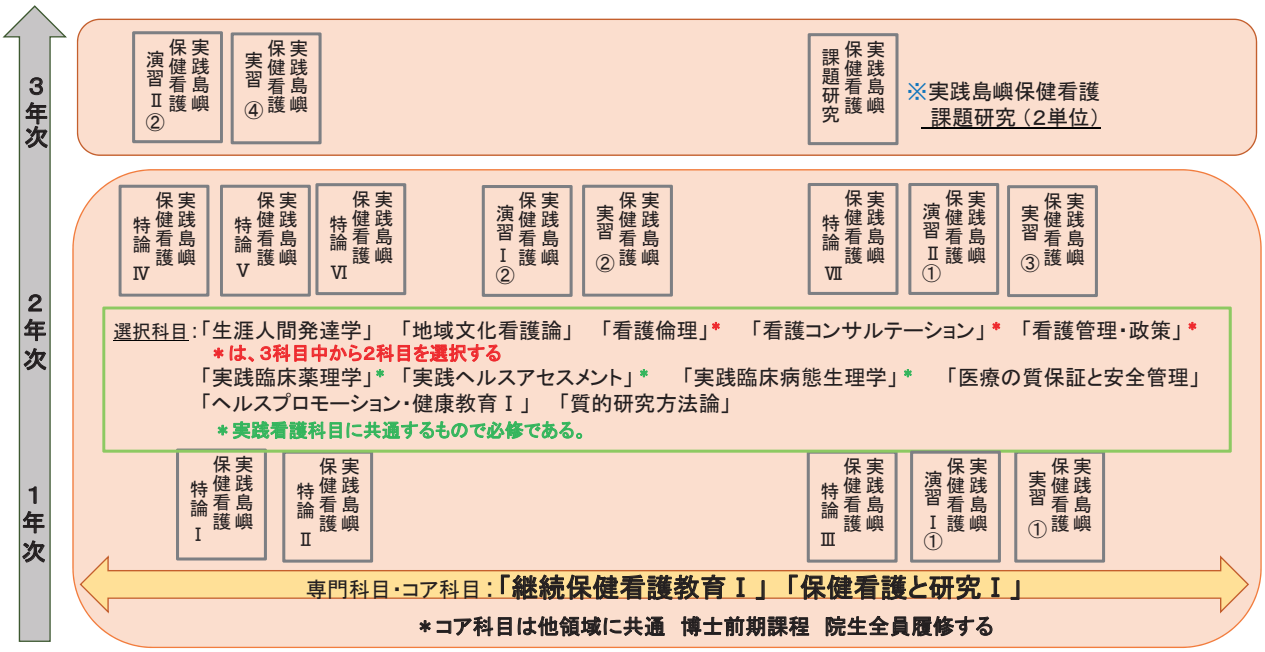
＊コア科目は3分野6領域共通　博士前期課程　院生全員履修する

博士前期 長期履修 教育課程 カリキュラムツリー（40単位以上）

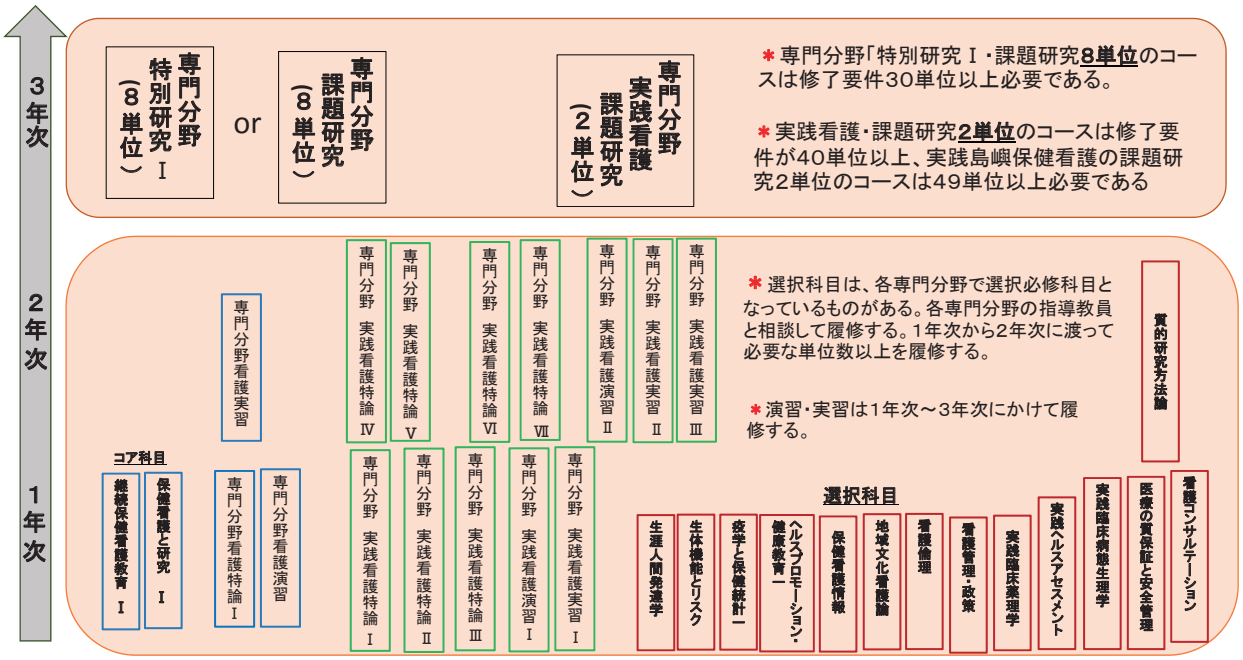
実践小児看護・実践老年看護・実践がん看護
専門領域 実践課題研究（2単位）



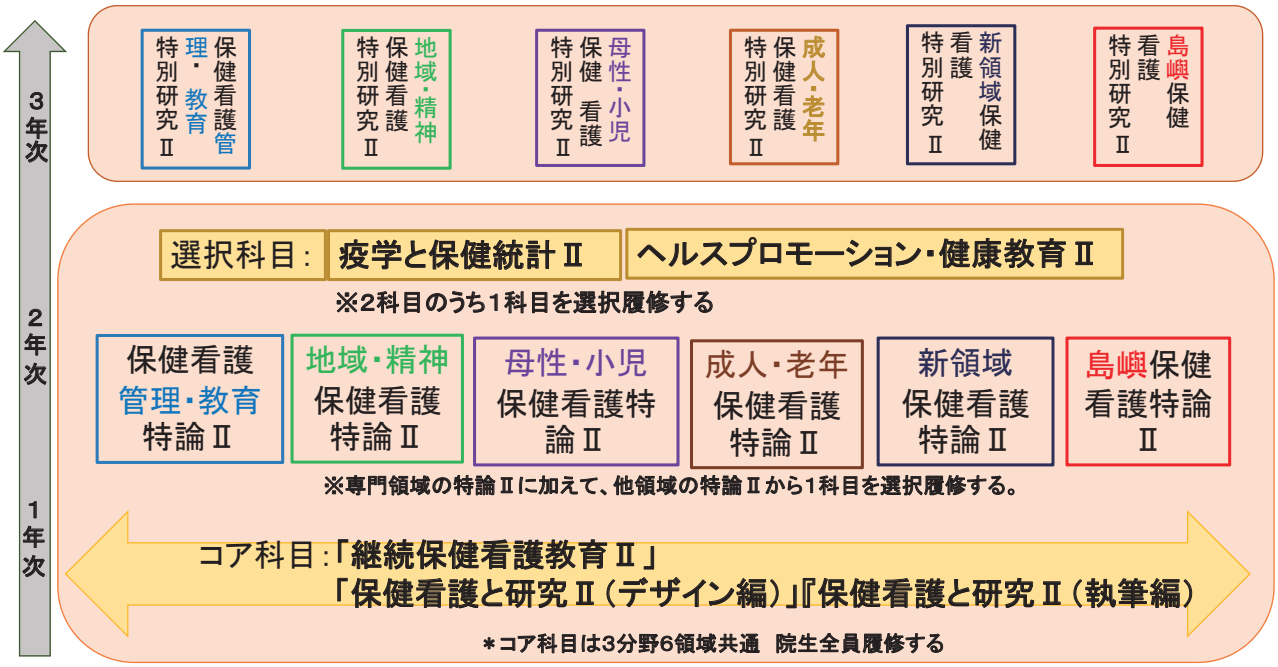
博士前期 長期履修 教育課程 カリキュラムツリー（実践島嶼保健看護 49単位以上）



沖縄県立看護大学大学院　**博士前期課程**　**長期履修**　教育課程　カリキュラムツリー（30・40・49単位）



博士後期　教育課程　カリキュラムツリー（20単位）



シ ラ バ ス 目 次

授業科目	頁
博士前期課程	
専門科目	
文化間保健看護	
保健看護管理・教育	
保健看護管理・教育特論Ⅰ	1
保健看護管理演習	2
保健看護管理実習	3
保健看護管理・教育特別研究Ⅰ	4
保健看護管理・教育課題研究	5
保健看護教育演習	6
保健看護教育実習	7
地域・精神保健看護	
地域・精神保健看護特論Ⅰ	8
地域保健看護演習	9
地域保健看護実習	10
精神保健看護演習	11
精神保健看護実習	12
地域・精神保健看護特別研究Ⅰ	13
地域・精神保健看護課題研究	14
実践精神看護特論Ⅰ	15
実践精神看護特論Ⅱ	16
実践精神看護特論Ⅲ	17
実践精神看護特論Ⅳ	18
実践精神看護演習Ⅰ	19
実践精神看護演習Ⅱ	20
実践精神看護実習Ⅰ	21
実践精神看護実習Ⅱ	22
実践精神看護課題研究	23
生涯発達保健看護	
母性・小児保健看護	
母性・小児保健看護特論Ⅰ	25
母性保健看護演習	26
母性保健看護実習	27
小児保健看護演習	28
小児保健看護実習	29
母性・小児保健看護特別研究Ⅰ	30
母性・小児保健看護課題研究	31
実践小児看護特論Ⅰ	32
実践小児看護特論Ⅱ	34
実践小児看護特論Ⅲ	35
実践小児看護特論Ⅳ	36
実践小児看護特論Ⅴ	37
実践小児看護演習Ⅰ	39
実践小児看護演習Ⅱ	41
実践小児看護実習Ⅰ	43
実践小児看護実習Ⅱ	44
実践小児看護実習Ⅲ	45
実践小児看護課題研究	46

授業科目	頁
成人・老年保健看護	
成人・老年保健看護特論Ⅰ	48
成人保健看護演習	49
成人保健看護実習	50
老年保健看護演習	51
老年保健看護実習	52
成人・老年保健看護特別研究Ⅰ	53
成人・老年保健看護課題研究	54
※CNS26 単位教育課程	
実践がん看護特論Ⅰ	55
実践がん看護特論Ⅱ	57
実践がん看護特論Ⅲ	59
実践がん看護特論Ⅳ	61
実践がん看護演習Ⅰ	63
実践がん看護演習Ⅱ	66
実践がん看護実習Ⅰ	68
実践がん看護実習Ⅱ	69
実践がん看護課題研究	70
※CNS38 単位教育課程	
実践がん看護特論Ⅰ	72
実践がん看護特論Ⅱ	74
実践がん看護特論Ⅲ	76
実践がん看護特論Ⅳ	79
実践がん看護特論Ⅴ	82
実践がん看護演習Ⅰ	84
実践がん看護演習Ⅱ	87
実践がん看護実習Ⅰ	90
実践がん看護実習Ⅱ	93
実践がん看護実習Ⅲ	98
実践がん看護課題研究	100
※CNS26 単位教育課程	
実践老年看護特論Ⅰ	102
実践老年看護特論Ⅱ	103
実践老年看護特論Ⅲ	104
実践老年看護特論Ⅳ	105
実践老年看護演習Ⅰ	106
実践老年看護演習Ⅱ	107
実践老年看護実習Ⅰ	108
実践老年看護実習Ⅱ	109
実践老年看護課題研究	110
※CNS38 単位教育課程	
実践老年看護特論Ⅰ	112
実践老年看護特論Ⅱ	113
実践老年看護特論Ⅲ	114
実践老年看護特論Ⅳ	115
実践老年看護特論Ⅴ	117
実践老年看護演習Ⅰ	119
実践老年看護演習Ⅱ	120
実践老年看護実習Ⅰ	121
実践老年看護実習Ⅱ	122
実践老年看護実習Ⅲ	123
実践老年看護課題研究	124

先端保健看護
新領域保健看護
新領域保健看護特論Ⅰ 126
新領域保健看護演習 127
新領域保健看護実習 128
新領域保健看護特別研究Ⅰ 129
新領域保健看護課題研究 130

島嶼保健看護
島嶼保健看護特論Ⅰ 131
島嶼保健看護演習 132
島嶼保健看護実習 133
島嶼保健看護特別研究Ⅰ 134
島嶼保健看護課題研究 135

実践島嶼保健看護特論Ⅰ 136
実践島嶼保健看護特論Ⅱ 137
実践島嶼保健看護特論Ⅲ 138
実践島嶼保健看護特論Ⅳ 139
実践島嶼保健看護特論Ⅴ 141
実践島嶼保健看護特論Ⅵ 142
実践島嶼保健看護特論Ⅶ 143
実践島嶼保健看護演習Ⅰ 144
実践島嶼保健看護演習Ⅱ 146
実践島嶼保健看護実習Ⅰ 148
実践島嶼保健看護実習Ⅱ 150
実践島嶼保健看護実習Ⅲ 153
実践島嶼保健看護課題研究 155

専門科目・コア科目
継続保健看護教育Ⅰ 157
保健看護と研究Ⅰ 158

選択科目
生涯人間発達学 159
生体機能とリスク 160
疫学と保健統計Ⅰ 161
ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ 162
保健看護情報 163
地域文化看護論 164
看護倫理 165
看護コンサルテーション 166
看護管理・政策 167
実践臨床薬理学 168
実践ヘルスアセスメント 169
実践臨床病態生理学 171
医療の質保証と安全管理 172
質的研究方法論 173

博士後期課程
専門科目
文化間保健看護
保健看護管理・教育
保健看護管理・教育特論Ⅱ 175
保健看護管理・教育特別研究Ⅱ 176

地域・精神保健看護
地域・精神保健看護特論Ⅱ 177
地域・精神保健看護特別研究Ⅱ 178

生涯発達保健看護
母性・小児保健看護
母性・小児保健看護特論Ⅱ 179
母性・小児保健看護特別研究Ⅱ 180

成人・老年保健看護
成人・老年保健看護特論Ⅱ 181
成人・老年保健看護特別研究Ⅱ 182

先端保健看護
新領域保健看護
新領域保健看護特論Ⅱ 183
新領域保健看護特別研究Ⅱ 184

島嶼保健看護
島嶼保健看護特論Ⅱ 185
島嶼保健看護特別研究Ⅱ 186

専門科目・コア科目
継続保健看護教育Ⅱ 187
保健看護と研究Ⅱ 188
（研究デザイン編）
保健看護と研究Ⅱ（執筆編） 190

選択科目
疫学と保健統計Ⅱ 191
ヘルスプロモーション・健康教育Ⅱ 192

博士前期課程

科　目 コード	51111	授業 科目	保健看護管理・教育特論Ⅰ Nursing and Health Administration and Education Theory　Ⅰ	担当 教員	○嘉手苅英子 宮里智子 翁長多代子（非常勤） 宮城惠子（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	保健看護サービスシステムについての理解を深め、看護職が現場で直面している課題、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる方略を学ぶ。 看護教育の特性と、我が国における看護教育の歴史的変遷を理解し、現在の問題点と今後の課題について理解する。さらに、看護と教育に共通する人間の認識およびその発展に関する理論、および教育方法に関する知識を学び、現実の問題解決にどのように活用できるかを検討する。
到達目標	1. 日本の保健医療制度の現状を分析し、保健看護管理に関する問題解決のプロセスにマネジメント・リーダーシップ理論を活用できる。 2. 変化理論を活用し、現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスについて検討する 3. 保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際を知る。 4. 保健看護管理における倫理的問題への対応を考える。 5. 看護教育、看護教育制度・教育課程の概要とその変遷について述べることができる。 6.　主な学習理論と看護教育への活用について述べることができる。 7. 人間の認識およびその発展のメカニズムについて具体例で説明でき、実践に活用できる。 8. 看護教育実践の構造を看護の原基形態の多重構造の中に位置づけて説明できる

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	保健看護管理概説	
第2回	日本の保健医療制度の動向：医療制度改革、医療提供体制・診療報酬体系	宮　里
第3回	組織行動論：人間行動理論、マネジメント機能とリーダーシップ	宮　城
第4回	組織行動論：モチベーション（動機づけ）理論、目標管理	宮　里
第5回	看護専門職技能（スキル）としてのリーダーシップ、対人関係技能	宮　城
第6回	医療の質保証：医療の質保証と医療安全	翁　長
第7回	変革のための戦略・戦術、オートノミー、アサーティブネス	宮　里
第8回	看護管理に関わる倫理的問題；患者の権利と看護者の役割、問題状況への対応	翁　長
第9回	看護教育の概念とその特性：教育とは／看護とは／看護教育とは	嘉手苅英子
第10回	看護教育制度と看護学教育課程	
第11回	学習理論と看護教育への応用	〃
第12回	看護教育に必要な認識論；認識および認識の発展	
第13回	看護の原基形態と看護教育実践の原基形態	〃
第14回	〃	
第15回	今日的課題；看護教育に関する諸報告書の概観から	〃

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する
参考文献	金井寿宏,高橋潔.(2004).組織行動の考え方.東洋経済新報社. 杉森みど里, 舟島なをみ. (2016). 看護教育学、第6版, 医学書院. 薄井坦子(2014). 科学的看護論 第３版（新装本版）. 日本看護協会出版会.
成績評価の方法	評価は講義への参加状況（発表を含む）とレポートを総合して行う。
備　考	

科　目 コード	51120	授業 科目	保健看護管理演習 Nursing and Health Administration Seminar	担当 教員	宮里　智子 非常勤（宮城惠子）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	臨床現場で直面している保健看護管理上の問題を把握し、問題解決のプロセスにそって対応策を立案し実践できる技能を身につける。
到達目標	1. 問題解決プロセス；現状把握　問題発見、原因と結果の分析、解決策の提言ができる。 2. 自分の対人関係能力に関して自己点検ができる。 3. 自分のマネジメント・リーダーシップの特性を把握できる。 4. 日本の保健医療システム、医療制度改革の方向性等に関する既存資料の分析ができる。 5. 日本の保健医療サービスの現状に対する問題を明確にできる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回 ～	保健医療福祉の現状に関する資料（既存のデータ）を保健看護管理の視点から分析・考察する。	宮　里
第5回 ～	保健看護管理の諸機能(用語の整理)；アドミニストレーションとマネジメント、スーパービジョン、コーディネーションとコンサルテーション、スタッフ＆ライン機能	宮　里
第7回 ～	保健看護管理に必要なマネジメント機能とリーダーシップ機能（自己点検）	宮　里
第9回 ～	日本の保健医療組織構造の特性と看護職の権限・責務（欧米との比較）(文献検討)	宮　里
第13回 ～	患者ケア方式(チームナーシング・プライマリーナーシング等)の特徴とナーシングリーダーシップ（実例報告）	宮　里
第17回 ～	変革のプロセス（管理的諸問題解決のための実践的アプローチ）	宮　里
第19回 ～	医療におけるリスクマネジメントと倫理的課題（事例紹介）	宮　城
第21回 ～	看護専門職のキャリア開発（文献検討）	宮　里
第25回 ～	キャリア・デザイン；自己啓発モデルの作成	宮　里
第29回 ～ 第30回	看護専門職としての自己の課題の明確化（報告会）	宮　里

テキスト	
参考文献	演習課題に沿って、事前学習に必要な文献・資料等を紹介する。
成績評価の方法	評価は演習への参加度およびプレゼンテーション、レポート等を総合して行う。
備　考	

科　目 コード	51125	授業 科目	保健看護管理実習 Nursing and Health Administration Practicum		担当 教員	○宮里智子		
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習		授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間					
授業概要	保健医療機関、訪問看護ステーションなどの活動を理解し、それぞれの現場が直面する保健看護管理上の課題解決に向けて、保健看護管理特論及び演習の学習を基に、院生が選択した課題を文化間保健看護的視点から解決する技法について実習する。							
到達目標	1. 臨床現場における保健看護管理の実際を知り，現状の問題点と今後の課題を述べる。 2. 看護職の人材育成・キャリア開発の実際を知り，現状の問題点と今後の課題を述べる。 3. 保健医療機関の機能分化に伴う保健看護管理活動の現状を理解し，今後の課題を述べる。							
回　数	授　業　内　容　及　び　計　画							担当者名
	目標１：保健医療機関の機能分化の方向性（地域包括ケアシステム）と保健看護管理の現状を理解し，今後の課題を明らかにする。 内　容：1)看護部長，看護師長の看護管理の実際に携わり，看護管理上の課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 2)病院のリスクマネジメント機能の実際を見学し，リスクマネジメント上の課題とその課題解決に向けての改善策を提言する。 3)認定看護師，専門看護師の活用の実際を理解し，看護管理上の課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 4)医療機関における機能評価システムや患者ケアシステムの実際を見学し，現行のシステムの課題と課題解決に向けて提言する。 5)機能分化に伴う保健医療施設の機能についての理解を深め，現行の課題を明確にし，その課題解決に向けての改善策を提言する。 方　法：1)実習場所：医療機関（国公立、民間病院)、その他 2)実習期間：3週間 目標２：訪問看護ステーションにおける保健看護管理の現状を理解し，今後の課題を明らかにする。 内　容：1)訪問看護ステーションの管理の実際に入り，訪問看護師と協働で在宅看護ケアを行いながら，現行の管理上における課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 2)訪問看護ステーションにおける看護実践・管理に関する自己評価システムおよび患者ケアシステムの実際を見学し，現行のシステムの課題と課題解決に向けて提言する。 方　法：1)実習場所：訪問看護ステーション 2)実習期間：１週間							宮里智子 嘉手苅英子
テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する							
参考文献	適宜、紹介する。							
成績評価の方法	評価は実習への参加状況，実習態度，成果に関するレポート等の提出物及び施設の実習担当者の情報などを参考に総合的に行う。							
備　考	学生は実習指導教員及び施設の実習担当者と連携をとりながら実習を行う。実習終了後，学習したことをレポートとして提出する。							

科　目 コード	51133	授業 科目	保健看護管理・教育特別研究 I Nursing and Health Administration and Education Special Study I	担当 教員	◎嘉手苅英子 ◎宮里智子
開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・特別研究
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間	授業 形態	演習
授業概要	保健看護管理・教育領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。				
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。				

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月　入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月　研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	嘉手苅英子 宮里智子
2 年次	10 月（4 月）　研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月）　修士論文 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月）　中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月）　論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月）　公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	指定なし。関連資料、文献などを適宜配布する
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆記による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	51141	授業科目	保健看護管理・教育課題研究 Nursing and Health Adminstration and Education Problem Study	担当教員	◎嘉手苅英子 ◎宮里智子

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	保健看護管理・教育領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。

回数	授業内容及び計画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	嘉手苅英子 宮里智子
2年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 課題研究 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 課題研究審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（ ）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	指定はない。関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆頭）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科　目 コード	51720	授業 科目	保健看護教育演習 Nursing and Health Education Seminar	担当 教員	○嘉手苅英子 栗原　幸子

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	看護教育の今日的課題について文献を通して理解する。さらに、看護教育実践を対象とした研究方法論の基礎を学ぶ。
到達目標	1. 看護教育のカリキュラム、授業計画・展開・評価の概要を説明できる。 2. 看護実践現場における指導者の役割と育成について説明できる。 3. 関心のある看護教育上の課題について文献検索し、内容の批判的読み取りを通して明らかにされていることと今後の課題を見出し、その結果を記述できる。 4. 自己の看護教育実践を客観視し、原基形態に沿って記述し、論理を抽出できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	１．看護教育のカリキュラム	嘉手苅
第3・4回	２．看護実践能力とその評価	
第5・6回		
第7・8回	３．看護技術の構造と修得過程	栗　原
第9・10回	４．看護技術教育方法	栗　原
第11・12回	５．教育評価	
第13・14回		
第15・16回	６．実践現場における指導者の役割と育成	
第17・18回	臨地実習指導者、プリセプター	
第19・20回		
第21・22回	７．看護教育上の自己の関心について文献を検索し、批判的に読み取る。	
第23・24回	文献レビュー	
第25・26回		
第27・28回	８．自己の看護教育実践の中で印象に残っている体験の再構成と分析	栗　原
第29・30回		

テキスト	指定なし。関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	薄井坦子(2014).科学的看護論 第３版（新装本版）.日本看護協会出版会. 薄井坦子(編)(2009).Module方式による看護方法実習書 第３版.現代社. 杉森みど里,舟島なをみ.（2016）. 看護教育学、第6版,医学書院. 梶田叡一（2010）. 教育評価 第２版補訂２版.有斐閣双書.
成績評価の方法	評価は授業への参加状況：討議の準備や参加（50点）と課題レポート（50点）により行う。
備　考	授業はゼミ形式で行なう。

科目コード	51725	授業科目	保健看護教育実習 Nursing and Health Education Practicum	担当教員	○嘉手苅 英子 栗原　幸子

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間				

授業概要	看護基礎教育および継続教育の場で、各自の問題意識と能力に応じて見学または教育実践を行い、看護職者の育成を目指した看護教育の実際と課題について理解する。さらに、自己の看護教育実践を客観視し、自己評価する能力を高める。
到達目標	1. 看護基礎教育と継続教育の共通性と相異性について述べることができる。 2. 看護教育における教育目標―教育方法―教育評価の流れを、具体例で説明できる。 3. 自己の看護教育実践の特徴を客観視し、看護教育者としての課題を述べることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	看護教育に関する問題意識や関心を整理して実習計画を立て、計画に沿って実習を行う。計画の中には、いずれかのフィールドにおいて教育者の立場からの実践を組み入れる。 実習の前に １．問題意識（課題）や能力に応じて実習フィールドおよび参加形態、期間を決める。 ２．実習フィールドとして看護基礎教育および継続教育の中から選択する。 看護基礎教育（例） 沖縄県立看護大学における教育（授業、演習、実習） 継続教育（例） 看護職能団体における研修会 病院看護部における現任教育 病棟におけるプリセプター教育 ３．実習フィールドにおける看護教育の特徴について事前学習を行う。 ４．実習課題および参加形態について、担当教員を含めて実習先と調整を行う。 実習期間中 １．実習先の教育活動の流れに沿って参加し、適宜、実習先の指導者とカンファレンスを行う。 ２．実習の中間および終了時に担当教員を含めて実習課題の到達状況に関してカンファレンスを行う。 実習終了後、実習課題に関してレポートを作成する。	嘉手苅英子 栗原　幸子

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	適宜，指定する
成績評価の方法	実習への参加および課題レポートを総合して行う
備考	

科　目 コード	51211	授業 科目	地域・精神保健看護特論Ⅰ Community and Mental Health and Psychiatric Nursing　Theory Ⅰ	担当 教員	○川崎道子、　未定 大湾明美、牧内忍 大川嶺子

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	地域の健康課題の変遷を踏まえ、その解決に必要な理念、技術について実践例より理解する。また、人格の発達や生活の場におけるメンタルヘルス及び精神保健医療福祉の変遷や関係法・制度と人権擁護･倫理的観点について、文献を通して様々な視点から理解する。
到達目標	1. 諸外国および我が国の精神保健福祉の歴史的背景について批判的視点から記述できる。 2. 人格の発達や生活の場におけるメンタルヘルスの現状と課題について記述できる。 3. 精神保健福祉に関連する法律・制度・社会資源および精神科リハビリテーションにおける看護職の役割について記述できる。 4. 地域の健康課題解決のための保健計画の立案及び実施を評価し改善策を提案できる。 5. 地域の健康課題をヘルスプロモーションの視点から地域組織の支援、地域ケアシステムの構築のあり方について記述できる。 6. 地域における看護管理と活動での倫理的問題・その対応について記述できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	精神保健福祉の動向１：精神保健福祉法や関連法	未定
第２回	〃　　２：精神科リハビリテーション	〃
第３回	〃　　３：社会資源とネットワーク	〃
第４回	精神保健医療・看護の変遷：諸外国、日本、沖縄	大川嶺子
第５回	社会とメンタルヘルス	未定
第６回	人格の発達と場(家庭・学校・職場・地域等)におけるメンタルヘルスの	〃
	現状と課題	〃
第７回	精神保健福祉分野における法的・倫理的問題と看護職の役割	〃
第８回	健康課題の変遷（法律・制度）と公衆衛生看護活動	川崎道子
第９回	公衆衛生看護の歴史（欧米、日本、沖縄）及び公衆衛生看護教育	〃
第10回	公衆衛生看護のアセスメントと活動の展開過程（PDCA）	牧内　忍
第11回	ヘルスプロモーション（地域の健康づくり）と地域組織への支援・評価	川崎道子
第12回	地域の健康課題と地域ケアシステムの構築及び施策化	大湾明美
第13回	健康危機管理（災害・感染症等)、公衆衛生看護管理及び公衆衛生看護	川崎道子
第14回	活動における倫理的問題	〃
第15回	まとめ	川崎・未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	1)「我が国の精神保健福祉」（精神保健福祉研究会　監修） 2)随時、文献・資料を紹介、もしくは学生が収集し、検討する。
成績評価の方法	授業参加状況、自己学習の状況とレポート等を総合して評価する。
備　考	

科目コード	51220	授業科目	地域保健看護演習 Community Health and Nursing Seminar		担当教員	○川崎道子、大湾明美 牧内忍、知念真樹	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				
授業概要	地域社会で生活する人々の健康レベルに合わせた支援の理論および実践について、文献抄読・事例検討・講義・討論等により学習し、看護実践と教育・研究に応用する能力を養う。						
到達目標	1. 生活する人々の状況を学際的･広域的な視野でとらえ、課題を検討することができる。 2. 地域における人々の健康ニーズに基づく対策について検討することができる。 3. 地域保健看護活動における業務の科学的な展開を推進することができる。 4. 文献の活用･事例検討・討議等の理論と実際を実務の場で用いることができる。						

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1・2回	人々の生活と健康	川崎道子 大湾明美 牧内忍 知念真樹
第3・4回	〃	
第5・6回	地域における人々の健康課題	
第7・8回	〃	
第9･10回	地域診断の実際	
第11･12回	〃	
第13･14回	地域保健看護活動方法の理論と応用	
第15･16回	〃	
第17･18回	地域保健看護活動に用いる技術	
第19･20回	〃	
第21･22回	地域保健看護活動計画の実際	
第23･24回	〃	
第25･26回	地域保健看護活動におけるリーダーシップ	
第27･28回	〃	
第29･30回	まとめ	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随時、文献・資料を紹介する。
成績評価の方法	各学生の授業に臨む準備状況、討論への参加度、プレゼンテーション、課題レポート等により評価する。
備考	学生は科学的な業務展開のリーダーシップを養うことを意識して､自主的に授業に参加する。

科　目 コード	51225	授業 科目	地域保健看護実習 Community Health and Nursing Practicum	担当 教員	○川崎道子、大湾明美 牧内忍、知念真樹

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	地域保健看護特論Ⅰ・地域保健看護演習の学習成果を基にして、地域保健看護の場で直面している地域保健看護上の課題解決や研究を図る方法を学ぶ。
到達目標	1. 地域保健看護の実践現場の組織・運営上の課題を分析できる。 2. 地域保健看護の対象のヘルスニーズを分析できる。 3. 地域保健看護の質向上と課題解決について関係者と検討できる。 4. この分野の研究遂行上の課題や倫理的配慮を検討できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
4週間	１．実習日時と実習内容は、学生の研究課題に基づいて、実習受け入れ機関と調整する。 実習機関の例　（一つまたは複数の機関で実習する） ①病院相談部門 ②保健所 ③市町村役場・保健センター ④地域包括支援センター ⑤小学校・中学校・高等学校保健室 ⑥事業所健康管理部門 ⑦老人保健施設・介護老人福祉施設 ⑧訪問看護ステーション ⑨グループホーム ⑩NGO/NPO 団体等 ２．実習計画書を作成、提出する。 ３．実習機関の関係者等とのカンファレンスを行う。 ４．研究課題に関する実習成果について、実習実施報告書を提出する。	川崎道子 大湾明美 牧内忍 知念真樹

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要時、文献･資料を紹介する。
成績評価の方法	各学生の実習に臨む準備状況、自主的な実習実施状況、実習計画書･実習実施報告書等により評価する。
備　考	学生は自らの研究課題に基づいて実習計画を作成し、教員および受け入れ機関職員と十分な調整を行った上で、自主的に実習を実施する。

科目コード	51320	授業科目	精神保健看護演習 Mental Health and Psychiatric Nursing Seminar	担当教員	○未定 大川嶺子

開講年次	博士前期課程 1年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	精神看護に必要な基本的精神看護理論、精神療法、対人関係論などについて演習する。また、文献学習や事例を用いて、実践領域におけるセラピーの活用方法を学ぶ。
到達目標	1. 精神看護に必要な基本的看護理論や概念に関する文献学習を通し、実践への活用と評価(効果)について理解する。 2. 精神看護の関連技法の演習や実践事例の検討をとおし、自分自身を洞察し自分自身の看護実践について多方面から概観できる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1･2回	精神看護に関する看護理論 1：精神力動看護	未定
第3･4回	精神看護に関する看護理論 2：対人関係理論	大川嶺子
第5･6回	精神看護に関する看護理論 3：セルフケア理論	
第7･8回	精神看護の関連技法に関する文献講読： リラクゼーション技法、ホリスティックアプローチ	
第9･10回	リラクゼーション技法の適用 ：不安・不眠・痛み	
第11･12回	疾患･治療に関する理論等 1：ストレス脆弱性モデル､危機モデル	
第13･14回	疾患･治療に関する理論等 2：医学モデル、生活モデル ストレングス・リカバリー	
第15･16回	疾患･治療に関する理論等 3：学習理論 認知行動療法、心理教育、生活技能訓練	
第17･18回	臨床で関わった事例についての検討①②	
第19･20回	〃	
第21･22回	事例のアセスメント①②	
第23･24回	〃	
第25･26回	精神看護専門職者の役割と多職種との連携	
第27･28回	事例検討・文献学習を通して自己の実践課題を明確化し、レポートを作成	
第29･30回	する。これらを実習や看護実践に役立てる。まとめ	

テキスト	南裕子監修.(2010).精神科看護の理論と実践.ヌーヴェルヒロカワ.
参考文献	その都度文献・資料を収集し講義・討議する。
成績評価の方法	演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備考	

科　目 コード	51325	授業 科目	精神保健看護実習 Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum	担当 教員	○未定 大川嶺子、村上満子

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	病院・精神保健施設・行政機関や保健所及び市町村等の施設において、対象者へケアを実施しながら、ケース間のグループダイナミックス、多職種連携、コンサルテーション、コーディネーション、などについて体験学習する。
到達目標	1. 精神保健看護特論Ⅰおよび精神保健看護演習で学んだことを基に、各種精神保健関連施設において看護ができる。 2. 対象者へ精神看護アセスメントを実施し、対象者の看護計画を記述できる。 3. 看護計画にそって、看護実践を展開・評価し、事例報告ができる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
実習期間	平成　年　月　日（　）～　月　　日（　）の間	未定 大川嶺子 村上満子
2週間以上	1)急性期の患者を2例の看護実践 実習施設：医療法人卯の会　新垣病院　または 医療法人天仁会　天久台病院	
2週間以上	2)慢性期･回復期にある対象を2例受け持ち､到達目標に沿って実習する。 実習施設：県立精和病院 その他、精神保健福祉施設など ◆ケースカンファレンス：指導教員のスーパービジョンを受けながら、定期的にカンファレンスを実施し、受持事例について検討する。 ◆ケースレポートの作成：急性期の患者及び慢性期・回復期の患者について、それぞれ1例についてケースレポートを作成し、アセスメント～看護実践までの一連の看護実践について評価し考察する。	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	適宜参考文献・資料収集などを行い検討する。
成績評価の方法	レポート、実習態度、実習施設職員からの客観的評価などを総合して評価する。
備　考	

科目コード	51233	授業科目	地域・精神保健看護特別研究 I Community and Mental Health and Psychiatric Nursing Special Study I	担当教員	◎川崎道子、◎大湾明美、大川嶺子、　村上満子、牧内忍

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目分類	専門科目・特別研究	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	地域・精神保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月　入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月　研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	川崎道子 大湾明美 大川嶺子 村上満子 牧内忍
2年次	10月（4月）　研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月）　修士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月）　中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月）　論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月）　公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示し検討する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科　目 コード	51234	授業 科目	地域・精神保健看護課題研究 Community and Mental Health and Psychiatric Nursing Problem Study	担当 教員	◎川崎道子,◎大湾明美、大川嶺子、村上満子、牧内忍

開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				

授業概要	地域及び精神保健看護領域に関連した現場の中から自ら選択した課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月　入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 　　履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月　研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 　　研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 　　データ収集・分析	川崎道子 大湾明美 大川嶺子 村上満子 牧内忍
2 年次	10 月（4 月）　研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 　　主査・副査の決定 　　考察･論文作成 12 月（6 月）　課題研究 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月）　中間発表会 ＊ 　　課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月）　課題研究審査・最終試験 ＊ 　　合否および修了判定 3 月（9 月）　公開発表会 ＊ 　　課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆頭）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	51341	授業科目	実践精神看護特論Ⅰ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅰ	担当教員	○未定、大川嶺子 村上満子 谷所敦史（非常勤） 西谷博則（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	精神保健医療福祉の変遷、制度や体制等について、文献を通して様々な視点から学び、現在の精神保健福祉法を人権擁護・倫理的観点から把握するとともに、生活の場におけるメンタルヘルスについて、関係法との関連性を理解する。
到達目標	1. 諸外国および我が国の精神保健福祉の歴史的背景について批判的視点から記述できる。 2. 精神保健福祉法の現状を理解し、現体制における倫理的問題と看護職の役割を概観できる。 3. 生活の場におけるメンタルヘルスの現状と課題および法制度との関連について記述できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	精神障害者を取り巻く社会状況の変化	未定
第２回	社会とメンタルヘルス	〃
第３回	現代の精神保健：①精神保健とは　②心の健康　③ストレスなど	〃
第４回	精神保健医療・看護の変遷　1：諸外国　2：日本　3：沖縄	大川嶺子
第５回	精神保健福祉の動向　1：法改正と患者の人権擁護	谷所敦史
第６回	〃　〃　2：障害者基本法 と社会参加	（非常勤）
第７回	〃　〃　3：ソーシャル　サポート（社会資源）	〃
第８回	〃　〃　4：障害者基本法と自立支援法	〃
第９回	〃　〃　5：心身喪失者等医療観察法と司法精神看護	西谷博則
第10回	〃　〃　〃	（非常勤）
第11回	家庭におけるメンタルヘルスの現状と課題：①国民の心の健康づくり　②自殺対策基本法　③DV予防法等との関係	未定・村上
第12回	学校におけるメンタルヘルスの現状と課題：①学校保健安全法と児童生徒の心身の健康　②発達障害者支援法等との関係	〃
第13回	職場におけるメンタルヘルスの現状と課題：①職場のメンタルヘルス対策（メンタルチェック）　②THPにおける健康づくり等との関係	〃
第14回	精神保健福祉分野における法的・倫理的問題と看護職者の役割	〃
第15回	まとめ	〃

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	1)「我が国の精神保健福祉」（精神保健福祉研究会　監修） 2)学生および教員が各々分担し、文献・資料を収集し討議する。
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

科　目 コード	51342	授業 科目	実践精神看護特論Ⅱ Practical Mental Health and Psychiatric　Nursing Theory Ⅱ	担当 教員	○未定 大川嶺子・村上満子

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	精神看護に必要な基本的精神看護理論、対人関係論などを学び、対象の精神の健康状態をアセスメントし看護支援を展開するための基本について学ぶ。
到達目標	1. 精神看護に必要な基本的な概念や理論を活用し、精神の健康状態をアセスメントできる。 2. 対象をアセスメントし、適切な看護過程の展開について記述できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	実践精神看護における精神の健康状態のとらえ方	未定
第2回	精神障害の捉え方	
第3回	人格の発達と精神の健康状態：出生前期～乳児期	〃
第4回	〃　：学童期～思春期	
第5回	〃　：成人期	〃
第6回	〃　：老年期	
第7回	精神の健康状態のアセスメント：精神症状と状態像	村上満子
第8回	①不安状態・攻撃性を示す患者	
第9回	〃　②対人関係障害のある患者	〃
第10回		
第11回	〃　③思考障害のある患者	大川嶺子
第12回		
第13回	〃　④気分・感情障害のある患者	〃
第14回		
第15回	まとめ	未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

科目コード	51343	授業科目	実践精神看護特論Ⅲ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing TheoryⅢ	担当教員	○未定 前田浩　（非常勤） 山田　豊（非常勤） 仲本晴男（非常勤） 島袋静香（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	精神医療領域で使われる個人および集団を対象とした精神療法の基礎について学び、看護援助としての活用方法を考える。
到達目標	1. 精神看護の関連技法の概要と特徴について理解する。 2. 各種の治療法の概要と特徴を理解し、看護との関係及び看護への活用を考える。

授業回数	授業内容及び計画		担当者名
第1回	精神看護の関連技法における看護の役割		未定
第2回	精神看護と関連技法①：ホリスティックアプローチ リラクゼーション		
第3回	精神看護と関連技法②	精神科薬物療法	前田　浩
第4回	〃	〃	（非常勤）
第5回	精神看護と関連技法③	生活療法（社会生活技能訓練）	山田　豊
第6回	〃	〃	（非常勤）
第7回	精神看護と関連技法④	認知行動療法	仲本晴男
第8回	〃	〃	（非常勤）
第9回	〃	〃	〃
第10回	〃	〃	
第11回	精神看護と関連技法⑤	家族療法(1)	島袋静香
第12回	〃	〃	（非常勤）
第13回	精神看護と関連技法⑥	家族療法(2)	〃
第14回	〃	〃	
第15回	まとめ		未定

テキスト	坂田三允 総編集.(2005).精神看護エクスペール13　精神看護と関連技法.中山書店.
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

科　目 コード	51344	授業 科目	実践精神看護特論Ⅳ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅳ	担当 教員	○未定

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	精神看護領域における基本的な援助技術についての理論と技術を学ぶ。
到達目標	1.精神看護領域における対象との治療的人間関係に関する理論を理解し，実践への応用を考える。 2.精神看護実践における基本的な援助方法に関する理論を理解し，適切にアセスメントができる。 3.精神看護実践において理論を活用する際の専門看護師の役割行動を理解する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	精神看護実践のための対象理解の理論	未定
第２回	①エリクソン発達理論	
	②精神分析論，防衛機制	
第３回	〃　③ストレス脆弱性・対処モデル	
第４回	④ニーズ論	
第５回	〃　⑤セルフケア論	
第６回	⑥対人関係論	
第７回	精神科リハビリテーション看護　ストレングス・リカバリー①②	
第８回	〃	
第９回	精神看護実践における危機状況と看護アセスメント①②	
第10回	〃	
第11回	精神障害者の文化的背景の理解と受療継続への援助①②	
第12回	〃	
第13回	精神看護専門職者の役割と多職種との連携	
第14回	チーム医療における精神専門看護師の役割	
第15回	まとめ	

テキスト	Gail W Stuart他編著,安保寛明,宮本有紀監訳.(2007).精神科看護―原理と実践.医学書院.
参考文献	1)A OTooL他編,池田明子他訳.ペプロウ看護論 看護実践における対人関係論.医学書院. 2)Orem DE著,小野寺杜起訳.オレム看護論,看護実践における基本概念.医学書院.
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

科目コード	51345	授業科目	実践精神看護演習Ⅰ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing SeminarⅠ	担当教員	○未定　大川嶺子 渡久山朝裕　村上満子 高江洲義英（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	精神看護に必要な基本的精神看護理論、精神療法、対人関係論などについて演習する。 また、文献学習を通して各自の関心のある実践領域におけるセラピーの活用法を考える。
到達目標	1. 精神看護に必要な精神療法に関する文献学習を通し，実践への活用と評価(効果)について理解する。 2. 精神看護の関連技法の演習をとおし、自分自身の実践課題について多方面から検討できる。

授業回数	授業内容及び計画	担当者名
第1･2回	精神看護に必要な精神療法に関する文献学習：	未定
第3･4回	①集団療法および個人療法 ②家族療法および心理教育	〃
第5･6回	精神力動看護，対人関係に関する文献講読	村上満子
第7･8回	〃	〃
第9･10回	リラクゼーション技法に関する文献講読：	大川嶺子
第11･12回	ホリスティックアプローチ(呼吸法・漸進的筋弛緩法等)	〃
第13･14回	リラクゼーション技法の適用 ：不安・不眠・痛み	〃
第15･16回	〃	〃
第17･18回	心理療法（講義・体験学習）	渡久山朝裕
第19･20回	対人関係技法（講義・体験学習）	〃
第21･22回	自律訓練法（講義・体験学習）	〃
第23･24回	〃	〃
第25･26回	芸術療法　（見学・体験学習）	高江洲義英
第27･28回	①絵画療法　②音楽療法　③園芸療法　その他	(非常勤)
第29･30回	まとめ	未定

テキスト	坂田三允 総編集.(2005).精神看護エクスペール13　精神看護と関連技法.中山書店.
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。
成績評価の方法	演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備考	

科　目 コード	51346	授業 科目	実践精神看護演習Ⅱ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Seminar Ⅱ	担当 教員	○未定 大川嶺子

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演　習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	精神看護領域における基本的な援助技術について演習する。また、事例検討や文献学習を通して自己の実践課題を明確化する。
到達目標	1. 事例検討を通して、自分の看護実践をふりかえり、アセスメント能力を高める。 2. 対応困難な患者の看護場面の「再構成」を用いて、患者との相互作用を分析する。 3. 関連文献の学習を通して、自己の実践課題を明確化する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第 1･2 回	臨床で関わった事例についての検討 ①	大川嶺子
第 3･4 回	〃　②	〃
第 5･6 回	事例のアセスメント　セルフケア論	〃
第 7･8 回	上記事例①について；文献学習により理解を深める。 事例報告書を作成する。	〃
第 9･10 回	上記事例②について；文献学習により理解を深める	〃
第 11･12 回	事例報告書を作成する。	〃
第 13･14 回	事例のアセスメント　看護過程の展開と看護診断	未定
第 15･16 回	〃	〃
第 17･18 回	看護場面の再構成法	〃
第 19･20 回	①対応困難場面を再構し，自己洞察を深める。	〃
第 21･22 回	②コミュニケーション技法を意識した効果的な援助技術を高める。	〃
第 23･24 回	〃	〃
第 25･26 回	事例検討・文献学習を通して自己の実践課題を明確化し、	〃
第 27･28 回	レポートを作成する。これらを実習や看護実践に役立てる。	〃
第 29･30 回	まとめ	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	宮本真巳．(1995)．看護場面の再構成．日本看護協会出版会．
成績評価の方法	演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

科目コード	51347	授業科目	実践精神看護実習Ⅰ Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum Ⅰ	担当教員	○未定 大川嶺子・村上満子

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間				

授業概要	病院・精神保健施設等の実習施設において、対象者に直接的ケアを実施しながら、ケース間のグループダイナミックス、コンサルテーション、コーディネーションなどについて体験学習する。
到達目標	1. 実習施設において人権に配慮したモデルとしての看護が実施できる。 2. 対応困難な患者に対する看護過程を展開し、その結果を評価し、事例報告ができる。 3. 看護スタッフの機会教育の場としてケースカンファレンスを活用する。

回数	授業内容及び計画	担当者名
実習期間 3週間	平成　年　月　日(　)～　月　日(　) 1）急性期の患者を2例（対応困難事例を含む）受け持ち、 到達目標に沿って実習する。 実習施設：医療法人卯の会　新垣病院（於：精神科救急病棟）	(実習調整) 看護部長 (実習指導) 病棟課長
3週間	平成　年　月　日(　)～　月　日(　) 2）慢性期・回復期にある対象者を2例（対応困難事例を含む） 受け持ち、到達目標に沿って実習し、社会復帰に向けての 地域内の関係機関・施設・家族への支援を行う。 実習施設：県立精和病院	(実習調整) 看護部長 (実習指導) 看護師長・ 専門看護師
	*ケースカンファレンス；指導教員のスーパービジョンをうけながら、 定期的にカンファレンスを実施し、受持ち事例について検討する。 *ケースレポートの作成：対応困難事例についてケースレポートを 作成し、看護実践上の課題について考察する。	未定 大川嶺子

**テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	1)宇佐美しおり,野末聖香.（2009）.精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2)適宜参考文献・資料等を収集・提示し講義検討を行う。
成績評価の方法	レポート、実習先での実習態度、実習施設職員からの客観的評価などを総合して評価を行う。
備考	

科　目 コード	51348	授業 科目	実践精神看護実習Ⅱ Mental Health and Psychiatric Nursing　Practicum　Ⅱ	担当 教員	○未定 大川嶺子

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	90時間				

授業概要	精神看護専門看護師の働いている施設で実習し、専門看護師の役割･機能の実際を学ぶ。
到達目標	1. 組織の中での専門看護師の位置づけ、活用のされ方、看護管理者との関係などを知る。 2.　専門看護師と共にコンサルテーション、コーディネーションなどを体験学習する。 3.　専門看護師の教育研究活動の実際を知り、可能な範囲で活動に参加する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
実習期間 3週間	専門看護師に同行し、実際の活動を体験学習する。 ＊実習施設（県内）；医療法人天仁会　天久台病院 実習期間；平成　　年　（2週間） ＊実習施設（県外）；医療法人社団碧水会　長谷川病院 実習期間；平成　　年　（1週間以上） １）ＣＮＳの指導を受けながら実際の活動に参加し、 専門看護師に に求められる役割・機能（実践、教育、相談、調整,研究、倫理）に ついて体験学習する。 ２）実習Ｉで習得した知識・技能と照合しながらＣＮＳの役割行動 について考察し、実習レポートを作成する。 ３）実習レポートに基づいて担当教員とカンファレンスを行い、 今後の課題を明確化する。 専門看護師および指導教員のスーパーバイズを受ける。	（専門看護師） （専門看護師） 未定 大川嶺子

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	宇佐美しおり・野末聖香編「精神科スペシャリストに必要な理論と技法」（日看協出版会） 井部俊子他「専門看護師の志向と実践」（医学書院）
成績評価の方法	レポート、実習先での実習態度、実習指導者からの客観的評価などを総合して評価する。
備　考	

科　目 コード	51349	授業 科目	実践精神看護課題研究 Mental Health and Psychiatric Nursing Problem Study		担当 教員	◎未定 大川嶺子 村上満子		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究		授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	精神看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	未定 大川嶺子 村上満子
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

２年次 ３年次	＜4月～3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。 4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭又は筆答による）を行う。	
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。	

科目コード	51410	授業科目	母性・小児保健看護特論 I Maternal Child Health Nursing Theory I	担当教員	○永島すえみ 未定（母性）
開講年次	博士前期課程 1 年次前期	単位数	2 単位	科目分類	専門科目・特論
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30 時間	授業形態	講義
授業概要	生涯発達の視点から子どもと女性・母親および彼らと生活を共にする家族の健康問題や国内外の母子保健看護上の今日的課題を理解できるように、幅広く関連ある概念と諸理論を学ぶ。また、彼らの健康をアセスメントし評価する方法と技法、および解決方法や支援方法の基礎となる最新の理論について学ぶ。				
到達目標	1．国内外の母子保健看護上の課題と健康問題、その背景を説明できる。 2．諸理論を用いて家族発達について説明できる。 3．女性の健康に関する現在の課題について説明できる。 4．子どもおよび女性の健康状態のアセスメントと評価の方法を述べることができる。 5．子どもと両親、女性、家族の健康問題に対する支援、問題解決方法を説明できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
第 1 回	国際、日本、および沖縄における母子保健看護上の課題	永島すえみ
第 2 回	子どもとその家族の権利保障と Family-centered Care	
第 3 回	資源、医療サービスと母子保健看護上の課題との関係	
第 4 回	人間の生涯発達の視点からの健康上の課題解決方法の探索	
第 5 回	家族に関する諸理論の理解	
第 6 回	子どもの自己概念・自尊心の発達	
第 7 回	成長、発達、健康状態の専門的アセスメント方法と技法および評価の理論	
第 8 回	評価に基づく支援方略の理解	
第 9 回	リプロダクティブ、ヘルス／ライフの理解①	未定
第 10 回	リプロダクティブ、ヘルス／ライフの理解②	
第 11 回	母子と家族の変遷および健康問題と支援	
第 12 回	Woman’s Health とリサーチ	
第 13 回	Woman’s Health とリサーチ	
第 14 回	母子関係とリサーチ	
第 15 回	母子保健看護の今後の方向	

テキスト	Hockenberry & Wilson (eds).(2011).Wong’s Nursing Care of Infants and Children 9th .Mosby.
参考文献	必要に応じて参考書、文献等は別途指示する。
成績評価の方法	授業への参加状況、討論への貢献度、レポート等により総合的に判定する。
備考	各教員が専門的立場から集中講義方式で行なう。事前に課題を提示する。各自文献講読により準備をし、各自の発表と討論により理解を深める。

科　目 コード	51420	授業 科目	母性保健看護演習 Maternal Health　Nursing　Seminar	担当 教員	○未定（母性）

開講年次	博士前期課程 １年次前期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60 時間				

授業概要	母性保健看護がエビデンスに基づいて実践できるよう重要な概念、理論を国内外の文献を批判的に講読し分野の知識を深め、研究課題や実習課題を明確にできるようにする。
到達目標	１．母性保健看護における重要な概念を理解することができる。 ２．文献検討・事例検討により母性保健看護分野の知識を深め、研究方法や問題解決方法について理解できる。 3. 文献検討や事例検討を通して看護実践上の重要課題を導くことができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１・２回	日本の産科医療の現状（ディスカッション）	未定
第３・４回	妊産婦の身体的な健康上の問題に関する文献検討	
第５・ ６回	妊産婦の心理社会的特徴と看護問題に関する文献検討	
第７・８回	母子関係に関する文献検討	
第9・ 10回	ハイリスク妊産婦に関する文献検討	
第 11・12 回	同上（レポート１：第１回から第 12 回までの中から関心のあるテーマについてレポート作成・提出）	
第13・14回	ハイリスク褥婦に関する文献検討	
第15・16回	褥婦の心理社会的問題に関する文献検討	
第17・ 18回	ハイリスク新生児に関する文献検討	
第19・ 20回	ハイリスク妊婦及び新生児管理の地域との連携に関する文献検討 （レポート２：第 13 回から第 20 回までの中から関心あるテーマについてレポート作成・提出）	
第 21・22 回	思春期女性の保健看護上の問題に関する文献検討	
第23 ・24回	同上	
第25・ 26回	更年期女性の健康問題に関する文献検討	
第27・ 28回	婦人科疾患をもつ女性の看護問題に関する文献検討 （第 22 回から第 28 回までの中から関心のあるテーマについてレポート作成・提出）	
第29回 ～ 30回	総括	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	国内外の文献を中心に批判的文献講読を行なう。
成績評価の方法	評価は授業への参加状況、授業態度、プレゼンテーション、レポート等を総合して行なう。
備　考	

科目コード	51421	授業科目	母性保健看護実習 Maternal Health Nursing Practicum	担当教員	○未定（母性）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	医療機関、行政機関、福祉保健所・市町村の保健センター、それぞれの現場が直面している母性保健看護管理上の課題解決のため、母性保健看護特論Ⅰ及び母性保健看護演習の学習を基に、生涯発達保健看護的視点から現場における課題解決技法を学習する。ケースを担当し、アセスメント能力、ケアの質の評価、調整能力などスーパービジョンを受けながら実習する。
到達目標	1.看護の難しい妊産褥婦と家族ならびに女性一般の看護問題を特定できる。 2.生涯発達的視点から妊産褥婦と家族ならびに女性一般のケアを計画できる。 3.妊産褥婦と家族ならびに女性一般へ教育を計画し、実施できる。 4.妊産褥婦と家族ならびに女性一般への看護を実践し、分析・評価できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1週	母性保健看護領域の中から興味のあるテーマに適切な実習施設・機関・場を決定し、実習計画を立てる	未定
第2週	臨床実習	
第3週	臨床実習	
第4週	臨床実習	
第5週	分析および報告書作成 興味のあるテーマと実習施設の例 例1．リスクのある妊産褥婦の総合的ケア：県立南部医療センター・こども医療センター 例2．リスクを持った新生児とその家族のケア：県立中部病院 NICU 例3．ハイリスク妊産褥婦の心理過程分析と指導：県立中部病院周産期病棟 例4．NICU 入院時から退院後までの母児の総合的観察・評価と育児支援：県立中部病院、南部医療センター・こども医療センター 例5．その他、テーマにあった実習施設	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指示する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを配布する。
成績評価の方法	院生は実習指導教員及び施設の実習指導者と連携を取りながら実習を行う。実習終了後、学習したことをレポートとして提出する。評価は実習への参加状況、実習態度、成果に関するレポート等の提出及び施設の実習指導者の情報等を参考に総合的に行う。
備考	

科　目 コード	51425	授業 科目	小児保健看護演習 Pediatric Health Nursing Seminar	担当 教員	○永島すえみ 上原和代

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	健康児・リスク児と家族を保護看護の立場から支援できるよう広く理論や概念を学習する。すなわち、小児の発達と家族との関係、成長・発達のアセスメントと評価、支援方法、小児保健・制度、医療環境に関する最近の知識を学び、質の高い支援システム構築を探究する。
到達目標	1．子どもとその家族の保健看護上の支援に必要な重要概念を特定でき、説明できる。 2．各重要概念について評価の方法を科学的に説明できる。 3．各重要概念について保健看護上の支援方法を科学的に説明できる。 4．小児保健・制度と医療環境に関する最新の知識を理解する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第 1― 3 回	小児保健看護活動における基本概念の理解と応用 1）子どもの自己概念における評価及び看護の方法	永島すえみ 上原和代
第 4― 6 回	2）子どものストレスとコーピング・防衛機制における評価及び看護の方法	
第 7― 9 回	3）子どもの喪失と親や家族の悲嘆における評価及び看護の方法	
第 10―12 回	4）親や家族の喪失と子どもの悲嘆における評価及び看護の方法	
第 13―15 回	5）子どもの恐れと痛みにおける評価及び看護の方法	
第 16―18 回	6）小児保健看護活動上のコンサルテーションにおける評価及び看護の方法	
第 19―21 回	7）小児保健看護活動上のコーディネーションにおける評価及び看護の方法	
第 22―24 回	8）小児保健活動上の教育と指導における評価及び看護の方法	
第 25―27 回	9）子どもの発達及び養育環境の評価と応用	
第 28―30 回	10）子どもの身体的アセスメントの特徴と方法	

テキスト	Hockenberry & Wilson eds.Wong's Nursing Care of Infants and Children. 8th .Mosby,2007
参考文献	参考書、文献等は別途指示する。
成績評価の方法	プレゼンテーションとディスカッションへの貢献度で評価する。
備　考	各テーマについて文献検討し、最新の知見の概要および状況をまとめ、それらに対する自分の意見や疑問点を整理し、レポートにまとめておく。

科　目 コード	51426	授業 科目	小児保健看護実習 Pediatric Health Nursing Practicum	担当 教員	○永島すえみ 上原和代

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	地域や病院、施設などで生活する子どもと家族の健康上の問題解決のため、母子保健看護特論及び小児保健看護演習の学習を基に、現場の課題の解決方法を生活環境と関連して生涯発達保健看護の視点から探索し実習する。
到達目標	1. 興味あるテーマの子どもとその家族をアセスメントし、保健看護上の課題を特定できる。 2. 生態学的視点・生涯発達的視点から子どもとその家族のケアを計画できる。 3. 子どもと家族への支援を計画し、実施できる。 4. 小児保健看護における倫理問題とその解決方法について1事例を分析できる。 5. 小児保健看護における調整機能とコンサルテーションの技法を実践できる。 6. 看護を実践し、その結果を分析、評価できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1週	原則：保健、医療、福祉のうち2つ以上のフィールドを経験する。 例．保健と医療 小児保健看護領域のうち学生が興味あるテーマを特定し、実習計画（到達目標を含む）を立てる。	永島すえみ 上原和代
第2週	臨地実習	
第3週	臨地実習	
第4週	臨地実習	
第5週	分析および報告書作成、発表（3日間） 興味あるテーマと実習施設の例 例1．　保健のフィールド：市町村 例2．　がんの子どものケア：県立南部医療センター・こども医療センター 例3．　障がいをもつ子どもと母親への看護：沖縄南部療育医療センター 例4．　健常な小児の成長発達の評価と発達支援：保育園	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指示する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを配布する。
成績評価の方法	・実習への参加度、実習中の態度と学習目標到達度、報告書と発表のレベルなどを総合的に判断する。
備　考	

科　目 コード	51431	授業 科目	母性・小児保健看護特別研究Ⅰ Maternal Child Health Nursing Special Study　Ⅰ	担当 教員	◎未定（母性） ◎永島すえみ 上原和代

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	母子保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	未定（母性） 永島すえみ 上原和代
2年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 修士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指示する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示し検討する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。

科　目 コード	51432	授業 科目	母性・小児保健看護課題研究 Maternal and Child Health and Nursing Problem Study	担当 教員	◎未定（母性） ◎永島すえみ 上原和代
開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・課題研究
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間	授業 形態	演習
授業概要	母子保健看護領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。				
到達目標	1.研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2.データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3.論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4.実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5.専門職者として生涯学習する態度を身につける。				

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月　入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月　研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	未定（母性） 永島すえみ 上原和代
2 年次	10 月（4 月）　研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月）　課題研究 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月）　中間発表会 ＊ 課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月）　課題研究審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月）　公開発表会 ＊ 課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指定する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示し検討する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。

科　目 コード	51441	授業 科目	実践小児看護特論Ⅰ Practical Pediatric Nursing Theory　Ⅰ		担当 教員	○永島すえみ	
開講年次	博士前期課程 1～2年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	保健看護の立場から小児とその家族を理解するために必要な諸理論を幅広く学び、各テーマに応じて実践経験または文献事例について諸理論を用いて分析する方法を学修する。						
到達目標	1.　小児と家族を理解することの必要性とその原則を説明できる。 2.　子どもと家族の反応および状況を発達の諸理論を用いて分析的に説明できる。 3.　子どもと家族の防衛機制と対処能力の発達を説明でき、逆境下で示す子どもと家族の反応を分析できる。 4.　子どものセルフケア能力の観点から親による子どもの躾の適切さを分析し評価できる。 5.　子どもの行動様式を気質的観点から分析し、親子の気質的適合性の意味を説明できる。 6.　子どもと家族に生じた問題について家族理論を用いて分析し、看護援助について検討できる。						

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1回	オリエンテーション ・子どもと家族を理解するための原則（文化的視座を含む）	永島すえみ
2・3回	愛着および対人関係の発達に関連した事例の分析 ・愛着理論：ボウルビー、エインスワース、ラッター ・発達プロセスと重要他者との関係	
4・5回	認知の発達に関する保健看護に関連した事例の分析 ・認知発達理論：ピアジェ他 ・認知発達の個人差 ・健康、病気、死の概念発達と看護への応用	
6・7回	社会性の発達に関連した事例の分析 ・子どもの気質に関する理論（トマス&チェス）と看護への応用 ・道徳性に関する理論（コールバーグほか）と看護への応用 ・情緒の発達と看護への応用	
8・9回	セルフケア能力の発達に関連した事例の分析	
10・11回	家族理論を活用した事例の分析 ・家族システム理論　・家族ストレス理論　・家族発達理論 ・シンボリック相互作用理論ほか	
12・13回	ストレスへの対処能力の発達に関連した事例の分析 ・防衛機制とストレス対処理論（A.フロイト、ラザルス他）と看護への応用 ・発達の可塑性及び弾力性（レジリエンス）と看護への応用 自己概念および自我の発達に関連した事例の分析 ・自己および自我の発達理論と看護への応用 ・病気・障害や逆境が自己および自尊心に与える影響	
14・15回	総括	

テキスト	Julia B. George. (1995/1998).南裕子, 野嶋佐由美, 近藤房恵(訳), 看護理論集－より高度な看護実践のために　増補改訂版, 日本看護協会出版会.
参考文献	Bowlby, J. (1979/1981). 作田勉(訳). ボウルビイ母子関係入門. 岩崎学術出版会. Erickson, E. H. (/1982). 小此木敬吾(訳). 自我同一性. 誠心書房. 波多野完治(編). (1982). ピアジェの発達心理学. 国土社. 柏木恵子. (1983). 子どもの自己の発達. 東京大学出版会. 小松美穂子, 前田和子, 奥宮暁子, 堀内ふき. (2001). 人間理解のための看護的アプローチ. 医学書院. 黒田裕子（監修）. (2009). 看護診断のためのよく分かる中範囲理論. Gakken Mahler M. S. (1975/2001). 高橋雅士, 織田正美, 浜畑紀(訳). 乳幼児の心理的誕生 母子共生と個体化. 黎明書房. 野川道子(編）. (2010). 看護実践に活かす中範囲理論. メヂカルフレンド社. Rutter, M. (1981/1984). 北見芳雄, 佐藤紀子, 辻祥子(訳), 続母親剥奪理論の功罪. 誠心書房. 鈴木和子, 渡辺裕子. (2012). 家族看護学―理論と実践第 4 版. 日本看護協会出版会. 上田礼子. (2011). 生涯人間発達学. 三輪書店.
成績評価	課題に対する到達度およびプレゼンテーションと討議への貢献度で評価する。
備　　考	事前に提示された課題について学生によるプレゼンテーションと質疑応答方式で行う。

科　目 コード	51442	授業 科目	実践小児看護特論Ⅱ Practical Pediatric Nursing Theory　Ⅱ			担当 教員	○永島すえみ	
開講年次	博士前期課程 1～2 年次通年		単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）		時間数	30 時間				
授業概要	我が国における小児保健、小児医療、福祉、教育の制度や政策を、歴史的観点から理解するとともに、子どもとその家族を取り巻く保健、医療、福祉、教育の現状と課題を把握し、その解決のために必要な調整の方法を含むさまざまな方略や対策を学修する。							
到達目標	1.　国内外の小児医療・福祉および小児保健看護の歴史的変遷を説明できる。 2.　我が国のさまざまな状況にある子どもと家族が活用できる制度や政策を説明できる。 3.　我が国におけるさまざまな子どもと家族が直面している社会、保健、福祉上の課題を概観できる。 4.　沖縄県におけるさまざまな子どもと家族が直面している社会、保健、福祉上の課題を特定できる。 5.　上記課題について文献や経験から具体的な事例を挙げ、その解決の方略を提案できる。 6.　上記解決方略の実現のために、実施すべき調整の方法や行動について討議できる。 7.　子どもを取り巻く社会的課題を理解または解決するために活用できる法律および統計、資料、年鑑等の文献を収集し、その内容を解釈し活用できる。							

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
1 回	オリエンテーション	永島すえみ	講義
2・3 回	国内外の小児医療・福祉・教育および小児保健看護の歴史的変遷と課題		発表・討議
4・5 回	我が国のさまざまな状況にある子どもと家族が現在活用できる小児保健・医療・福祉・教育の制度や政策と根拠となる法律ならびに条約など		〃・〃
6・7 回	我が国の子どもと家族が直面している保健、医療、福祉、教育上の課題		〃・〃
8・9 回	沖縄県の子どもと家族に関する保健、医療、福祉、教育の特徴と課題		〃・〃
10・11 回	保健、医療、福祉、教育について文献や経験から具体的な事例を挙げ、分析し解決の方略を提案し検討する		〃・〃
12・13 回	事例における課題の解決方略の実現のために、実施すべき調整の方法や行動に関する討議		〃・〃
14・15 回	総括 子どもを取り巻く社会的な課題を分析するために必要な法律および統計、資料、年鑑等の文献収集と活用法の検討		〃・〃

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指示する。
参考文献	内閣府.（最新版）. こども・子育て白書.　　内閣府.（最新版）. 子ども・若者白書. 日本子ども家庭総合研究所.（最新版）. 日本子ども資料年鑑. KTC 中央出版 日本子どもを守る会(編),（最新版）. 子ども白書. 子どもの貧困白書編集委員会(編),（2009）. 子どもの貧困白書. 沖縄県福祉保健部健康増進課(最新版). 沖縄県の母子保健.
成績評価	目標の到達度およびプレゼンテーション と討議への貢献度で評価する。
備　　考	事前に提示された課題について学生によるプレゼンテーションと質疑応答方式で行う。

科　目 コード	51443	授業 科目	実践小児看護特論Ⅲ Practical Pediatric Nursing Theory Ⅲ	担当 教員	○永島すえみ、當間隆也、大城達男、松茂良力、中矢代真美、大城清哲、比嘉猛、吉村　博、松岡剛司、藤原直樹、井垣純子、池間尚子、木川和英、宮城雅也

開講年次	博士前期課程 1～2 年次通年	単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30 時間				

授業概要	主に小児内科と小児外科の対象となり得る疾患の治療を理解し専門的ケアを提供するための病態生理、検査と解釈法、治療法について学ぶ。
到達目標	１．小児期に特徴的な疾患の病態生理について説明できる。 ２．小児期に特徴的な疾患の診断に必要な検査と結果の解釈について説明できる。 ３．小児期に特徴的な疾患の治療法について説明できる。 ４．検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアを提案できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
1 回	オリエンテーション	永島すえみ	
	先天異常・遺伝性疾患の病態と治療法	當間 隆也（医師）	講義
2 回	新生児の疾患の病態と治療法	大城 達男（医師）	〃
3 回	先天代謝異常・代謝疾患の病態と治療法	池間 尚子（医師）	〃
4 回	小児期に特徴的な内分泌疾患の病態と治療法	木川 和英（医師）	〃
5 回	小児期に特徴的な免疫疾患・アレルギー疾患・膠原病および類縁疾患の病態と治療法	松茂良 力（医師）	
6 回	小児期に特徴的な感染症の病態と治療法	井垣　純子（医師）	講義
7 回	小児期に特徴的な呼吸器疾患の病態と治療法	松茂良 力（医師）	〃
8 回	小児期に特徴的な循環器疾患の病態と治療法	中矢代 真美（医師）	〃
9 回	小児期に特徴的な消化器疾患の病態と治療法	大城 清哲（医師）	〃
10 回	小児期に特徴的な血液・造血器疾患の病態と治療法	比嘉 猛　（医師）	〃
11 回	小児期に特徴的な新生物の病態と治療法	比嘉 猛　（医師）	〃
12 回	小児期に特徴的な腎・泌尿器および生殖器疾患の病態と治療法	吉村 博　（医師）	〃
13 回	小児期に特徴的な神経・筋疾患の病態と治療法	松岡 剛司（医師）	〃
14・15 回	検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケア 選択した事例に必要な専門的ケアを提案し討議する	宮城　雅也（医師） 藤原 直樹（医師） 永島すえみ	発表・討議

テキスト	北村　聖(編).(2013).臨床病態学　小児編.ヌーヴェルヒロカワ.
参考文献	日野原重明,井村祐夫(監修).(2007).看護のための最新医学講座[第2版]14　新生児・小児科疾患.中山書店. Richard E. Behrman, Robert M. Kliegman, Hal B. Jenson. (/2010).衛藤義勝(監訳),ネルソン小児科学第17版.エルゼビア・ジャパン. 河野寿夫(編).(2009).ベッドサイドの新生児の診かた.南山堂.
成績評価	教育目標の到達度とプレゼンテーションにより評価する
備　　考	実践的内容とするため、必要時は臨床での講義となることがある。

科　目 コード	51444	授業 科目	実践小児看護特論Ⅳ Practical Pediatric Nursing Theory Ⅳ	担当 教員	○永島すえみ 粟国敦男、松岡剛司 安慶田英樹、松茂良力 植田真一郎、中村真理子

開講年次	博士前期課程 1～2年次通年	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	小児期における運動器・感覚器系疾患と精神疾患・心身医学的問題の治療法を理解し、専門的ケアを提供するための病態生理、検査と解釈法、治療法、症状マネジメントについて学ぶ。
到達目標	1.　小児期に特徴的な疾患の病態生理について説明できる。 2.　小児期に特徴的な疾患の診断に必要な検査と結果の解釈について説明できる。 3.　小児期に特徴的な疾患の治療法について説明できる。 4.　小児期に特徴的な症状に対するマネジメントについて説明できる。 5.　検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアを提案できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
1回	オリエンテーション		
	小児期に特徴的な運動器（骨および関節）の疾患の病態と治療法	粟国 敦男（医師）	講義
2・3回	小児期に特徴的な感覚器疾患の病態と治療法	松茂良 力（医師）	〃
4・5回	小児期に特徴的な精神疾患・心身医学的問題の病態と治療法	松岡 剛司（医師）	〃
6・7回	小児に特徴的な薬物動態・薬物代謝	植田 真一郎(医師)	〃
8・9回	小児の検査基準値と年齢別変化	中村 真理子(医師)	〃
10・11回	小児期に特徴的なアタッチメント障害のある子どもとその家族に必要な専門的ケアの検討	永島すえみ	講義・討議
12・13回	小児期に特徴的な症状・症候に対するマネジメント	宮城雅也・未定	〃　・〃
14・15回	検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアの提案	永島すえみ	発表・討議

テキスト	北村　聖(編).(2013).臨床病態学　小児編.ヌーヴェルヒロカワ.
参考文献	日野原重明・井村祐夫(監).(2007).看護のための最新医学講座[第2版]14　新生児・小児科疾患.中山書店. 河野寿夫(編).(2009).ベッドサイドの新生児の診かた.南山堂. Richard E.Behrman, Robert M.Kliegman, Hal B.Jenson. (2010).衛藤義勝(訳).ネルソン小児科学原著第17版.エルゼビア・ジャパン.
成績評価	教育目標の到達度とプレゼンテーションで評価する
備　　考	より実践的な学習とするため、必要時は臨床を活用した講義とすることもある。

科目コード	51445	授業科目	実践小児看護特論Ⅴ Practical Pediatric Nursing Theory　Ⅴ	担当教員	○永島すえみ 上原和代

開講年次	博士前期課程 ２年次通年	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30 時間				

授業概要	倫理的判断および臨床的判断に基づき、子どもとその家族への状況に応じた援助方法を修得するとともに、小児看護専門看護師の看護倫理上の役割を明らかにする。
到達目標	1　小児医療において起こりやすい倫理的問題とその取り組みの流れについて説明できる。 2　小児・家族に標準化されたモデルを用いて事例の倫理的判断ができる。 3　子どものケアに従事する看護師を含む医療従事者の倫理的感受性を高めるための方略を提案できる。 4　さまざまなスペシャルニーズを持つ子どもとその家族の臨床判断（倫理的判断を含む）ができ、適切な支援について説明できる。 5　小児とその家族に支援を提供するさまざまな場における小児専門看護師の役割について提案できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名	授業方法
1・2 回	小児看護領域の看護倫理に関する取り組みと流れ ・日本小児看護学会の取り組み ・看護基礎教育のなかでの看護倫理 ・小児看護実践の場における看護倫理の継続教育	永島・上原	講義
3・4 回	倫理的問題を有する子どもについてモデルを用いた事例検討	永島・上原	講義・討議
5・6 回	医療従事者の倫理的感受性を高めるための方略の検討	永島・上原	発表・討議
	【スペシャルニーズのある子どもとその家族における臨床判断（倫理的判断を含む）と支援】	永島・上原	〃・〃
7 回	1）救急外来を受診する子どもとその家族		
8 回	2）入院する子どもとその家族		〃・〃
9 回	3）手術を受ける子どもとその家族		〃・〃
10 回	4）NICU に入院する子どもとその家族、先天性疾患や遺伝性疾患のある子どもとその家族		〃・〃
11 回	5）重症心身障害をもつ子どもとその家族や在宅療養の子どもとその家族		〃・〃
12 回	6）臓器あるいは骨髄移植を受ける子どもとその家族や終末期にある子どもとその家族		〃・〃
13 回	7）虐待を受けた子どもとその家族		〃・〃
14・15 回	総括 小児とその家族に支援を提供するさまざまな場における小児看護専門看護師の役割（倫理的課題への取組も含む）	永島・上原	発表・討議

テキスト	Fry, S. T.,　Johnstone, M. J.　(　/2010) 片田範子，山本あい子（訳），看護実践の倫理−倫理的意思決定のためのガイド第３版. 日本看護協会出版会.

参考文献	Davis,A.J.他(編). (/2008).小西恵美子(訳),看護倫理を教える・学ぶ.日本看護協会出版会. Hayes,L.J., Moore,S.C., et al. (/1998). 望月昭他(訳),発達障害に関する10の倫理的課題. 二瓶社. 日本小児看護学会.(2010). 小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針.日本小児看護学会.ホームページhttp://jschn.umin.ac.jp/files/100610syouni_shishin.pdf ロバート・F・ワイヤー.(/1991)高木俊一郎, 高木俊治(訳),障害新生児の生命倫理. 学苑社. 玉井真理子, 永水裕子, 横野恵(編). (2012). 子どもの医療と生命倫理 ［第2版］資料で読む. 法政大学出版局. 玉井真理子, 横野恵, 永水裕子(編).(2009).子どもの医療と生命倫理-資料で読む.法政大学出版局.
成績評価	到達目標の達成度と討論への貢献度で評価する。
備　　考	授業内容7～13は、離島を含めた沖縄県の小児医療における倫理的問題、臨床判断および支援について、事例を用いて討論する。

科目コード	51446	授業科目	実践小児看護演習Ⅰ Practical Pediatric Nursing Seminar Ⅰ	担当教員	○永島すえみ 上原和代
開講年次	博士前期課程 １年～２年次通年	単位数	２単位	科目分類	専門科目・演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60 時間	授業形態	演習
授業概要	子どもとその家族の状態を包括的に査定するための原則と方略や技術・技法を学ぶ。また、援助効果を評価するための原則や手法を学び援助に結びつける方略を学ぶ。				
到達目標	1. 子どもを系統的にフィジカルアセスメントする原則と方法を説明できる。 2. 各発達段階にある子どもを対象に、適切な方略と技術・技法を用いてアプローチできる。 3. 発達段階および健康状態に適した方法で子どもの発達を評価できる。 4. 発達スクリーニングと発達検査の違いについて説明でき結果を解釈できる。 5. 子どもの行動様式を評価し援助に活用できる。 6. 養育環境に関する視座を用い子どもの養育環境を分析し援助に活用できる。 7. 特殊な状態にある子どもの重症度を判断し援助に活用できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名	授業方法
1・2回	オリエンテーション 子どもや家族との面接技法 健康増進とカウンセリング	永島	演習
3・4回	システムレビュー① 新生児・乳児のフィジカルアセスメント	上原	演習
5・6回	システムレビュー② 幼児・学童のフィジカルアセスメント	〃	〃
7・8回	システムレビュー③ 思春期・青年期のフィジカルアセスメント	〃	〃
9・10回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査　① JDDST T(Japanese Version of Denver Developmental Screening Test) DENVERⅡ(デンバー発達判定法)	永島	〃
11・12回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査　② PDQ(Prescreening Developmental Questionnaire)	上原	演習
13・14回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査　③ 津守式乳幼児精神発達検査	永島・上原	〃
15・16回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査　④ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	永島	〃
17・18回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査　⑤ 新版Ｋ式発達検査法	永島・上原	〃
19・20回	発達の評価：知能検査 知能検査の種類と援助への活用	永島・上原	〃
21・22回	子どもの養育環境と行動様式の評価 新生児と乳幼児の行動様式の理解 ブラゼルトンの新生児評価、トーマスとチェスの気質評価	永島・上原	〃
23・24回	子どもの養育環境の評価 JHSQ(日本版乳幼児の家庭環境評価法テスト用紙)	永島・上原	〃

	HOME(Home Observation for Measurement of the Environment) ブロフェンブレンナーの社会生態学的視座		
25・26 回	特殊な状態の評価と援助への活用　① 摂食嚥下機能の評価と援助方法 栄養の評価と援助方法	永島・上原	演習
27・28 回	特殊な状態の評価と援助への活用　② 重症心身障害児の重症度(大島分類) WeeFIM(Functional Independence Measure)など	永島・上原	〃
29・30 回	包括的アセスメントの事例検討 総括	永島・上原	演習・討議 発表・討議
テキスト	小野田千枝子(監), 土井まつ子他(編)(2001).子どものフィジカル・アセスメント.金原出版.		
参考文献	遠城寺宗徳.(2009).遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法-九州大学小児科改訂新装版.慶應義塾大学出版会. Lynn S. Bickley. (/2007).福井次矢、井部俊子(訳), Bate's Guide to Physical Examination and History Taking.メディカル・サイエンス・インターナショナル. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会(編).(2010).日本摂食・嚥下リハビリテーション学会・ｅラーニング対応,第6分野,小児の摂食・嚥下障害.医歯薬出版 . 新版K式発達検査研究会.(2008).新版K式発達検査法2001年版―標準化資料と実施法-.ナカニシヤ出版. 津守 真, 磯部 景子.(1961).乳幼児精神発達診断法―0才～3才まで.大日本図書. 津守 真, 磯部 景子.(1965).乳幼児精神発達診断法―3才～7才まで.大日本図書. T.Berry Brazelton,J.Kevin Nugent.(/1998).大城 昌平(訳),ブラゼルトン新生児行動評価.医歯薬出版. Thomas, A. & Chess,S.(1980).The dynamics of psychological development.Brunner /Mazel.New York. 上田礼子.(1980).日本版デンバー式発達スクリーニング検査-JDDST と PDQ.医歯薬出版. Urie Bronfenbrenner.(1979).The Ecology of Human Development experiments by nature and design. Harvard University Press.Cambridge,massachusetts. W.K.Frankenburg,日本小児保健協会.(2003).DENVERⅡ-デンバー発達判定法.日本小児医事出版社.		
成績評価	到達度の達成レベルの他、演習態度、報告内容、討議によって評価する。		
備　　考	9-18の「発達の評価」は、各回2事例以上を査定する。うち1事例は毎回査定し結果の比較を行う。		

科　目 コード	51447	授業 科目	実践小児看護演習Ⅱ Practical Pediatric Nursing SeminarⅡ	担当 教員	○永島すえみ、上原和代、 松茂良力、中矢代真美 大城清哲、吉村博、粟国敦男、 松岡剛司、宮城雅也

開講年次	博士前期課程 1年次後期～2年次通年	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	小児期の一般的な疾患の診断・治療に必要な知識と技術に基づき、看護のアセスメント能力を修得する。また、健康上の問題がある子どもとその家族への状況に応じた援助方法を、倫理的判断および臨床判断に基づき、他職種との協働を含め探求、実施、分析、評価について学修する。
到達目標	1. 小児のヘルスアセスメントができる。 2. 健康上の問題がある子どもとその家族の面接・相談援助方法について説明できる。 3. 健康上の問題がある子どもとその家族の包括的なアセスメントができる。健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助の分析、評価ができる。 4. 倫理的課題に対するコンサルテーションの方法について説明できる。 5. 他職種との協働、地域連携について提案できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
1回	オリエンテーション	永島・上原	講義・演習
2・3回	小児の診察技術とアセスメント：呼吸系	松茂良　力（医師）	〃・〃
4・5回	小児の診察技術とアセスメント：循環系	中矢代真美（医師）	〃・〃
6・7回	小児の診察技術とアセスメント：消化系	大城　清哲（医師）	〃・〃
8・9回	小児の診察技術とアセスメント：腎・泌尿・生殖器系	吉村　博　（医師）	〃・〃
10・11回	小児の診察技術とアセスメント：感覚系	松茂良　力（医師）	〃・〃
12・13回	小児の診察技術とアセスメント：運動系	粟国　敦男（医師）	〃・〃
14・15回	小児の診察技術とアセスメント：中枢神経系	松岡　剛司（医師）	〃・〃
16・17回	主な生理的機能検査方法と看護援助、結果の判読 心電図、単純X線検査、特殊X線検査、超音波検査、脳波検査 視力検査、聴力検査など	宮城　雅也（医師）	〃・〃
18・19回	健康上の問題がある子どもとその家族の面接・相談	永島・上原	演習
20・21回	健康上の問題がある子どもとその家族の包括的なアセスメント	永島・上原	〃
22・23回	健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助の分析、評価	永島・上原	〃
24・25回	健康上の問題がある子どもとその家族の倫理的判断とコンサルテーション	永島・上原	〃
26・27回	健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助に必要な協働	永島・上原	演習
28・29回	健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助に必要な地域連携	永島・上原	〃
30回	総括	永島・上原	発表・討議

テキスト	市川光太郎(編).(2012).小児科診療基本技術マニュアル.中外医学社.

参考文献	五十嵐隆(編).(2011).小児科診療ガイドライン-最新の診療指針.総合医学社. 小熊栄二(編).(2012). 小児画像診断. (小児科臨床ピクシス).中山書店. 前垣義弘.(2012). 実践小児脳波入門-日常診療に役立つ脳波アトラス. 永井書店. 永島正寛.(2012). 小児心電図テクニカルガイド-速習 12 誘導心電図の基礎と臨床.ヌンク. Staatz,G., et al. (/2010).野坂俊介(監).わかる！小児画像診断の要点.メディカルサイエンスインターナショナル. スプラッドリー,J.P. (/2010).田中美恵子, 麻原きよみ(訳),参加観察法入門.医学書院.
成績評価	演習内容と報告、討議の状況から評価する。
備　　考	実践的内容をとりあげるため、必要時に臨床での演習も取り入れる。

科　目 コード	51448	授業 科目	実践小児看護実習Ⅰ Pediatric Nursing Practicum　Ⅰ	担当 教員	○上原和代、永島すえみ 宮城雅也、田畑りえ子 宮里暁乃 武富博寿、平良弘子

開講年次	博士前期課程 １年次後期～２年次通年	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	90 時間				

授業概要	医学的視点から小児の診断・治療について理解を深め、医師・薬剤師などの役割を理解するとともに変化していく看護の役割を明確にし、他職種と相互的な役割をもち協働およびケアコーディネイトして、質の高いヘルスケアサービスの提供に貢献できる能力を養う。
到達目標	１．小児の代表的疾患について年齢・発達段階に応じた診断・治療のプロセスについて説明できる。 ２．小児の診断・治療にかかわる医師・薬剤師などの役割について説明できる。 ３．小児の診断・治療にかかわる他職種の役割と関連して看護師の役割を見直すことができる。 ４．小児の診断・治療にかかわる看護職の役割を明確にし、看護師の役割拡大の可能性を討論できる。

回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	1. 実習方法 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、小児期に特徴的な疾患の診断治療プロセスを参加観察、およびフィジカルアセスメントを行い、病態の判断とその後の展開予測を行う。あわせて、小児看護専門看護師の役割を明確にする。 3) 学生は週に 1 度、事例検討会にてプレゼンテーション（診療録の内容等から事例の診療プロセスを要約）する。実習指導者・指導教員も討論に参加する。 4) 実習後は、診断・治療について 10 事例を報告する。 ● 病態判断とその後の展開の予測 ● 症状マネジメントの判断 ● 検査・薬剤処方の予測 ※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する 2. 実習施設 県内外の小児総合医療施設または小児病棟をもつ総合病院等	上原和代 ①沖縄県立南部医療センター・こども医療センター：宮城雅也（医師）、田畑りえ子 宮里暁乃、 ②沖縄県立宮古病院：武富博寿（医師）、平良弘子 ①②のうちいずれかの施設で実施する

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布、指示する。
参考文献	必要に応じて別途指示する。
成績評価	目標の到達度および実習に対する姿勢等で評価する。
備　　考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。

科　目 コード	51449	授業 科目	実践小児看護実習Ⅱ Pediatric Nursing Practicum Ⅱ	担当 教員	○永島すえみ、上原和代 川口めぐみ、吉田佳織 門間智子、田畑りえ子、 宮里暁乃

開講年次	博士前期課程 2〜3 年次通年	単位数	4 単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180 時間				

授業概要	看護の難しい子どもとその家族に対し看護を実践し高度な実践技術を修得するとともに、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整など小児看護専門看護師の役割を学修する
到達目標	1. 小児看護 CNS の指導のもとに、看護の難しい子どもとその家族を総合的にアセスメントし、専門知識に基づく的確な看護判断ができる。 2. 小児看護 CNS の指導のもとに看護判断に基づく看護計画を立案し、問題解決を図るためのケアを実践できる。 3. 小児看護 CNS の指導のもとに子どもと家族の倫理的問題を精査し、慎重に解決に取り組むことができる。 4. 小児看護 CNS の指導のもとに看護職者に対しケアを向上させるための教育機能について分析できる。 5. 小児看護 CNS の指導のもとに、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーション事項を分析できる。 6. 小児看護 CNS の指導のもとに、必要なケアが円滑に提供されるために保健医療福祉にかかわる人々の間のコーディネーションについて分析できる。 7. 小児看護 CNS の指導のもとに、倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整について分析できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	1. 実習方法 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、看護の難しい子どもとその家族に対し卓越した看護を実践する。フィジカルアセスメント、病態の判断とその後の展開予測を踏まえ、積極的に看護展開する。あわせて、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整などの小児看護専門看護師の役割について学修する。 3) 事例検討会を週に 1 度行い、学生のプレゼンテーション（事例の看護プロセス、専門看護師の役割機能の学修状況を要約）し、実習指導者・指導教員も参加し討論する。 4) 実習後は、直接ケア 5 事例以上、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整について 1 事例以上分析を行う ※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する。 2. 実習施設 小児看護 CNS の所属している医療施設 最終的レポートは看護協会が公表している CNS の報告レポートの様式に準じて、小児看護専門看護師の機能に関する報告書を作成する。	永島（小児） ①茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院土浦協同病院：門間智子（小児看護 CNS） ②大阪母子医療センター（小児看護 CNS：川口めぐみ・吉田佳織 ③南部医療センター・こども医療センター（小児看護 CNS：田畑りえ子、宮里暁乃） ①②③のうちいずれかの施設で実施する。 ＊4 週間実施
参考文献	必要に応じて別途指示する。	
成績評価	目標の到達度の他、実習態度、事例報告等で評価する。	
備　　考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。	

科目コード	51450	授業科目	実践小児看護実習Ⅲ Pediatric Nursing Practicum Ⅲ	担当教員	○永島すえみ、上原和代、 宮城雅也、田畑りえ子、宮里暁乃		
開講年次	博士前期課程 2～3年次通年	単位数	4単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				
授業概要	看護の難しい子どもとその家族に対し看護を実践し高度な実践技術を修得するとともに、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整など小児看護専門看護師の役割を実践し、卓越した看護実践の維持・向上を推進するための提案と自己の課題を明確にする。						
到達目標	1. 看護の難しい子どもとその家族を総合的に査定し、専門知識に基づく的確な看護判断ができる。 2. 看護判断に基づく看護計画を立案し、問題解決を図るためのケアを実践できる。 3. 子どもと家族の倫理的問題を精査し、慎重に解決に取り組むことができる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるための教育機能について分析できる。 5. 看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーション事項を分析できる。 6. 必要なケアが円滑に提供されるために保健医療福祉にかかわる人々の間のコーディネーションについて分析できる。 7. 倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整について分析できる。 8. 実習を通して、卓越した看護実践の維持・向上を推進するための提案、自己課題を明確にできる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
	1. 実習方法 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、看護の難しい子どもとその家族に対し卓越した看護を実践する。フィジカルアセスメント、病態の判断とその後の展開予測を踏まえ、積極的に看護展開する。あわせて、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整などの小児看護専門看護師の役割を実践する。 3) 事例検討会を週に1度行い、学生のプレゼンテーション（事例の看護プロセス、専門看護師の役割機能の学修状況を要約）し、実習指導者・指導教員も参加し討論する。 4) 実習後は、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整について各1事例以上分析を行う（実践小児看護実習Ⅱの事例と合わせてコンサルテーション・教育・調整・倫理調整について各2事例以上分析する） ※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する。また離島から入院加療中の事例を含めるよう努める。 2. 実習施設 県内外の小児総合医療施設または小児病棟をもつ総合病院等 最終的レポートは看護協会が公表しているCNSの報告レポートの様式に準じて、小児看護専門看護師の機能に関する報告書を作成する。	永島すえみ、 上原和代 ①沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医師：宮城雅也 小児看護CNS：田畑りえ子、宮里暁乃 ＊4週間実施する
参考文献	必要に応じて別途指示する。	
成績評価	目標の到達度の他、実習態度、事例報告等で評価する。	
備考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。	

科　目 コード	51451	授業 科目	実践小児看護課題研究 Pediatric Nursing Problem Study	担当 教員	◎永島すえみ 上原和代

開講年次	博士前期課程 1～3年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	小児看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
	＜2年間で修了予定の場合＞	永島・上原	演習
１年次	4月　入学時ガイダンス 実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞		発表・討議
2年次	実習体験を通して課題を明確化する。 4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜6月～7月　CNS実習Ⅱ(4単位)＞ ＜9月～10月　CNS実習Ⅲ(4単位）＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　総合科目試験・課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程		
・・・・	・・・・

２年次

科　目 コード	51510	授業 科目	成人・老年保健看護特論Ⅰ Adult and Geriatric Health Nursing Theory Ⅰ	担当 教員	○大湾明美 神里みどり 山本敬子

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選　択（領域必修）	時間数	30時間				

授業概要	成人・老年保健看護の対象を理解し、課題が導けるように関連する概念や理論を学ぶ。また、最新の高齢者のケアシステムや高齢者ケアの方向性、がん看護、慢性疾患看護についての知識、理論を学ぶ。
到達目標	１．成人・老年保健看護領域における概念や理論を概観できる。 ２．諸理論を用いて対象を捉えることができ、課題が導ける。 ３．高齢者のケアシステムや新たな高齢者ケアの方向性から、看護の果たすべき役割と機能を習得する。 ４．がん看護のモデルや症状マネジメント、補完代替療法を習得する。 ５．慢性期にある人のＱＯＬと生活支援、病気の受容と自己管理支援を習得する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	高齢者理解のための理論	大湾明美
第2回	対象の捉え方とケアの方法論	〃
第3回	高齢者のケアシステム	〃
第4回	2015年の高齢者介護	〃
第5回	新たな高齢者ケア	〃
第6回	看護の果たすべき役割と機能	〃
第7回	老年保健看護に関する院生のプレゼンテーション	〃
第8回	がん看護における症状マネジメント	神里みどり
第9回	がん看護における全体性パラダイムモデル	〃
第10回	がん看護と補完代替療法	〃
第11回	慢性期にある人の特徴	山本敬子
第12回	慢性期にある人のＱＯＬと生活支援	〃
第13回	病気の受容と自己管理の支援	〃
第14回	成人保健看護に関する院生のプレゼンテーション	神里・山本
第15回	まとめ	大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	評価は、授業への参加態度や討論、プレゼンテーションや課題レポートを総合して行う。
備　考	教育の進め方は、各教員が専門的立場から講義形式で行う。 運営は、院生の発表と討議により理解を深める。

科　目 コード	51520	授業 科目	成人保健看護演習 Adult Health and Nursing Seminar	担当 教員	○神里みどり ○山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	ライフサイクルからみた成人保健看護上の課題を検討し、専門看護職者に必要な課題解決方法・技法について国内外の文献批評を通して、研究課題や実習課題を明確化できるようにする。それに関して必要な知識、理論と方法を習得する。
到達目標	1．慢性疾患やがん看護領域の看護実践についての最新の知識、技術について述べることができる。 2．慢性疾患やがん看護領域の事例を通して、看護実践上の重要課題を導くことができる。 3．慢性疾患やがん看護領域における看護援助の開発方略について述べることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1～30回	**＜専門領域ががん看護の場合＞** がん看護領域の看護実践に関する保健・看護援助の現状 （日本・米国・その他諸外国の動き） がん看護領域における看護理論と看護実践への応用 エビデンス・ベースド・プラクティスの実践現場への応用 がん看護領域における看護援助の開発：症状緩和 がん看護領域における看護援助の開発：代替療法 がん看護実践の場で課題となる事例検討 がん看護領域における実習課題の明確化 同上 同上	神里みどり 他
第1～30回	**＜専門領域が慢性疾患看護の場合＞** 慢性疾患看護領域の看護実践に関する保健・看護援助の現状 プレゼンテーション 慢性疾患看護領域における看護理論と看護実践への応用 プレゼンテーション 慢性疾患看護の実践の場における課題 事例検討　プレゼンテーション 〃	山本敬子 未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポートによる評価。
備　考	国内外の文献を中心に批判、検討する。

科　目 コード	51521	授業 科目	成人保健看護実習 Adult Health and Nursing Practicum	担当 教員	○神里みどり ○山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	医療機関、行政機関や福祉保健所、市町村などにおいて、特論及び演習を基に現場における課題とその課題解決方法をみいだす。疾病と共に生きる生活を視点に入れて専門的支援を実習する。
到達目標	1. 各諸施設における看護に関する機能・役割の相違を理解することができる。 2. 患者およびその家族の疾病・療養上の問題を明確化できる。 3. 事例を受け持ち、エビデンス・ベースドに基づいた看護計画を立てることができる。 4. 立案した計画を専門的知識・技術・判断能力を用いて看護援助の実践を行うことができる。 5. 実践した一連の看護援助を振り返り、今後の課題を見いだすことができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1週	慢性疾患・がん看護領域のうち興味のある分野を特定し、実習計画を立てる。	神里みどり 山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定
第2週	臨床実習	
第3週	臨床実習	
第4週	臨床実習	
第5週	臨床実習における一連の実習内容を振り返り、課題レポートとしてまとめる。	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	評価：学生の医療施設実習記録、課題レポート
備　考	実習施設の選定、実習計画の作成、実習参加

科目コード	51525	授業科目	老年保健看護演習 Geriatric Health Nursing Seminar	担当教員	○大湾明美 田場由紀

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				

授業概要	老年保健看護がエビデンスに基づいて実践できるように重要な概念及び保健医療福祉政策を、最近の国内、国外の文献を通して分野の知識を深め、批判的に、研究方法、問題解決方法を学習する。また、文献による研究結果を自己の看護実践に応用するための分析、評価について学習する。
到達目標	1. 老年保健看護における重要な概念を理解することができる。 2. 老年保健看護における保健医療福祉政策から高齢者ケアの方向性を理解し、専門的な看護職者の役割を述べることができる。 3. 文献学習により分野の知識を深め、研究方法や問題解決方法の多様性を理解することができる。 4. 文献学習の結果を自己の看護実践とつなげ、看護実践の改善方法を提案することができる。 5. 学生の関心分野をもとに、研究上の疑問を明らかにし、実習や特別研究に役立てることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
1～2回	老年保健看護における重要な概念	大湾明美
3回	高齢者の保健医療政策の方向性	〃
4回	高齢者ケアの看護専門職者の役割	〃
5～14回	文献学習（研究方法、問題解決方法等に関する文献を教員が提示）	田場・大湾
15回	学習内容の報告及び自己の看護実践の問題提起(学生発表)	〃
16～18回	看護実践の問題の明確化	〃
19～27回	文献学習（自己の課題に関する文献を学生が提示) 文献から自己の課題の解決方法を学ぶ	〃
28～30回	看護実践の改善についての計画書の報告及び課題の提案	〃

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	評価はディスカッション内容、発表内容等で評価する。
備考	演習内容により、資料、文献を用いて実施する。運営は、前半が教員主導、後半が学生主導で行う。

科　目 コード	51526	授業 科目	老年保健看護実習 Geriatric Health Nursing Practicum	担当 教員	○田場由紀 大湾明美

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	成人・老年保健看護特論Ⅰや老年保健看護演習等を基盤に、多様な地域や場で生活している高齢者（自立/要介護高齢者）を対象として、個々の対象特性を総合的にアセスメントし、高齢者の尊厳を支えるためのケア技法について実習し、看護職者としての専門的な実践能力を養う。
到達目標	1. 老年期にある対象の特性と、生活の全体性・個別性・継続性・地域性の視点からアセスメントを行い、生活上の課題（生活ニーズ）について、看護の専門的視点で把握することができる。 2. 看護の専門的視点で捉えた生活ニーズを解決するための看護介入、及び必要な社会資源（インフォーマル/フォーマル・サポート）の活用ができる。 3. 高齢者の生活ニーズの解決に向け、看護ケアの向上のための具体的提案ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	1．オリエンテーション及び実習計画書作成（3日間） 1）担当教員：授業概要、到達目標、心構え等について、オリエンテーションを実施する。 2）学生：関心のある課題に基づき、実習目的、実習目標、実習先*1、実習内容等を提案する。 3）担当教員とのディスカッションを踏まえた上で、実習計画書*2を作成する。 *1実習先の選定等：対象（自立/要介護高齢者）及び地域（離島・過疎/都市地域等）の選定及び順序については、対象や地域及び学生の状況と調整し、計画していく。 *2実習計画書の内容：実習目的、実習目標、実習先、実習内容、実習方法、実習スケジュール、実習記録等。 **2．離島・過疎地域で生活する高齢者の実習（5日間）** 1）関係者や既存資料からの情報収集、地区踏査を行い、対象特性と地域特性を把握する。 2）対象と実際に関わり、直面している生活ニーズや将来予測される課題について、明確化する。 3）対象の課題解決に向け、看護職者の役割と社会資源の活用方法を含め、ケア計画を立案する。 4）ケア計画に基づき、対象が地域での生活が継続できるために必要な直接ケア、相談、調整、教育機能について、担当教員及び実習先の指導者のもとに実施する。 5）実習したことを実習目的・実習目標に沿って評価し、レポートを作成する。 **3．中間報告及びディスカッション（1日間）** 1）中間報告として、視聴覚機材を活用し、実習内容等について、プレゼンテーションする。 2）学生と担当教員を交えて、ディスカッションを行う。 **4．都市地域で生活する高齢者の実習（5日間）** 上記2．と同様。 **5．最終報告及びディスカッション（2日間）** 1）最終報告として、実習した地域や場、対象の特性を比較し、具体的介入についてプレゼンテーションする。また、新たな看護ケア向上のための具体策も提案する。 2）学生のプレゼンテーションを踏まえて、看護職者の専門的な実践能力についてディスカッションを行う。 3）レポートの作成	田場由紀 大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。

科　目 コード	51531	授業 科目	成人・老年保健看護特別研究 I Adult and Geriatric Health Nursing Special Study I	担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 ◎山本敬子 ◎田場由紀、謝花小百合、 赤嶺伊都子、未定(成人)

開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				

授業概要	成人・老年保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里みどり 大湾明美 山本敬子 田場由紀 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定（成人）
2 年次	10 月（4 月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 修士論文 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月） 中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月） 公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科　目 コード	51532	授業 科目	成人・老年保健看護課題研究 Adult and Geriatric Health Nursing Problem Study	担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 ◎山本敬子 ◎田場由紀、謝花小百合、赤嶺伊都子、未定（成人）

開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				

授業概要	成人・老年保健看護領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月　入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月　研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里みどり 大湾明美 山本敬子 田場由紀 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定(成人)
2 年次	10 月（4 月）　研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月）　課題研究 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月）　中間発表会 ＊ 課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月）　課題研究審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月）　公開発表会 ＊ 課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆答）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

※CNS26単位教育課程

科目コード	51641	授業科目	実践がん看護特論Ⅰ Practical Oncology Nursing Theory Ⅰ	担当教員	○神里みどり、金城芳秀 佐伯宣久、非常勤講師

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん看護に必要ながんの病態生理、がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。
到達目標	１．発がんメカニズムを理解し、がんの病態生理について述べることができる。 ２．がんの各種治療方法について説明することができる。 ３．がんの予防と早期発見について説明することができる。 ４．病態生理を基盤においたアセスメントについて説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	がんの疫学と予防、早期発見 ・疫学研究からみたがん予防 ・がんの一次予防から三次予防まで	金城・神里
第２回	がんの診断と病態分類 ・がんの発生とメカニズム、診断、病期別分類	佐伯
第３回	がんの手術療法 ・肺がんの病期に応じた治療方法とその選択、術後の侵襲	川畑勉 (非常勤)
第４・５回	がんの化学療法と病態生理 ・化学療法の作用機序と薬剤の種類 ・分子標的薬、副作用症状とその対策：血液疾患の事例	福島卓也 (非常勤)
第６・７回	がんの放射線療法と病態生理 ・放射線療法の特徴と原理・方法 ・放射線治療による早期・晩期障害：頭頸部がん、子宮がん	戸板孝文 (非常勤)
第８回	がんの内分泌療法と病態生理 ・乳がん患者の内分泌療法や薬物療法の目的と特徴	玉城研太朗 (非常勤)
第９回	がんの再発・転移のメカニズムと治療 ・局所・領域・遠隔転移の特徴 ・血行性転移とリンパ行性転移 ・再発乳がんの診断・治療・予後	玉城研太朗 (非常勤)
第10回	がんの薬物療法とその薬理作用のメカニズム ・術前化学療法・術後化学療法・化学放射線療法、 抗がん剤のレジメン ・抗がん剤に伴う有害反応対策、血管外露出の予防と対処	永井賢作 (非常勤)
第11回	がん診療におけるチーム医療 ・緩和ケアにおけるチームアプローチと精神科医の役割 ・がんサバイバーシップの概念とサポートグループ	新屋洋平 (非常勤)

第12回	がん緩和医療におけるサイコオンコロジー ・がん患者の心の評価とサポートの 4 段階 ・緩和ケアにおける精神的ケア：適応障害（不安・うつ・せん妄）の診断と治療 ・基本的なコミュニケーションスキル、悪い知らせの伝え方（SHARE）	新屋洋平 （非常勤）
第13回	がん患者のリンパ浮腫のメカニズムと対処法 ・リンパ浮腫の病態・起こる原因、症状 ・がん治療後の後遺症としてのリンパ浮腫の治療 ・リンパ浮腫患者のケア、合併症	松原忍 （非常勤）
第14回	がん治療における治験とエビデンス ・治験の目的と種類・方法、臨床への還元	金城
第15回	がん患者の病態生理を中心としたアセスメントの事例検討 ・これまで受け持ったことのある事例を振り返り、これまで学んできたアセスメントの視点を活用して、事例を分析しプレゼンテーションを行う。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・日本看護協会.(2014).外来がん化学療法　看護ガイドライン.金原出版 ・リンパ浮腫研究会.(2014).リンパ浮腫　診療ガイドライン.金原出版 ・日本乳癌学会（編集).(2014).患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014 年版.金原出版 ・一般社団法人日本血液学会.(2013).「造血器腫瘍ガイドライン」2013 年版,金原出版 ・千葉百子.（2009）. がんの世界地図. 丸善株式会社 ・日本がん・生殖医療研究会.(2013).がん・生殖医療 妊孕性温存の診療、(2013)　医歯薬出版 ・小林正伸.（2014）. やさしい腫瘍学からだのしくみから見る“がん”. 南江堂 ・『コンセンサス癌治療』編集委員会.（2013）. 新 癌についての質問に答える.へるす出版 ・日本がん看護学会.（2017）. がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・大中俊宏、岸本寛史(翻訳).(2013).MDアンダーソン サイコソーシャル・オンコロジー. メディカルサイエンスインターナショナル ・財団法人医療研修推進財団、精神腫瘍学クイックリファレンス、創造出版、2009. ・ディビット・スピーゲル、キャサリン・クラッセン著.（2003）. がん患者と家族のためのサポートグループ、医学書院 ・がんの告知と看護師の役割、がん看護、15(1)、2010. ・榮木実枝(監),濱口恵子・花出正美(編).(2015).見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・随時参考文献・資料を別途配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として各テーマの授業に関連した参考資料を熟読すること。	

※CNS26単位教育課程

科目コード	51642	授業科目	実践がん看護特論Ⅱ Practical Oncology Nursing TheoryⅡ	担当教員	○神里みどり 前川厚子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん看護に必要な主なる理論について理解し、実践や研究で活用できる能力を養う。
到達目標	１．がん看護に関する主なる理論の概念について説明できる。 ２．理論を活用して、事例を分析する方法を説明できる。 ３．理論を活用して、介護介入の方法を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	がん看護における理論を活用した実践と研究の動向 ・実践での理論の活用方法とがん患者・家族を理解する上での理論について ・文献を活用した国内外の理論を活用した研究の動向	神里
第3回	危機理論と看護介入 ・危機理論を活用したがん患者・家族の理解と看護介入 ・危機理論を活用した事例検討	神里
第4回	悲嘆理論と看護介入 ・悲嘆理論を活用した終末期がん患者と家族の理解：予期的悲嘆や悲嘆プロセスの理解 ・悲嘆理論を活用した事例検討	神里
第5回	ストレス・コーピング理論と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した患者・家族の理解と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した事例検討	神里
第6・7回	症状マネジメントモデル ・症状マネジメントモデルを活用したがん患者の苦痛症状の理解と看護介入 ・症状マネジメントモデルを活用した事例検討	神里
第8・9回	全体性パラダイムに基づく理論 ・マーガレット A. ニューマンの健康モデルを活用したがん患者の理解と看護介入 ・健康モデルを活用した事例検討	神里
第10・11回	スピリチュアルケアに関する理論的枠組み ・終末期がん患者のスピリチュアルペインの概念と患者理解 ・終末期がん患者のスピリチュアルケアの実際	神里
第12回	ボディイメージ、セクシュアリティとがん看護援助 ・事例を通したがん患者のボディイメージとセクシュアリティについて	前川 (非常勤)
第13回	がんサバイバーと在宅家族支援モデル ・がんサバイバーシップの概念と患者理解 ・在宅におけるがん患者と家族の支援モデルについて	前川 (非常勤)

第14・15回	がん看護の理論的枠組みを活用した事例検討 ・これまで学習してきた理論を活用して、学生が体験したがん患者と家族の実際の事例について分析する。	神里
テキスト	日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ.(2017).がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 遠藤恵美子.(2003).希望としてのがん看護.医学書院.	
参考文献	・小島操子.(2013).看護における危機理論・危機介入　第3版.金芳堂. ・筒井真優美(編).(2015).看護理論(改訂第2版)　看護理論20の理解と実践への応用、南江堂 ・日野原重明. (2014). 実践 がんサバイバーシップ―患者の人生を共に考えるがん医療をめざして. 医学書院 ・近藤まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・勝俣範之. (2012). がんサバイバー―医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす.医学書院 ・Patricia A.Ganz,(2007).Cancer Survivorship, Springer, Springer. ・近藤まゆみ,峰岸秀子(編).(2006). がんサバイバーシップ.医歯薬出版株式会社.2006. ・遠藤恵美子.(2001).マーガレット・ニューマン“健康の理論”がひらくもの　希望としてのがん看護.医学書院. ・遠藤恵美子,三次真理,宮原知子.(2014).マーガレット・ニューマンの理論に導かれたがん看護実践, 看護の科学者. ・特集ケアリングパートナーシップの実践的研究 M.ニューマンの健康の理論に基づいて、Quality Nursing 9, 2003, 文光堂. ・パトリシア J.ラーソン/内布敦子.(1998).Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用.日本看護協会出版会 ・新しい症状マネジメントの概念と実践.インターナショナルナーシングレビュー.82　20. 1997 ・在宅移行のためのマネジメント 緩和ケア.19.2009、青海社. ・メイブ・ソルター(編).前川厚子(訳).(1992).　ボディ・イメージと看護.医学書院. ・濱口恵子他.(2009).がん患者の在宅療養サポートブック.日本看護協会. ・新しいケアの創造に向けたがん患者・家族の理解.看護研究39.2006,医学書院. ・阿部 まゆみ/安藤 詳子.(2015).がんサバイバーを支える緩和デイケア・サロン, 青海堂 ・一般社団法人がん看護学会 (著).(2015).女性性を支えるがん看護 (がん看護実践ガイド). 医学書院 ・窪寺俊之 , アルフォンス・デーケン. (2016). スピリチュアルな存在として (スピリチュアルケアを学ぶ). 聖学院大学出版会 ・江本 愛子 (翻訳). (2008).スピリチュアルケア―看護のための理論・研究・実践 . 医学書院 ・岡本拓也. (2014). 誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア. 医学書院 ・随時参考文献・資料を別途配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として、理論の概念に関する文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

※CNS26単位教育課程

科目コード	51643	授業科目	実践がん看護特論Ⅲ Practical Oncology Nursing TheoryⅢ	担当教員	○神里みどり 謝花小百合 新貝夫弥子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん治療によって生じる苦痛症状を予防するための方法や、苦痛症状を早期発見するためのアセスメント指針や苦痛緩和の看護援助法についてエビデンス・ベースド・プラクティスの概念に基づいて探求する。
到達目標	１．がん治療による苦痛症状の予防方法について説明できる。 ２．がん治療による苦痛症状のアセスメントについて説明できる。 ３．がん患者の症状マネジメントについて説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント ・エビデンス・ベースド・プラクティスと症状マネジメントの概念 ・国内外の研究論文にみるがん患者の症状マネジメントの方略	神里
第3・4回	化学療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・化学療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・化学療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)	新貝 (非常勤) (CNS)
第5・6回	放射線療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・放射線療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・放射線療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)	神里
第7回	内分泌療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・内分泌療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助	神里
第8回	術後機能障害とその看護 ・術後機能障害を生じたがん患者に対するアセスメントとQOL向上に向けた看護援助の実際	新貝 (非常勤) (CNS)
第9・10回	緩和医療としての化学療法と放射線療法の看護援助 ・緩和を目的とした化学療法の看護援助 ・緩和を目的とした放射線療法の看護援助	謝花
第11回	症状緩和のためのガイドラインの活用 ・がん患者の苦痛症状を緩和するためのガイドラインを臨床で活用していくための方略	謝花
第12回	外来通院中の患者の看護援助と地域支援体制 ・がん治療中やがんのフォローアップ中、緩和ケア目的のために通院治療しているがん患者と家族の支援体制	謝花
第13・14回	症状緩和のための補完代替療法 ・がん療養中(治療から終末期まで)の患者・家族に対する補完代替療法 ・米国がん看護学会のPEPカードに提示されている補完代替療法の活用	神里

第15回	エビデンスに基づいた症状マネジメントの看護援助の開発 ・がん患者の苦痛症状を取り挙げた事例を提示し、エビデンス・ベースド・プラクティスの概念やガイドラインを参考に、症状緩和の看護援助について考察する。学生のプレゼンテーションと討論。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・日本リハビリテーション医学会　がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会.(2013).がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版 ・日本がんリハビリテーション研究会.(2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス.金原出版 ・鈴木志津枝,小松浩子監修,日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ.(2013)がん看護PEP リソース 患者のアウトカムを高めるケアのエビデンス(2013).医学書院 ・日本がん看護学会.(2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア.医学書院 ・日本看護協会.(2014).外来がん化学療法　看護ガイドライン.金原出版 ・日本放射線腫瘍学会編.(2012).放射線治療計画ガイドライン 2012 年版.金原出版 ・日本乳癌学会（編集).（2015).科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン 2 疫学・診断編 2015年版.金原出版 ・特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会（編集）.(2016).がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・小澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-,南江堂 ・田原信(編),鈴木真也・榎田智弘.(2015). 地域医療連携サポート BOOK フローチャートでわかるがん化学療法の副作用.南江堂 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著).(2015).がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7 つのフェーズ・21 の実践.中央法規 ・Robert Twycross(著),Andrew Wilcock(著),Claire Stark Toller(著),武田文和(翻訳).(2010).トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント 第 2 版, 医学書院 ・辻 哲也 (編集).(2011).がんのリハビリテーションマニュアル: 周術期から緩和ケアまで医学書院 ・ケリー・ターナー著、長田美穂訳. (2014). 余命宣告から「劇的な寛解」に至った人たちが実践している 9 つのこと、がんが自然に治る生き方、プレジデント社 ・日本緩和医療学会. (2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版.金原出版 ・日本緩和医療学会 (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 ・必要に応じて紹介する。随時参考資料を配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として、症状マネジメントに関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51644	授業 科目	実践がん看護特論Ⅳ Practical Oncology Nursing TheoryⅣ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 吉澤　龍太(非常勤) 笹良剛史(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	緩和ケア領域と終末期におけるがん患者と家族に対する看護援助について習得し、がん看護専門看護師の役割と変革者としての方略を学ぶ。
到達目標	１．緩和ケアの概念について説明できる。 ２．緩和ケアにおける看護援助法について説明できる。 ３．終末期におけるがん患者、家族・遺族ケアについて説明できる ４．がん看護専門看護師の役割について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	緩和ケアの概念と看護の役割	神里
第2回	国内外における緩和ケアと終末期看護に関する現状と課題	謝花
第3回	緩和ケア領域における看護介入の方略	謝花
第4・5回	がん性疼痛のメカニズムと薬物療法 ・がん性疼痛のメカニズム ・がん性疼痛のアセスメント、薬物療法と副作用症状のマネジメント	笹良 (非常勤)
第6・7回	がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入 ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法のエビデンス ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入の実際	神里
第8・9回	スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア ・スピリチュアルペインのアセスメントとその指標(臨床で活用可能なシート) ・スピリチュアルケアの実際：事例を用いた患者・家族への援助スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア	謝花
第10回	がん患者と家族・遺族のサポートのためのプログラム	謝花
第11回	緩和ケアチームと多職種協働 ・緩和ケアチームにおける看護師の役割と多職種協働(医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ボランティアなど：退院調整を含む)	吉澤 (非常勤) (CNS)
第12回	終末期がん患者・家族を取り巻く倫理的問題とアドボカシー	謝花
第13・14回	変革者としてのがん看護専門看護師の実践的活動と役割 ・実践現場における専門看護師の活動の実際：6つの役割 ・変革者としての課題解決の実例	吉澤 (非常勤) (CNS)

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	・井部俊子・大生定義（監修）.（2015）. 専門看護師の思考と実践、医学書院 ・日本緩和医療学会.(2014).がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版.金原出版. ・日本緩和医療学会.(2013).終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン 7 版.日本緩和医療学会. 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2013).苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン.日本緩和医療学会. 金原出版 ・近藤まゆみ,嶺岸秀子(編).(2006).がんサバイバーシップ　がんとともに生きる人々への看護ケア.医歯薬出版. ・近藤　まゆみ.（2015）. 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・季羽倭文子,丸口ミサエ(監修).(2005).がん患者と家族のサポートプログラム「がんを知って歩む会」の基本と実践.青海社. ・緩和ケア編集委員会.(2007).緩和ケアにおけるがん患者の家族ケア.青海社. ・緩和ケア編集委員会.(2009).緩和ケアをともに学ぶ、教える―伝えようとするスタッフのために―.青海社. ・千崎美登子.(2008).事例で学ぶがん患者の退院調整～困難事例の“解決”を探る～.がん看護.13. ・「緩和医療学」編集委員会(著).(2009)がん在宅医療と緩和医療.緩和医療学. . 平原 佐斗司.(2013). チャレンジ! 在宅がん緩和ケア（在宅医療の技とこころ）. 南山堂 ・榮木実枝(監),濱口恵子・花出正美(編).(2015).見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング.学研メディカル秀潤社 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著).(2015).がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7 つのフェーズ・21 の実践.中央法規 ・狩野太郎・神田清子（編),日本がん看護学会(監).(2015).がん看護実践ガイドがん治療と食事　治療中の食べるよろこびを支える援助, 医学書院 ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-.南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部(編著).(2015).急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ.中央法規 ・国内外の最新の学術論文を随時資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51645	授業 科目	実践がん看護演習Ⅰ Practical Oncology Nursing Seminar Ⅰ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 濵田香純(非常勤) 玉井なおみ(非常勤)

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	最新の文献を活用し、がんの告知から診断・治療・フォローアップ、予防に至るまでのがん患者や家族に対する看護援助の基礎的概念を理解し、介入モデルを実践で活用できる能力を養う。
到達目標	１．がん看護に関する最新の看護援助について述べることができる。 ２．がん患者の状態に応じた看護援助について説明できる ３．実践で活用可能な看護介入モデルについて説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	国内外におけるがん看護専門職者の活動の現状 ・国内におけるがん看護専門看護師の活動の現状 ・諸外国におけるがん看護専門看護師の活動の現状(英国・米国・台湾)	神里
第3回	がん対策基本法におけるがん看護の役割	神里
第4回	病名告知と予後告知における患者・家族への看護介入モデル	神里
第5回	治療の選択とセカンドオピニオン時における看護援助(意思決定支援など)	神里
第6・7回	手術療法と看護援助 ・がんの部位別にみる周手術期のアセスメントの特徴とその看護(２事例以上のがんの部位別による特徴) ・術後退院調整、術後機能障害、リハビリテーションに関する事例検討	謝花
第8・9回	放射線療法と看護援助 ・がんの部位別による放射線療法のアセスメントの特徴とその看護(頭頸部がんとその他の部位別の事例による特徴) ・外来放射線療法を受ける患者・家族の困難事例の検討	謝花
第10・11回	化学療法と看護援助 ・化学療法の有害事象を早期発見するためのアセスメントとその看護 ・外来化学療法を受ける患者・家族の困難事例の検討	謝花
第12・13回	がん看護におけるテレナージングとトリアージ ・がん看護におけるテレナーシング(通院や在宅の患者・家族対象)の技法 ・がん看護におけるトリアージ(通院や在宅の患者・家族対象)の技法	神里
第14・15回	急変・救急時におけるがん看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族のアセスメントと看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族の事例検討	謝花

第16・17回	がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助 ・がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助の特徴 ・院内・院外におけるサポートプログラムの実際	濵田 (非常勤)
第18・19回	がん予防に対する患者教育の開発と普及 ・がん予防に関する患者・家族への教育支援体制 ・がん予防活動を実践で展開していくための方略(活動事例)	玉井 (非常勤)
第20～24回	ホリスティックケアと補完代替療法のエビデンス ・がん看護におけるホリスティックケアの概念とアプローチの方法 ・補完代替療法のエビデンスを実践で活用するための方略 ・Putting Evidence for Practice カード(米国がん看護学会)の実践での活用 ・患者・家族に対するガイドラインを活用した補完代替療法の教育と看護実践 ・がん患者・家族の補完代替療法の活用に関する困難事例	神里
第25・26回	がん看護に関する看護介入モデルの検討① ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第27・28回	がん看護に関する看護介入モデルの検討② ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第29・30回	がん看護に関する看護介入モデルの検討③ ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
テキスト	日本がん看護学会. (2017).がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院	
参考文献	・鈴木 志津枝.(2013).がん看護 PEP リソース―患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院 ・日本がん看護学会 .(2014).外来がん化学療法看護ガイドライン 1 2014 年版 ; 抗がん剤の血管外漏出およびデバイス合併症の予防・早期発見・対処 、2014、金原出版 ・佐藤 禮子.(2009).がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン,医学書院 ・日本がん看護学会. (2017).がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・根拠がわかるがん看護ベストプラクティス.(2012).がん看護、Vol.17 No.2、2012、南江堂 ・がん治療に伴う変化をとらえる　実践に活きるアセスメントツール.(2014).がん看護、Vol.19 No.7.南江堂 ・がんサバイバーシップの今.(2012).がん看護、Vol.17 No.4, 南江堂 ・Kenneth D. Miller (編) 、勝俣 範之 (監訳).(2012).がんサバイバー　医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす, 医学書院 ・日野原 重明 (監).(2014).実践 がんサバイバーシップ―患者の人生を共に考えるがん医療をめざして, 医学書院 ・近藤 まゆみ、嶺岸 秀子 (編).(2006).がんサバイバーシップ― がんとともに生きる人びとへの看護ケア, 医歯薬出版 ・近藤　まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・聖路加看護大学テレナーシングSIG (編).(2013).テレナーシング実践ガイドライン, ワールドプランニング ・Margaret Hickey Susan Newton : Telephone triage for oncology nurses.(2012).Oncology Nursing Society	

	・山崎 章郎、二ノ坂保喜著、米沢慧編.(2012).病院で死ぬのはもったいない、いのちを受けとめる新しい町へ,春秋社 ・日本放射線腫瘍学会 編集.(2012).放射線治療計画ガイドライン 2012 版、金原出版 ・丹生健一、佐々木良平、鈴木志津江.(2011).目で見て学ぶ放射線療法の有害反応　多職種チームで実践する治療と患者支援、日本看護協会出版会. ・勝俣　範之.(2012). がんサバイバー―医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす. 医学書院 ・中根 実.(2015). がんエマージェンシー: 化学療法の有害反応と緊急症への対応 医学書院 ・日本がん看護学会.(2016).オンコロジックエマージェンシー―病棟・外来での早期発見と帰宅後の電話サポート（がん看護実践ガイド）. 医学書院 国内外の最新の学術論文を資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、国内外のがん看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51646	授業 科目	実践がん看護演習Ⅱ Practical Oncology Nursing Seminar Ⅱ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	緩和ケア・終末期がん看護に関する課題に焦点をおき、国内外の最新の文献検討やがん看護実践活動を通して、高度な専門的実践能力を養うための知識や技法を習得する。特にがん患者の苦痛症状マネジメントに関するアセスメントとエビデンスに基づいた看護援助の方法に焦点をあてた学習を行う。また、実習、課題研究を行うために自己の課題に関する概念枠組みについて探求する。
到達目標	１．終末期におけるがん看護援助について説明できる。 ２．苦痛症状のアセスメントの技法について説明できる。 ３．症状マネジメントの看護援助について説明できる。 ４．がん看護実践現場における課題を明確化できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	終末期がん患者が抱える様々な苦痛症状と看護援助 ・全人的な苦痛症状(身体・社会・精神・霊的側面）のアセスメント ・全人的ケアのための看護援助の方略	神里
第3・4回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(疼痛) ・疼痛コントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・疼痛コントロールの困難事例の検討	神里
第5・6回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(倦怠感) ・倦怠感のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・倦怠感のコントロールの困難事例の検討	神里
第7・8回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(呼吸困難) ・呼吸困難のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・呼吸困難のコントロールの困難事例の検討	謝花
第9・10回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(吐き気・嘔吐) ・吐き気・嘔吐のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・吐き気・嘔吐のコントロールの困難事例の検討	謝花
第11・12回	症状コントロールのための補完代替療法の理論と実際(アロマセラピー) ・症状コントロールのためのアロマセラピーの理論 ・苦痛症状の緩和に対するアロマセラピーを活用した実践事例	神里
第13・14回	リンパ浮腫の病態生理とリンパマッサージの実際 ・終末期がん患者のリンパ浮腫の病態生理 ・リンパマッサージの実践事例	謝花
第15・16回	がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークの実際 ・がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークとしての看護援助 ・がん患者の家族・遺族のグリーフワークに関する事例検討	謝花

第17・18回	補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状緩和のエビデンス	神里
第19・20回	補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状緩和のエビデンス ・実践で活用できるための方略 ・がん看護実践現場における課題の明確化と看護介入モデルの検討	神里
第21～30回	・臨床現場における課題を明確にするための情報収集 ・課題を明確にし、課題の解決に向けての看護活動の展開方略の検討 ・看護実践をするための調整(倫理調整含む）やコンサルテーションの方略 ・看護実践を行うための看護介入モデルの検討	神里 謝花
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・日本緩和医療学会.(2014).がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版.金原出版. ・日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員.(2013).終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2011).がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版. ・リンパ浮腫研究会.(2014).リンパ浮腫 診療ガイドライン、金原出版 ・日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会.(2013). がんのリハビリテーションガイドライン, 金原出版株式会社 ・日本がんリハビリテーション研究会.(2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス, 金原出版株式会社 ・リンパ浮腫ケア～がん患者のリンパ浮腫の理解と看護の役割～、13(7)、2008. ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-. 南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部.(2015).急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ, 中央法規 ・島崎寛将、倉津滋之、山崎圭一、江藤美和子.(2013).緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、中山書店 ・日本緩和医療学会. (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 ・日本緩和医療学会. (2016).がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版. 金原出版 ・広瀬 寛子. (2011) 悲嘆とグリーフケア. 医学書院 ・坂口 幸弘 .(2012). 死別の悲しみに向き合う―グリーフケアとは何か. 講談社 ・坂口 幸弘. (2010). 悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ. 昭和堂 国内外の最新の学術論文を資料として配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。	

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51647	授業 科目	実践がん看護実習Ⅰ Practical Oncology Nursing PracticumⅠ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	４単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180 時間				

授業概要	１．がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発ができるような基礎的な能力を養う。 ２．がん看護専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）を実践の場で遂行できる能力を身につける。
到達目標	１．複雑な患者・家族の事例を２つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。 ２．実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈し、説明することができる。 ３．がん看護専門看護師の役割について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜実習の進め方＞ 実習の段階を2段階に分けて、各段階に応じたがん看護における専門的な看護実践能力を養う。各段階において2週間の実習を行い、計4週間の実習を行う(但し目標を達成しえない場合は延長する)。実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 実習１：がん拠点病院（琉球大学医学部附属病院がんセンター）や緩和ケア病棟において複雑ながん患者や家族の事例を実際に受け持つことによって、質の高い看護援助を実践する。 指導者：看護師長、緩和ケア認定看護師 実習時期：1年前期後半～後期 実習２：がん看護専門看護師が所属する施設において、がん看護専門看護師の指導の下に、専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）について見学・参画しながら学習する。 指導者：がん看護専門看護師 実習時期：２年次前期前半	神里 謝花

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51648	授業 科目	実践がん看護実習Ⅱ Practical Oncology Nursing PracticumⅡ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	９０時間				

授業概要	がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発が自立してできるような能力を養う。
到達目標	１．複雑な患者・家族の事例を２つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。 ２．実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈することができる。 ３．がん看護専門看護師の役割を意識した看護援助の展開ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜実習計画書の作成＞ 実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。 ＜実習内容＞ がん患者の治療や療養に携わっている一般病院（がん拠点病院）において、実践がん看護実習Ⅰで習得してきたがん看護援助と専門看護師の役割を統合させて、がん看護専門看護師として、がん看護に携わる看護師の相談、教育、倫理調整、臨床研究指導について実践的な計画を立てて遂行してみる。 指導者：がん看護専門看護師 実習時期：2年前期後半	神里 謝花

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51649	授業 科目	実践がん看護課題研究 Practical Oncology Nursing Problem Study	担当 教員	◎神里みどり 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	がん看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1.研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2.論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3.専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	神里 謝花
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

３年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	論文審査・最終試験は、主査1名・副査2名の体制で行います。	
備　考	研究指導教員、研究指導補助教員の指導計画に従って下さい。 注）*のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。	

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51651	授業 科目	実践がん看護特論Ⅰ Practical Oncology Nursing Theory Ⅰ	担当 教員	○神里みどり、金城芳秀 佐伯宣久 非常勤講師：川畑勉、福島卓也、戸板孝文、玉城研太朗、永井賢作、明智龍男、松原忍

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん看護に必要ながんの病態生理（ゲノムと遺伝を含む)、がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期 発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。
到達目標	１．発がんメカニズムを理解し、がんの病態生理（ゲノムと遺伝を含む）について述べることができる。 ２．がんの各種治療方法について説明することができる。 ３．がんの予防と早期発見について説明することができる。 ４．病態生理を基盤においたアセスメントについて説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	がんの疫学と予防、早期発見 ・疫学研究からみたがん予防 ・がんの一次予防から三次予防まで	金城・神里
第２回	がんの診断と病態分類 ・がんの発生とメカニズム、診断、病期別分類、がんとゲノム	佐伯
第３回	がんの手術療法 ・肺がんの病期に応じた治療方法とその選択、術後の侵襲	川畑勉 (非常勤)
第４・５回	がんの薬物療法と病態生理 ・がんの薬物療法の作用機序と薬剤の種類 ・分子標的薬、副作用症状とその対策：血液疾患の事例	福島卓也 (非常勤)
第６・７回	がんの放射線療法と病態生理 ・放射線療法の特徴と原理・方法 ・放射線治療による早期・晩期障害：頭頸部がん、子宮がん	戸板孝文 (非常勤)
第８回	がんの内分泌療法と病態生理 ・乳がん患者の内分泌療法や薬物療法の目的と特徴 ・妊娠期がん医療	玉城研太朗 (非常勤)
第９回	がんの遺伝、再発・転移のメカニズムと治療 ・遺伝性乳がんと遺伝カウンセリング ・局所・領域・遠隔転移の特徴 ・血行性転移とリンパ行性転移 ・再発乳がんの診断・治療・予後	玉城研太朗 (非常勤)
第１０回	がんの薬物療法とその薬理作用のメカニズム ・術前化学療法・術後化学療法・化学放射線療法、 抗がん剤のレジメン ・抗がん剤に伴う有害反応対策、血管外露出の予防と対処	永井賢作 (非常勤)

第11回	がん診療におけるチーム医療 ・緩和ケアにおけるチームアプローチと精神科医の役割	明智龍男 （非常勤）
第12回	がん緩和医療におけるサイコオンコロジー ・がん患者の心の評価とサポートの４段階 ・緩和ケアにおける精神的ケア：適応障害（不安・うつ・せん妄）の診断と治療 ・基本的なコミュニケーションスキル、悪い知らせの伝え方（SHARE）	明智龍男 （非常勤）
第13回	がん患者のリンパ浮腫のメカニズムと対処法 ・リンパ浮腫の病態・起こる原因、症状 ・がん治療後の後遺症としてのリンパ浮腫の治療 ・リンパ浮腫患者のケア、合併症	松原忍 （非常勤）
第14回	がん治療における治験とエビデンス ・治験の目的と種類・方法、臨床への還元	金城
第15回	がん患者の病態生理を中心としたアセスメントの事例検討 ・これまで受け持ったことのある事例を振り返り、これまで学んできたアセスメントの視点を活用して、事例を分析しプレゼンテーションを行う。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・日本看護協会.(2014).外来がん化学療法　看護ガイドライン.金原出版 ・リンパ浮腫研究会.(2014).リンパ浮腫　診療ガイドライン.金原出版 ・日本乳癌学会（編集).(2014).患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014年版.金原出版 ・一般社団法人日本血液学会.(2013).「造血器腫瘍ガイドライン」2013年版,金原出版 ・千葉百子.（2009）. がんの世界地図. 丸善株式会社 ・日本がん・生殖医療研究会.(2013).がん・生殖医療 妊孕性温存の診療、(2013)　医歯薬出版 ・小林正伸.（2014）. やさしい腫瘍学からだのしくみから見る“がん”. 南江堂 ・『コンセンサス癌治療』編集委員会.（2013）. 新 癌についての質問に答える.へるす出版 ・日本がん看護学会.（2017）. がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・大中俊宏、岸本寛史(翻訳).(2013).MDアンダーソン サイコソーシャル・オンコロジー. メディカルサイエンスインターナショナル ・財団法人医療研修推進財団、精神腫瘍学クイックリファレンス、創造出版、2009. ・ディビット・スピーゲル、キャサリン・クラッセン著.（2003）. がん患者と家族のためのサポートグループ、医学書院 ・がんの告知と看護師の役割、がん看護、15(1)、2010. ・榮木実枝(監),濱口恵子・花出正美(編).(2015).見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・随時参考文献・資料を別途配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として各テーマの授業に関連した参考資料を熟読すること。	

※CNS38単位教育課程

科目コード	51652	授業科目	実践がん看護特論Ⅱ Practical Oncology Nursing TheoryⅡ	担当教員	○神里みどり 非常勤講師：前川厚子

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん看護に必要な主なる理論について理解し、実践や研究で活用できる能力を養う。
到達目標	１．がん看護に関する主なる理論の概念について説明できる。 ２．理論を活用して、事例を分析する方法を説明できる。 ３．理論を活用して、介護介入の方法を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	がん看護における理論を活用した実践と研究の動向 ・実践での理論の活用方法とがん患者・家族を理解する上での理論について ・文献を活用した国内外の理論を活用した研究の動向	神里
第２回	がん看護の高度実践専門看護師に求められる役割や変革者に必要な概念 ・高度実践看護のコアコンピテンシー、役割獲得プロセスモデル ・APRN規制のためのコンセンサスモデル、Hamric高度実践看護モデル、リーダーシップ論に基づく変革者の役割	神里
第3回	危機理論と看護介入 ・危機理論を活用したがん患者・家族の理解と看護介入 ・危機理論を活用した事例検討	神里
第4回	悲嘆理論と看護介入 ・悲嘆理論を活用した終末期がん患者と家族の理解：予期的悲嘆や悲嘆プロセスの理解 ・悲嘆理論を活用した事例検討	神里
第5回	ストレス・コーピング理論と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した患者・家族の理解と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した事例検討	神里
第6・7回	症状マネジメントモデル ・症状マネジメントモデルを活用したがん患者の苦痛症状の理解と看護介入 ・症状マネジメントモデルを活用した事例検討	神里
第8・9回	全体性パラダイムに基づく理論 ・マーガレットA. ニューマンの健康モデルを活用したがん患者の理解と看護介入 ・健康モデルを活用した事例検討	神里
第10・11回	スピリチュアルケアに関する理論的枠組み ・終末期がん患者のスピリチュアルペインの概念と患者理解 ・終末期がん患者のスピリチュアルケアの実際	神里
第12回	ボディイメージ、セクシュアリティとがん看護援助 ・事例を通したがん患者のボディイメージとセクシュアリティについて	前川厚子 (非常勤)

第13回 第14・15回	在宅家族支援モデル ・在宅におけるがん患者と家族の支援モデルについて がん看護の理論的枠組みを活用した事例検討 ・これまで学習してきた理論を活用して、学生が体験したがん患者と家族の実際の事例について分析する。	前川厚子 (非常勤) 神里
テキスト	・小野善生. (2013). 最強のリーダーシップ論　集中講義、日本実業出版社 ・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ.(2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・遠藤恵美子.(2003).希望としてのがん看護.医学書院.	
参考文献	・Ann B. Hamric et al/ 監訳　仲村美鈴、江川幸二. (2017)5th EDITION 高度実践看護統合的アプローチ、へるす出版. ・小島操子.(2013).看護における危機理論・危機介入　第3版.金芳堂. ・筒井真優美(編).(2015).看護理論(改訂第2版)　看護理論20の理解と実践への応用、南江堂 ・Patricia A.Ganz,(2007).Cancer Survivorship, Springer, Springer. ・遠藤恵美子.(2001).マーガレット・ニューマン“健康の理論”がひらくもの　希望としてのがん看護.医学書院. ・遠藤恵美子,三次真理,宮原知子.(2014).マーガレット・ニューマンの理論に導かれたがん看護実践, 看護の科学者. ・特集ケアリングパートナーシップの実践的研究 M.ニューマンの健康の理論に基づいて、Quality Nursing 9, 2003, 文光堂. ・パトリシア J.ラーソン/内布敦子.(1998).Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用.日本看護協会出版会 ・在宅移行のためのマネジメント 緩和ケア.19.2009、青海社. ・メイブ・ソルター(編).前川厚子(訳).(1992).　ボディ・イメージと看護.医学書院. ・濱口恵子他.(2009).がん患者の在宅療養サポートブック.日本看護協会. ・新しいケアの創造に向けたがん患者・家族の理解.看護研究39.2006,医学書院. ・一般社団法人がん看護学会（著).(2015).女性性を支えるがん看護（がん看護実践ガイド). 医学書院 ・窪寺俊之、アルフォンス・デーケン. (2016). スピリチュアルな存在として（スピリチュアルケアを学ぶ). 聖学院大学出版会 ・江本 愛子（翻訳). (2008).スピリチュアルケア—看護のための理論・研究・実践 . 医学書院 ・岡本拓也. (2014). 誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア. 医学書院. ・ロバート・A・ニーマイアー（著)、富田琢朗、菊池安希子（監訳). (2007). 喪失と悲嘆の心理療法、構成主義による意味の探求、金剛出版. ・ロバート・A・ニーメイヤー（著)、鈴木剛子（訳). (2010).〈大切なもの〉を失ったあなたに　喪失をのりこえるガイド、春秋社. ・田村惠子,河正子,森田達也. (2017). 看護に活かすスピリチュアルケアの手引き　第2版、青海社. ・高橋聡美. (2015). グリーフケア　死別による悲嘆の援助. メジカルフレンド社. ・随時参考文献・資料を別途配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として、理論の概念に関する文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51653	授業 科目	実践がん看護特論Ⅲ Practical Oncology Nursing TheoryⅢ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 非常勤講師：木村安貴 砂川華、多和田慎子 具志堅春香、濱田香純 宇野さつき

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がん治療によって生じる苦痛症状を予防するための方法や、苦痛症状を早期発見するためのアセスメント指針や苦痛緩和の看護援助法についてエビデンス・ベースド・プラクティスの概念に基づいて探求する。
到達目標	１．がん治療による苦痛症状の予防方法について説明できる。 ２．がん治療による苦痛症状のアセスメントについて説明できる。 ３．がん患者の症状マネジメントについて説明できる。 ４．外来から在宅までの包括的な看護援助の方法について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント ・エビデンス・ベースド・プラクティスと症状マネジメントの概念 ・国内外の研究論文にみるがん患者の症状マネジメントの方略	神里
第2･3回	がん薬物療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・がん薬物療法を受ける患者のアドヒアランスを高める援助 ・がん薬物療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助 (有害事象のアセスメントと予防含む)	木村安貴 (非常勤) (OCNS)
第4回	放射線療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・放射線療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・放射線療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助 (有害事象のアセスメントと予防含む)	砂川華 (非常勤) (OCNS)
第5回	内分泌療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・内分泌療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助 ・内分泌療法を受ける患者のアドヒアランスを高める援助	具志堅春香 (非常勤) (OCNS)
第6回	術後機能障害とその看護 ・術後機能障害を生じたがん患者に対するアセスメントとQOL向上に向けた看護援助の実際	多和田慎子 (非常勤) (OCNS)
第７回	緩和医療としてのがん薬物療法と放射線療法の看護援助 ・緩和を目的としたがん薬物療法の看護援助 ・緩和を目的とした放射線療法の看護援助	濱田香純 (非常勤) (OCNS)
第8回	症状緩和のためのガイドラインの活用 ・がん患者の苦痛症状を緩和するためのガイドラインを臨床で活用していくための方略	謝花

第9･10回	外来通院中の患者の看護援助と地域支援体制 ・がん治療中やがんのフォローアップ中、緩和ケア目的のために通院治療しているがん患者と家族の支援体制	宇野さつき （非常勤） （OCNS）
第11･12回	包括的緩和ケア ・包括的かつ継続的ながん患者や家族の在宅療養を支える看護援助	宇野さつき （非常勤） （OCNS）
第13・14回	症状緩和のための補完代替療法 ・補完代替療法の定義、種類、効用について ・がん患者の補完代替療法の利用実態 ・がん療養中(治療から終末期まで)の患者・家族に対する補完代替療法 ・米国がん看護学会のPEPカードやエビデンスカード（独自に開発）に提示されている補完代替療法の活用	神里
第15回	エビデンスに基づいた症状マネジメントの看護援助の開発 ・がん患者の苦痛症状を取り挙げた事例を提示し、エビデンス・ベースド・プラクティスの概念やガイドラインを参考に、症状緩和の看護援助について考察する。学生のプレゼンテーションと討論	神里 謝花
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・Robert Twycross(著),Andrew Wilcock(著),武田文和,的場元弘(翻訳).(2018).トワイクロス先生の緩和ケア QOL を高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア.医学書院 ・鈴木志津枝,小松浩子監修,日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ.(2013)がん看護 PEP リソース 患者のアウトカムを高めるケアのエビデンス(2013).医学書院 ・日本がん看護学会.(2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア.医学書院 ・日本看護協会.(2014).外来がん化学療法　看護ガイドライン.金原出版 ・日本放射線腫瘍学会編.(2012).放射線治療計画ガイドライン 2012 年版.金原出版 ・日本乳癌学会（編集).（2015).科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン 2 疫学・診断編 2015 年版.金原出版 ・特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会（編集）.(2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・神里みどり、謝花小百合、他（2016). がん患者の苦痛症状緩和のための補完代替療法のエビデンスカードの開発と有効性の検討. 科学研究費助成事業. ・日本リハビリテーション医学会　がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会.(2013).がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版 ・日本がんリハビリテーション研究会.(2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス.金原出版 ・小澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-,南江堂 ・田原信(編),鈴木真也・榎田智弘.(2015). 地域医療連携サポート BOOK フローチャートでわかるがん化学療法の副作用.南江堂 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著).(2015).がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7 つのフェーズ・21 の実践.中央法規 ・辻 哲也（編集).(2011).がんのリハビリテーションマニュアル: 周術期から緩和ケアまで 医学書院 ・ケリー・ターナー著、長田美穂訳.（2014). 余命宣告から「劇的な寛解」に至った人たちが実践している 9 つのこと、がんが自然に治る生き方、プレジデント社 ・日本緩和医療学会.（2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版. 金原出版 ・日本緩和医療学会（2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 ・日本がんサポーティブケア学会.（2018). がん薬物療法に伴う皮膚障害&マネジメント. 金原出版.	

	・日本がんサポーティブケア学会．(2017)．がん薬物療法に伴う末梢神経障害&マネジメントの手引き　2017 年版．金原出版． ・日本がんサポーティブケア学会．(2018)．口腔ケアガイダンス第 1 版日本語版． ・必要に応じて紹介する。随時参考資料を配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、症状マネジメントに関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51654	授業 科目	実践がん看護特論Ⅳ Practical Oncology Nursing TheoryⅣ	担当 教員	○謝花小百合 神里みどり 非常勤講師：吉澤龍太、笹良剛史、高江洲さくら、濱田香純、木村安貴

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	緩和ケアにおける末期がん患者と家族の苦痛症状と苦悩に対する包括的な看護援助について習得し、がん看護専門看護師の役割と変革者としての方略を学ぶ。
到達目標	１．末期がん患者と家族の包括的なアセスメントおよび看護援助法について説明できる。 ２．末期がん患者、家族・遺族ケアについて説明できる。 ３．末期がん患者の栄養・リハビリテーションについて説明できる。 ４．がん看護専門看護師の役割について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	国内外における緩和ケアと終末期看護に関する現状と課題 緩和ケア領域における看護介入の方略	謝花
第2・3回	がん性疼痛のメカニズムと薬物療法 ・がん性疼痛のメカニズム ・がん性疼痛のアセスメント、薬物療法と副作用症状のマネジメント	笹良剛史 (非常勤) (緩和ケア医)
第4・5回	がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入 ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法のエビデンス ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入の実際	吉澤龍太 (非常勤) (OCNS)
第6回	末期がんにおける栄養（がん悪液質）と看護援助 ・栄養アセスメント ・がん悪液質のメカニズム ・がん悪液質のアセスメントと看護援助	木村安貴 (非常勤) (OCNS)
第7回	進行がん、末期がんにおけるリハビリテーションと看護の役割 ・症状緩和のための身体活動や物理療法 ・QOL に対するリハビリテーション・チーム・アプローチの効果	神里
第8・9回	全人的苦痛の理解とスピリチュアルペインのアセスメントとそのケア ・スピリチュアルペインのアセスメントとその指標(臨床で活用可能なシート) ・スピリチュアルケアの実際：事例を用いた患者・家族への援助：スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア	高江洲さくら (非常勤)
第10回	がん患者の家族の苦悩法海と悲嘆ケア/遺族のサポートのためのプログラム 家族・遺族の包括的なアセスメント、予期悲嘆、悲嘆 家族・遺族ケア	謝花

第11回	緩和ケアチームと多職種協働 ・緩和ケアチームにおける看護師の役割と多職種協働(医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士、NST、など：退院調整を含む)	吉澤龍太 (非常勤) (OCNS)
第12･13回	終末期がん患者・家族を取り巻く倫理的問題とアドボカシー ・多様な場面における終末期および看取りに関する課題 ・臨床倫理の概念および Jonsen の 4 分割表の活用 臨床倫理 4 分割表を用いた事例検討	濱田香純 (非常勤) (OCNS)
第14･15回	変革者としてのがん看護専門看護師の実践的活動と役割 ・実践現場における専門看護師の活動の実際：６つの役割 ・変革者としての課題解決の実例	吉澤龍太 (非常勤) (OCNS) 謝花・神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・井部俊子・大生定義（監修）.（2015）. 専門看護師の思考と実践、医学書院 ・一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編.（2017).がん看護コアカリキュラム日本版. 医学書院 ・日本緩和医療学会.(2014).がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版.金原出版. ・日本緩和医療学会.(2013).終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン 7 版.日本緩和医療学会. 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2013).苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン.日本緩和医療学会.金原出版 ・季羽倭文子,丸口ミサエ(監修).(2005).がん患者と家族のサポートプログラム「がんを知って歩む会」の基本と実践.青海社. ・鈴木和子・渡辺裕子.（(2012). 家族看護学理論と実践　第 4 版. 日本看護協会出版会. ・広瀬寛子.(2011).悲嘆とグリーフケア.医学書院 ・岡本拓也.(2014).誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア.医学書院 ・「緩和医療学」編集委員会(著).(2009)がん在宅医療と緩和医療.緩和医療学. . 平原 佐斗司.(2013). チャレンジ! 在宅がん緩和ケア（在宅医療の技とこころ). 南山堂 ・榮木実枝(監),濱口恵子・花出正美(編).(2015).見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング.学研メディカル秀潤社 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著).(2015).がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7 つのフェーズ・21 の実践.中央法規 ・狩野太郎・神田清子（編),日本がん看護学会(監).(2015).がん看護実践ガイドがん治療と食事　治療中の食べるよろこびを支える援助, 医学書院 ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-.南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部(編著).(2015).急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ.中央法規. ・ロバート・A・ニーマイアー（著)、富田琢朗、菊池安希子（監訳).（2007). 喪失と悲嘆の心理療法、構成主義による意味の探求、金剛出版. ・ロバート・A・ニーメイヤー（著)、鈴木剛子（訳).（2010).〈大切なもの〉を失ったあなたに　喪失をのりこえるガイド、春秋社. ・田村惠子,河正子,森田達也.（2017). 看護に活かすスピリチュアルケアの手引き　第 2 版、青海社. ・高橋聡美.（2015). グリーフケア　死別による悲嘆の援助. メジカルフレンド社. ・日本リハビリテーション医学会　がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会.(2013).がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版 ・日本がんリハビリテーション研究会.(2015). がんのリハビリテーションベストプラクティ	

	ス.金原出版 ・阿部能成.（2016）. 終末期リハビリテーションの臨床アプローチ. メジカルビュー社. ・比企 直樹,向山 雄人,土師 誠二.（2014）. NST・緩和ケアチームのためのがん栄養管理完全ガイド―QOL を維持するための栄養管理. 文光堂. ・若林秀隆,荒木暁子,森みさこ.（2017）. サルコペニアを防ぐ! 看護師によるリハビリテーション栄養. 医学書院. ・宇都宮宏子,山田雅子（編集）.（2014）.看護がつながる在宅療養移行支援　病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント. 日本看護協会出版社 ・国内外の最新の学術論文を随時資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51655	授業 科目	実践がん看護特論Ⅴ Practical Oncology Nursing Theory Ⅴ	担当 教員	○神里みどり 非常勤講師：玉井なおみ 新貝夫弥子、木村安貴 濱田香純、笹良剛史 上原弘美

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講　義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	がんサバイバーシップの概念を理解し、がんサバイバーがたどるプロセスで、長期的視点に立脚した、がんサバイバーの心理社会的ニーズに対応できる看護援助の方略を学習する。
到達目標	１．サバイバーとサバイバーシップの概念を説明できる。 ２．がん遺伝と予防の看護援助について説明できる ３．がん患者に対する運動指導や健康教育について説明できる。 ４．がん患者に対する栄養指導や健康教育について説明できる。 ５．がんの就労や心理社会的問題とその支援について説明できる。 ６．がん患者・家族の意思決定支援について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	がんサバイバーシップの概念と心理社会的課題に対する研究の動向 ・がんサバイバーとサバイバーシップの概念 ・がんサバイバーのたどるプロセス、QOL,心理社会的ニーズ	神里
第2回	長期的視点を基盤にしたがんサバイバーシップケア：5つの視点 ・疾病のサーベイランス、リスクの低減と早期発見、長期・晩期合併症のモニタリング、心理社会的機能、ケアの調整	神里
第3・4回	がん遺伝診療と看護相談 ・がんサバイバーへのリスクアセスメントとリスク軽減の方策 ・がん遺伝子カウンセリング、心理社会的問題、看護師の役割	新貝夫弥子 (非常勤) (OCNS)
第5・6回	がんの早期発見に対する看護援助と社会的啓発 ・成人がんサバイバーの二次がんのスクリーニングと支援 ・早期発見に向けた予防活動：健診受診や禁煙指導など	玉井なおみ (非常勤)
第7・8回	がん患者に対する身体活動とがん看護リハビリテーション(高齢がん患者のフレイル含む) ・身体活動と乳がんなどの予防・予後と健康教育 ・高齢者がん患者の治療に影響するフレイルのアセスメントとその支援	玉井なおみ (非常勤)
第9回	がん患者に対する栄養と生活に関する看護援助 ・治療前から治療後における食事に関する栄養状態のアセスメント ・早期・晩期有害事象を見据えた食事指導	木村安貴 (非常勤) (OCNS)
第10・11回	がんの診断から治療、アドバンスケアプランニングなどの意思決定に対する患者・家族に対する支援 ・各プロセスにおけるアドバンスケアプランニングの意思決定支援 ・事前指示、リビングウィル、治療の差し控えや中止など	木村安貴 (非常勤) (OCNS)

第12回	AYA世代から成人に対する妊孕性温存に関する支援体制 ・がん関連の妊娠・不妊、性機能温存と障害 ・心理社会的支援体制のあり方 ・心的外傷後の成長を見据えた支援	濱田香純 (非常勤) (OCNS)
第13回	心身の機能を保つためのサバイバーのための認知行動療法 ・日常生活での心身の調和を保つためのマインドフルネスの概念と自己コントロール	笹良剛史 (非常勤) (緩和ケア医)
第14回	サバイバーに対する就労支援と経済支援、ならびに社会への啓発活動 ・サバイバーの就労の現状と課題、社会での支援体制や啓発活動	上原弘美 (非常勤) (ピアナース代表)
第15回	まとめ：学生によるプレゼンテーションと討議	神里
テキスト	指定なし	
参考文献	・勝俣範之．(2012)．がんサバイバー―医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす.医学書院 ・日野原重明．(2014)．実践 がんサバイバーシップ―患者の人生を共に考えるがん医療をめざして．医学書院 ・阿部 まゆみ/安藤 詳子.(2015).がんサバイバーを支える緩和デイケア・サロン，青海堂 ・仲村清吾　編集、遺伝性乳がん・卵巣がんの基礎と臨床、篠原出版新社、2012 ・日本がん・生殖医療研究会　監修、がん・生殖医療　妊孕性温存の診療、2013 ・小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2017 年版、金原出版株式会社、2017 ・「乳癌患者における妊孕性保持支援のための治療選択および患者支援プログラム・関係ガイドラインの開発」班、乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に関する診療の手引き 2014 年版、金原出版株式会社、2014 ・遺伝性腫瘍に対する遺伝子治療と看護師の役割、看護技術、vol.60，No.14，2014 ・荒井正美　編集、癌の遺伝医療、南江堂、2015 ・森本忠興他、編集　乳がんインフォームドコンセントガイド、日本医事新報社、2011 ・川崎優子、看護者が行う意思決定支援の技法、医学書院、2017 ・ケリー・ターナー著、長田美穂訳、がんが自然に治る生き方、プレジデント社、2014 ・日本乳癌学会編、患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014 年版、金原出版株式会社、2014 ・日本乳癌学会編、科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 2、疫学・診断編、2013 年版、2014 ・一般社団法人日本病態栄養学会編、がん病態栄養専門管理栄養士のためのがん栄養療法ガイドブック、メディカルレビュー社、2015 ・比企直樹他　編集、NST・緩和ケアチームのためのがん栄養管理完全ガイド、文光堂、2014 ・がん×マインドフルネス、Cancer Board Square，vol.4，no1、医学書院、2018 ・大野裕訳、認知行動療法トレーニングブック、医学書院、2007 ・特定非営利活動法人日本緩和医療学会、がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版、金原出版株式会社、2016 ・近藤まゆみ．(2015)．臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかかわり．仲村書林 ・国内外の最新の学術論文を随時資料として配布する。	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備　考	事前学習として、各単元に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51656	授業 科目	実践がん看護演習Ⅰ Practical Oncology Nursing SeminarⅠ	担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 非常勤講師：木村安貴 砂川華、多和田慎子 具志堅春香、久田友哉 小野亮子、上原弘美

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	最新の文献を活用し、がんの告知から診断・治療・フォローアップ、予防に至るまでのがん患者や家族に対する包括的な看護援助の基礎的概念を理解し、介入モデルを実践で活用できる能力を養う。
到達目標	１．がん看護に関する最新の包括的な看護援助について述べることができる。 ２．がん患者の状態に応じた看護援助について説明できる ３．実践で活用可能な看護介入モデルについて説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	国内外におけるがん看護専門職者の活動の現状 ・国内におけるがん看護専門看護師の活動の現状 ・諸外国におけるがん看護専門看護師の活動の現状 ・がん対策基本法におけるがん看護の役割	神里
第3回	病名告知と予後告知における患者・家族への看護介入モデル ・治療の選択とセカンドオピニオン時における看護援助(意思決定支援など)	具志堅春香 (非常勤) (CNS)
第4･5回	手術療法と看護援助 ･がんの部位別にみる周手術期のアセスメントの特徴とその看護(２事例以上のがんの部位別による特徴) ・術後退院調整、術後機能障害、リハビリテーションに関する事例検討	多和田慎子 (非常勤) (CNS)
第6・7回	放射線療法と看護援助 ･がんの部位別による放射線療法のアセスメントの特徴とその看護(頭頸部がんとその他の部位別の事例による特徴) ・外来放射線療法を受ける患者・家族の困難事例の検討	砂川華 (非常勤) (CNS)
第8・9回	がん薬物療法と看護援助 ・がん薬物療法の有害事象を早期発見するためのアセスメントとその看護 ・外来がん薬物療法を受ける患者・家族の困難事例の検討	木村安貴 (非常勤) (CNS)
第10・11回	がん看護におけるテレナージングとトリアージ ・がん看護におけるテレナーシング(通院や在宅の患者・家族対象)の技法 ・がん看護におけるトリアージ(通院や在宅の患者・家族対象)の技法	具志堅春香 (非常勤) (CNS)
第12・13回	急変・救急時におけるがん看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族のアセスメントと看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族の事例検討	謝花

第14～17回	【学外演習：地域がん診療連携拠点病院　那覇市立病院での演習】 医師の診療に同行し、診断時の患者の身体所見の確認(画像や血液データ、病理を統合したアセスメント)、問診やフィジカルアセスメントを理解する。また、どのような点に配慮してコミュニケーションをとり、アセスメントをしているのかを学ぶ。 医師の診療の同行で見学した事例の病態生理とヘルスアセスメントについてまとめ、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションした事例を通して、がん看護専門看護師としてどのようにCare技術とCureの知識を統合するのか検討する。	久田友哉 (非常勤) (肺がん専門医師) 小野亮子 (非常勤) (乳がん専門医師)
第18･19回	がん健診における乳がん、前立腺がん、大腸癌などの診察に同席し、問診およびフィジカルアセスメントの実際を学ぶ。	神里
第20・21回	【学外演習：サバイバーナースの会「ピアナース」での演習】 地域におけるがん患者・家族に対するがん相談支援技術を学ぶ。 また、がん体験者でもある看護師に対してピアカウンセリングナースの養成をどのように行っているか学ぶ。	上原弘美 (非常勤) ピアナース代表
第22回	患者・家族に対するガイドラインを活用した全人的なケアの教育と看護介入の方略	神里
第23・24回	看護スタッフに対するガイドラインを活用した全人的なケアの教育の指導案の作成とロールプレイ(模擬授業) ・ガイドラインを活用した全人的なケアの視点での教育指導案を作成する。作成した指導案に基づきロールプレイを実施し、対象となる看護者にとってよりよい効果的な教育について討議する。	神里
第25・26回	がん看護に関する看護介入モデルの検討① ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第27・28回	がん看護に関する看護介入モデルの検討② ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第29・30回	がん看護に関する看護介入モデルの検討③ ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
テキスト	日本がん看護学会. (2017).がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院	
参考文献	・鈴木 志津枝.(2013).がん看護 PEP リソース―患者アウトカムを高めるケアのエビデンス,医学書院 ・日本がん看護学会 .(2014).外来がん化学療法看護ガイドライン 1 2014 年版；抗がん剤の血管外漏出およびデバイス合併症の予防・早期発見・対処 、2014、金原出版	

	・根拠がわかるがん看護ベストプラクティス.(2012).がん看護、Vol.17 No.2、2012、南江堂 ・がん治療に伴う変化をとらえる　実践に活きるアセスメントツール.(2014).がん看護、Vol.19 No.7.南江堂 ・Kenneth D. Miller（編）、勝俣 範之（監訳).(2012).がんサバイバー　医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす，医学書院 ・日野原 重明（監).(2014).実践 がんサバイバーシップ―患者の人生を共に考えるがん医療をめざして，医学書院 ・近藤　まゆみ.（2015）. 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・聖路加看護大学テレナーシングSIG（編).(2013).テレナーシング実践ガイドライン，ワールドプランニング ・Margaret Hickey Susan Newton : Telephone triage for oncology nurses.(2012).Oncology Nursing Society ・阿部 まゆみ/安藤 詳子.(2015).がんサバイバーを支える緩和デイケア・サロン，青海堂 ・山崎 章郎、二ノ坂保喜著、米沢慧編.(2012).病院で死ぬのはもったいない、いのちを受けとめる新しい町へ,春秋社 ・日本放射線腫瘍学会 編集.(2012).放射線治療計画ガイドライン 2012 版、金原出版 ・丹生健一、佐々木良平、鈴木志津江.（2011).目で見て学ぶ放射線療法の有害反応　多職種チームで実践する治療と患者支援、日本看護協会出版会. ・勝俣　範之.（2012）. がんサバイバー―医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす.医学書院 ・中根 実.（2015）. がんエマージェンシー: 化学療法の有害反応と緊急症への対応 医学書院 ・日本がん看護学会.（2016).オンコロジックエマージェンシー―病棟・外来での早期発見と帰宅後の電話サポート（がん看護実践ガイド）. 医学書院 ・川﨑優子.（(2017). 看護者が行う意思決定支援の技法 30―患者の真のニーズ・価値観を引き出す関わりー. 医学書院. 国内外の最新の学術論文を資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、国内外のがん看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51657	授業 科目	実践がん看護演習Ⅱ Practical Oncology Nursing Seminar Ⅱ	担当 教員	○謝花小百合 神里みどり 非常勤講師：吉澤龍太 高江洲さくら、木村安貴 塚原ゆかり、具志堅春香 屋良利枝

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	緩和ケアにおける末期がん患者と家族に対する看護の課題に焦点をおき、国内外の最新の文献検討やがん看護実践活動を通して、高度な専門的実践能力を養うための知識や技法を習得する。特にがん患者の苦痛症状マネジメントに関するアセスメントとエビデンスに基づいた看護援助の方法に焦点をあてた学習を行う。また、実習、課題研究を行うために自己の課題に関する概念枠組みについて探求する。
到達目標	１．緩和ケアにおける末期がん患者と家族に対する包括的な看護援助について説明できる。 ２．苦痛症状のアセスメントの技法について説明できる。 ３．症状マネジメントの看護援助について説明できる。 ４．がん看護実践現場における課題を明確化できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	終末期がん患者が抱える様々な苦痛症状と看護援助 ・全人的な苦痛症状(身体・社会・精神・霊的側面）のアセスメント ・全人的ケアのための看護援助の方略 ・がんおよび非がんの患者の緩和ケアの特徴	謝花
第3・4回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(疼痛) ・疼痛コントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・疼痛コントロールの困難事例の検討	吉澤龍太 (非常勤) (OCNS)
第5・6回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(倦怠感) ・倦怠感のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・倦怠感のコントロールの困難事例の検討	高江洲さくら (非常勤)
第7・8回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(呼吸困難) ・呼吸困難のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・呼吸困難のコントロールの困難事例の検討	吉澤龍太 (非常勤) (OCNS)
第9・10回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(吐き気・嘔吐) ・吐き気・嘔吐のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・吐き気・嘔吐のコントロールの困難事例の検討	木村安貴 (非常勤) (OCNS)
第11・12回	症状コントロールのための補完代替療法の理論と実際(アロマセラピー) ・症状コントロールのためのアロマセラピーの理論 ・苦痛症状の緩和に対するアロマセラピーを活用した実践事例	塚原ゆかり (非常勤) アロマセラピスト
第13・14回	リンパ浮腫の病態生理とリンパドレナージの実際 ・終末期がん患者のリンパ浮腫の病態生理 ・リンパドレナージの実践事例 がん拠点病院のリンパ浮腫外来において、リンパドレナージの実際について実践活動を通して修得する	具志堅春香 (非常勤) (OCNS)

	・リンパ浮腫に対する計画立案、ケアの実践、評価について学修する	
第15・16回	がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークの実際 ・がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークとしての看護援助 ・がん患者の家族・遺族のグリーフワークに関する事例検討 ・緩和ケア病棟での遺族会へ参加し、実際の遺族のグリーフワークへの支援について実践を通して修得する	謝花
第17～19回	補完代替療法を活用したがん薬物療法・照射線療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用したがん薬物療法・放射線療法中の苦痛症状緩和のエビデンス ・実践で活用できるための方略 ・がん看護実践現場における課題の明確化と看護介入モデルの検討	神里
第20回	・高齢者がん患者の認知症に対する看護援助	屋良利枝 (非常勤) (老人CNS)
第21～23回	・がん看護実践現場における課題を明確にするための情報収集 実習施設あるいは自施設において、がん看護実践現場の課題を明確にするための情報収集および検討を行う。	神里 謝花
第24～26回	・がん看護実践における課題を明確にし、課題の解決に向けての看護活動の展開方略の検討	神里 謝花
第27・28回	・がん看護実践をするための調整(倫理調整含む) やコンサルテーションの方略の検討	神里 謝花
第29・30回	・がん看護実践を行うための看護介入モデルの検討	神里 謝花
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	・日本緩和医療学会.(2014).がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版.金原出版. ・日本緩和医療学会.(2018).がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き。　金原出版. ・日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員.(2013).終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会.(2017).がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン　金原出版. ・リンパ浮腫研究会.(2018).リンパ浮腫　診療ガイドライン、金原出版 ・日本リハビリテーション医学会　がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会.(2013). がんのリハビリテーションガイドライン, 金原出版株式会社 ・日本がんリハビリテーション研究会.(2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス, 金原出版株式会社 ・リンパ浮腫ケア～がん患者のリンパ浮腫の理解と看護の役割～、13(7)、2008. ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎.(2015).緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-. 南江堂	

	・東京女子医科大学病院看護部.(2015).急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ，中央法規 ・Jean lugton, Rosemary McIntyre,眞嶋朋子　監訳.(2015).実践的緩和ケア　看護は何をすべきか.エルゼビア・ジャパン. ・ヨアヒム･E･ツター,スティーブ・ノートン　加藤逸夫、佐藤佳代子　監訳.(2013).　リンパ浮腫マネジメント～理論・評価・治療・症例～.ガイアブックス. ・島崎寛将、倉津滋之、山崎圭一、江藤美和子.(2013).緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、中山書店 ・日本緩和医療学会.（2014）．専門家をめざす人のための緩和医療学．南江堂 ・日本緩和医療学会.（2016).がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版．金原出版 ・広瀬寛子.(2011)．悲嘆とグリーフケア．医学書院 ・坂口幸弘.(2012)．死別の悲しみに向き合う―グリーフケアとは何か．講談社 ・坂口幸弘.(2010)．悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ．昭和堂. ・多角的に考えるアドバンスケアプランニング(2017)、治療、南山堂 ・神里みどり、謝花小百合、他（2016）．がん患者の苦痛症状緩和のための補完代替療法のエビデンスカードの開発と有効性の検討．科学研究費助成事業. ・認知症疾患診療ガイドライン 2017.（2017）．日本神経学会．医学書院. ・ロバート･A･ニーメヤー,鈴木剛子（訳）.大切なものを失ったあなたへ.喪失をのりこえるガイド.春秋社. ・ロバート･A･ニーメヤー,富田拓郎/菊池愛希子（監訳）．喪失と悲嘆の心理療法　構成主義からみたら意味の探求．金剛出版. ・田村惠子，河正子、森田達也.（2017）．看護に活かすスピリチュアルケアの手引き第 2 版．青海社. ・高橋聡美.2012)．　グリーフケア　死別による悲嘆の援助.メジカルフレンド社. ・認知症疾患診療ガイドライン 2017.（2017）．日本神経学会．医学書院. ・イヴ・ジネスト（著），ロゼット・マレスコッティ（著），本田美和子（監修）.（2016）.「ユマニチュード」という革命：なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか．誠文堂、新光社. 国内外の最新の学術論文を資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備　考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51658	授業 科目	実践がん看護実習Ⅰa Practical Oncology Nursing PracticumⅠa	担当 教員	○謝花小百合 神里みどり　他

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90 時間				

授業概要	がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発ができるような基礎的な能力を養う。
到達目標	１．複雑な問題を持つがん患者・家族の事例を受け持ち、全人的な視点からアセスメントを行い、看護援助を展開することができる。 ２．医療チームの中で多職種との連携・調整をがん看護専門看護師と共に図り、ケアをコーディネートすることができる。 ３．実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈し、説明することができる。 ４．看護職者に対して、専門看護師としての教育的役割を実践することができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜実習の進め方＞ １．**事前学修**：実習計画書を作成する。指導教員に提示し実習内容を検討する。 ２．実習指導者との打ち合わせを行う。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 ３．**病院実習**：がん診療拠点病院（琉球大学医学部附属病院）において複雑な問題を持つがん患者やその家族の事例を2つ以上受け持ち、看護計画の立案、実施および評価という一連の看護過程を展開する。 看護職者の学習ニーズ・アセスメントをもとに､教育計画を立案し、実施、評価する。 実習施設内において中間、最終カンファレンスを計画し、実践した看護について討議を行う。 ４．**指導体制**：実習中は実習指導者および指導教員から随時、スーパービジョンを受ける。実習カンファレンスでは、指導者と共に実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める。 ５．**事後学修**：実習記録および課題レポートを提出する。 ＜実習場所と実習指導者＞ 施設：琉球大学医学部附属病院 指導者：多和田慎子、砂川華（がん看護専門看護師） ＜実習時期＞平成31年6月 2週間（10日間）詳細な日程は相談の上決定する ＊学生主体のカンファレンスを開催し，がん看護専門看護師や教員による指導を受ける。 ＊課題レポートをまとめる際は、がん看護専門看護師や教員のスーパービジョンを受ける。	謝花 神里

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。 実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	学生は主体的に実習指導者と指導教員と調整し、指導のもとに計画、実施を行う。但し、到達目標を達成できない場合は、実習期間を延長する。

※CNS38単位教育課程

科目コード	51659	授業科目	実践がん看護実習Ⅰb Practical Oncology Nursing PracticumⅠ	担当教員	○謝花小百合 神里みどり　他

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90 時間				

授業概要	がん看護専門看護師の役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）の実際について学び、実践の場で遂行できる能力を身につける。
到達目標	１．臨床および地域在宅で求められるがん看護専門看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割について説明できる。 ２．がん看護専門看護師の思考や行動の根拠を明確にしながら６つの役割が補完し合い機能していることを理解する。 ３．がん看護専門看護師が担当する各々の事例を通して、がん看護専門看護師の役割について考察できる。 ４．各施設におけるがん看護専門看護師の役割についてまとめ、高度実践看護について探求する。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	＜実習の進め方＞ １．**事前学修**：実習計画書を作成する。実習の目標、内容、方法について計画する。指導教員に提示し実習目標、内容、方法を検討する。 ２．実習指導者との打ち合わせを行う。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 ３．**役割実習**：がん看護専門看護師の活動に同行し、実践を見学する。見学した個別事象について、実践、調整、相談、教育、倫理調整などの役割に関して分析的に捉える。がん看護専門看護師の同行見学時には、チーム医療としてかかわる医師の鑑別診断、治療法の選択等に関する医学判断プロセスについて適宜ディスカッションする機会を持ち、がん看護専門看護師の役割・機能についてより理解を深める。 実習施設内においてカンファレンスを計画し、がん看護専門看護師や教員による指導を受ける。 ４．指導体制：実習中は実習指導者および指導教員から随時、スーパービジョンを受ける。実習報告会では、指導者と共に実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める。 ５．事後学修：実習記録および課題レポートを提出する。 ＜実習場所、実習指導者および実習時期＞	謝花 神里

	実習場所	実習指導者	実習時期
病院	①那覇市立病院	吉澤龍太　(OCNS) 具志堅春香 (OCNS)	平成32年 2月～3月 1週間 (5日間)
	②琉球大学医学部附属病院	多和田慎子 (OCNS) 伊波華　(OCNS)	
	＊実習施設は大学院生の臨床経験により決定する		
地域在宅	③医療法人社団 新国内科医院(在宅療養診療所)	宇野さつき (OCNS)	1週間 (5日間)

＊詳細な日程は相談の上決定する

	＊学生主体のカンファレンスを開催し，がん看護専門看護師や教員による指導を受ける。 ＊課題レポートをまとめる際は、がん看護専門看護師や教員のスーパービジョンを受ける。	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。	
備　考	学生は主体的に実習指導者と指導教員と調整し、指導のもとに計画、実施を行う。 但し、到達目標を達成できない場合は、実習期間を延長する。	

※CNS38単位教育課程

科目コード	51661	授業科目	実践がん看護実習Ⅱa Practical Oncology Nursing PracticumⅡa	担当教員	○謝花小百合 神里みどり

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	９０時間				

授業概要	主要ながんの診断・治療期、再発期における臨床判断および治療決定プロセスについて必要な知識や技術を学ぶ。がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスについて理解し、高度実践看護への応用について学ぶ。 がん患者の多様化するニーズをふまえ、医療機関との連携や在宅医療・介護サービスの提供がどのように行われているのか保健・医療・福祉サービス働くさまざまな職種の役割・機能および地域連携のあり方を理解し、高度実践者としての支援を探求する。
到達目標	１．主ながん（乳がん等）の診断（問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理検査、検査データ解釈）における臨床判断について説明できる。 ２．がん患者の治療戦略や治療決定プロセスについて説明できる。 ３．がん薬物療法あるいは放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスについて説明できる。 ４．がん薬物療法や放射線療法を受けている患者への看護実践の応用について考察できる。 ５．地域医療連携にかかわる部署における保健・医療・福祉サービス提供者の活動について理解し、がん患者の医療施設から地域への円滑な移行を行う上での課題について理解することができる。 ６．在宅療養を支える緩和ケア外来におけるがん看護専門看護師の実際の支援のあり方について学ぶ。 ７．地域におけるがん患者と家族を支える活動等に参加し、がん看護専門看護師の役割について学ぶ。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	＜実習の進め方＞ １．**事前学修**：実習計画書を作成する。実習の目標、内容、方法について計画する。指導教員に提示し実習目標、内容、方法を検討する。 ２．実習指導者との打ち合わせを行う。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 ３．**実習**　<u>がん診療の場</u> ＜実習内容＞ ①主ながん（乳がん等）の診断と治療決定における臨床判断プロセスを学ぶ ②がん薬物療法、放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスを学ぶ ③がん医療における地域連携の実際を学ぶ ＜実習方法＞ <u>①がんの診断・治療における臨床判断プロセスを学ぶ</u> ・外来の診察場面に同席し、医師が実際に行っている患者の問診、フィジカルアセスメントについて学ぶ。医師の指導のもと、患者の問診、フィジカルアセスメントを実施する。さらに、画像診断、病理診断、検査データを基にした診断プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 ・外来の診察場面において医師の指導のもと診断に基づいた治療計画や治療決定のプロセスを学ぶ。 ・課題レポートを作成し、問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理診断、検査データを基にした診断プロセス、治療決定に至るプロセスについてまとめ，高度実践看護への応用(ケアとキュアの融合)について考察する。	謝花 神里

②がん薬物療法あるいは放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスを学ぶ

・がん薬物療法あるいは放射線療法を受けるがん患者の有害事象を含めた身体管理（問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理診断、検査データ）における臨床判断、有害事象対策、治療効果の評価について学ぶ。
・実習施設内においてカンファレンスを計画し，実習での学びを振り返り、医師およびがん看護専門看護師、教員による指導を受ける。
・課題レポートを作成し、身体管理における臨床判断、有害事象対策、治療効果の評価についてまとめ，高度実践看護への応用(ケアとキュアの融合)について考察する。

③がん医療の場における地域連携の実際を学ぶ

・緩和ケアセンターまたはがん相談支援センターなどにおいて、がん看護専門看護師の実際の支援のあり方を学び、在宅または地域におけるがん患者と家族の支援のあり方を探求する。また、地域連携にかかわる部署における保健・医療・福祉サービス提供者の活動についての実際を学び、どのようにがん患者の医療施設から地域への移行が行われているのかを学ぶ。さらに「がん患者の就労支援相談」、「ピアサポーター（がん体験者）による相談」、患者サロン「ゆんたく会」の活動に参加し、地域で暮らしているがん患者と家族の生活をどのように支えているのかを学ぶ。がん看護専門看護師と多職種との連携や支援のあり方について考察する。
・実習施設内においてカンファレンスを計画し、実習を通して学びを振り返り、がん看護専門看護師および教員による指導を受ける。

4．指導体制：実習中は実習指導者および指導教員から随時、スーパービジョンを受ける。実習報告会では、指導者と共に実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める。
5．事後学修：実習記録および課題レポートを提出する。

＜実習場所、実習指導者および実習期間＞

	実習場所	実習指導者	実習期間
がん診療の場（①②）	独立行政法人 那覇市立病院	久田友哉 （肺がん専門医師） 足立源樹 （放射線治療医師） 小野亮子（乳腺医師） 吉澤龍太、具志堅春香 （OCNS）	平成32年 6月 2週間 （10日間） ＊詳細な日程は相談の上決定する
地域連携の実際（③）	独立行政法人 那覇市立病院 相談支援センター がん患者の就労支援相談 患者サロン「ゆんたく会」 琉球大学医学部附属病院 緩和センター 地域総括相談支援センター がん患者の就労支援相談 患者サロン「ゆんたく会」 ピアサポーターの相談支援 沖縄県立中部病院 相談支援センター 患者サロン「ゆんたく会」	吉澤龍太、具志堅春香 （OCNS）） 多和田慎子、砂川華 （OCNS） 濱田香純 （OCNS）	
	＊実習施設は大学院生の臨床経験により決定する		

	＊学生主体のカンファレンスを開催し，医師およびがん看護専門看護師、教員による指導を受ける。 ＊課題レポートをまとめる際は、医師やがん看護専門看護師、教員のスーパービジョンを受ける。
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	学生は主体的に実習指導者と指導教員と調整し、指導のもとに計画、実施を行う。但し、到達目標を達成できない場合は、実習期間を延長する。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51662	授業 科目	実践がん看護実習Ⅱb Practical Oncology Nursing PracticumⅡb	担当 教員	○謝花小百合 神里みどり

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	９０時間				

授業概要	がんの終末期における臨床判断および治療決定プロセスについて必要な知識や技術を学ぶ。また、がん患者の希望に沿った治療や療養生活の選択が行えるよう多職種等の連携調整を含めた高度実践看護について探求する。 終末期がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発ができるような能力を養う。
到達目標	１．緩和ケア医師による終末期のがん患者へのフィジカルアセスメントや病態から、どのように予後予測をたて、今後の療養にむけた緩和医療を提供しているのか説明できる。 ２．患者の希望に沿った治療や療養生活の選択が行えるよう多職種等の連携調整含めた高度実践看護の応用について考察できる。 ３．複雑な問題を持つ終末期がん患者や家族を受け持ち、全人的な視点から包括的なアセスメントを行い、それに基づいた症状緩和の看護実践を行う。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜実習の進め方＞ １．**事前学修**：実習計画書を作成する。実習の目標、内容、方法について計画する。指導教員に提示し実習目標、内容、方法を検討する。 ２．実習指導者との打ち合わせを行う。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 ３．**実　習**： **①緩和ケア診療の場** 緩和ケア医師の外来や病棟での診察の場面に同行し、終末期のがん患者への問診、フィジカルアセスメントや病態から、どのように予後予測をたて、今後の療養にむけた医療（ケア）を提供しているのか学ぶ。 ・緩和ケア医師がどのように患者や家族の希望に沿った治療や療法生活の選択を行っているのかを学ぶ。 ・がんの終末期における臨床判断および治療決定プロセスについて必要な知識や技術を学ぶ。 ・実習施設内においてカンファレンスを計画し、実習を通して学びを振り返り医師および教員による指導を受ける。 ・課題レポートを作成し終末期のがん患者の病態およびフィジカルアセスメントから、どのように予後予測をたて、今後の療養ができるよう、どのように医療を提供し、多職種連携・協働を行っているのかをまとめ、ケアとキュアの融合について考察する。 **②緩和ケア病棟における看護実践** 緩和ケア病棟（アドベンチストメディカルセンター）にて複雑な問題を持つ終末期がん患者やその家族を受け持ち、全人的な視点からのアセスメントに基づいた専門的な看護援助を展開する。 ・実習施設内においてカンファレンスを計画し、実践した看護について討議を行い、実習指導者や教員よる指導を受ける。 ４．**指導体制**：実習中は実習指導者および指導教員から随時、スーパービジョンを受ける。実習報告会では、指導者と共に実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める。	謝花 神里

5．**事後学修**：実習記録および課題レポートを提出する。

＜実習場所、実習指導者および実習期間＞

	実習場所	実習指導者	実習期間
緩和ケア診療の場（①）	社会医療法人 友愛会　南部病院	笹良剛史 （緩和ケア医師）	平成32年 9月～10月 2週間（10日間） ＊詳細な日程は相談の上決定する
緩和ケア病棟（②）	アドベンチスト メディカルセンター 緩和ケア病棟	魚住智絵 （緩和ケア認定看護師）	

＊学生主体のカンファレンスを開催し，医師およびがん看護専門看護師、教員による指導を受ける。
＊課題レポートをまとめる際は、医師やがん看護専門看護師、教員のスーパービジョンを受ける。

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	学生は主体的に実習指導者と指導教員と調整し、指導のもとに計画、実施を行う。 但し、到達目標を達成できない場合は、実習期間を延長する。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51663	授業 科目	実践がん看護実習Ⅲ Practical Oncology Nursing PracticumⅢ	担当 教員	○謝花小百合 神里みどり

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	９０時間				

授業概要	がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発が自立してできるような能力を養う。
到達目標	１．複雑な問題を持つがん患者・家族を受け持ち、看護援助を展開することができる。 ２．実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈することができる。 ３．がん看護専門看護師の役割を意識した看護援助の展開ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜実習の進め方＞ １．**事前学修**：実習計画書を作成する。実習の目標、内容、方法について計画する。指導教員に提示し実習内容を検討する。 ２．実習指導者との打ち合わせを行う。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。 ３．**病院実習**：複雑な問題を持つ患者・家族の事例を２つ以上受け持ち看護援助を展開する。その際にこれまでの実習を通じて修得した知識・技術を駆使し、がん看護援助と専門看護師の役割を統合させて実践する。また、がん看護専門看護師として、がん看護に携わる看護師の相談、教育、倫理調整、臨床研究指導について実践的な計画を立てて遂行する。実習施設内において中間カンファレンスを計画し、実践した看護について討議を行う。 ４．**指導体制**：実習中は実習指導者および指導教員から随時、スーパービジョンを受ける。中間カンファレンス、実習報告会では、指導者と共に実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める。 ５．**事後学修**：実習記録および課題レポートを提出する ＜実習場所、実習指導者および実習時期＞	謝花 神里

実習場所	実習指導者	実習時期
①那覇市立病院	吉澤龍太　(OCNS) 具志堅春香（OCNS）	平成33年5月～6月 2週間（10日間） ＊詳細な日程は相談の上決定する
②琉球大学医学部附属病院	多和田慎子（OCNS） 伊波華　(OCNS)	
③中部病院	濱田香純　(OCNS)	
④アドベンチストメディカルセンター	魚住智絵 （緩和ケア CN）	

＊大学院生の臨床経験により施設を選択する

＊学生主体のカンファレンスを開催し，がん看護専門看護師、教員による指導を受ける。
＊課題レポートをまとめる際は、がん看護専門看護師、教員のスーパービジョンを受ける。

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。
備　考	学生は主体的に実習指導者と指導教員と調整し、指導のもとに計画、実施を行う。 但し、到達目標を達成できない場合は、実習期間を延長する。

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51664	授業 科目	実践がん看護課題研究 Practical Oncology Nursing Problem Study	担当 教員	◎神里みどり 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	６０時間				

授業概要	がん看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1.研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2.論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3.専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	神里 謝花
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

３年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	論文審査・最終試験は、主査1名・副査2名の体制で行います。	
備　考	研究指導教員、研究指導補助教員の指導計画に従って下さい。 注）*のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。	

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51551	授業 科目	実践老年看護特論Ⅰ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅰ	担当 教員	○大湾明美 田場由紀
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	老年看護に関する概念や歴史を理解し、高齢者の特性及びそのアセスメントとケアを習得し、高度な看護実践に必要な高齢者の健康生活への理解を深める。						
到達目標	1. 高齢者及び老年看護に関連する概念、歴史について、述べることができる。 2. 高齢者の特性（身体機能、精神機能、社会機能、生活環境、地域文化）について、述べることができる。 3. 高齢者ケアにおけるアセスメントとケアについて、述べることができる。						

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	高齢者及び老年看護の概念 （老年期とは？、健康とは？生活とは？等）	大湾明美
第2回	老年看護の歴史 （日本及び諸外国における老年看護の歴史等）	〃
第3回 ～ 第7回	高齢者の特性 ①生活環境：生活の場、高齢者とバリアフリー、地域特性等 ②身体機能：加齢と老化、生理機能、感覚機能、老年症候群等 ③精神機能：生きがい、主観的健康感、主観的幸福感等 ④社会機能：社会関係、サクセスフルエイジング等 ⑤地域文化：高齢者と地域文化等	 田場由紀 〃 大湾明美 〃 〃
第8回 ～ 第13回	高齢者ケアにおけるアセスメントとケア ①アセスメントとケアの基本 ②コミュニケーション、面接技法 ③評価方法、アセスメントツール ④食事機能 ⑤排泄機能と清潔機能 ⑥移動機能	 大湾明美 〃 〃 田場由紀 〃 〃
第14回	老年看護における実践・教育・研究の動向と課題	大湾明美
第15回	まとめ	大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営：授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS26 単位教育課程

科目コード	51552	授業科目	実践老年看護特論Ⅱ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○大湾明美 田場由紀		
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	複雑な健康問題を持つ高齢者について、老年期の発達課題、老年看護の理論・モデル、高齢者のセルフケア、高齢者の倫理についての理解を深める。また、家族を含めて高齢者の抱える健康問題を解決するために、家族を理解するための理論や家族関係などを学習する。
到達目標	1. 老年期の発達課題について、述べることができる。 2. 老年看護に用いられる主要な理論・モデルについて、述べることができる。 3. 高齢者のセルフケアに関する理論と実際について、述べることができる。 4. 高齢者と家族の問題と解決方法について、述べることができる。 5. 高齢者をめぐる倫理上の課題について、述べることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	老年期の発達課題	大湾明美
第1回	①ライフサイクル、エイジング、エリクソン等	〃
第2回	②自我発達	〃
	老年看護の理論・モデル	〃
第3回	①ストレングスモデル、エンパワメント等	〃
第4回	②役割理論、危機理論、社会的学習理論等	〃
第5回	③ニーズ論	〃
	高齢者のセルフケア	
第6回	①セルフケアの概念、セルフケア理論等	田場由紀
第7回	②セルフケアをめぐる看護研究	〃
第8回	③高齢者のセルフケア能力を活かした看護	〃
第9回	④家族のセルフケア機能、家族のセルフケアと看護	〃
	高齢者と家族	
第10回	①家族の定義、家族の健康、家族の形態と機能等	大湾明美
第11回	②家族を理解するための理論:家族関係論、家族システム論等	〃
第12回	③家族関係の問題と解決方法	〃
第13回	④介護者としての家族	〃
第14回	高齢者と倫理 (自己決定、インフォームドコンセント、人権擁護)	〃
第15回	まとめ	〃

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51553	授業 科目	実践老年看護特論Ⅲ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅲ	担当 教員	○大湾明美 田場由紀

開講年次	博士前期課程 1 年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30 時間				

授業概要	高齢者のサポートシステムの現状と実際について理解し、今後の高齢者のためのサポートシステムを創造し、提案する。
到達目標	1. 高齢者のサポートシステムの基本的な概念について、述べることができる。 2. 高齢者の保健・医療・福祉・看護のサポートシステムの現状について、述べることができる。 3. 高齢者のサポートシステムの実際を具体的に理解することができる。 4. 高齢者のサポートシステムを創造し、提案することができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回 第2回 ～ 第4回	高齢者のサポートシステムの基本的な概念（ケアマネジメント、ソーシャルサポート等） 高齢者のサポートシステムの現状 ①保健・医療からみたサポートシステム ②福祉・介護からみたサポートシステム ③看護からみたサポートシステム	大湾明美 〃 〃 〃
第5回 第6回	高齢者のサポートシステムの実際① 在宅の事例	田場由紀
第7回 第8回	高齢者のサポートシステムの実際② 新しい住まいの事例	田場由紀
第9回 ～ 第12回	高齢者のサポートシステムの実際③ 地域における事例	大湾明美
第 13回 第 14回	高齢者のサポートシステムの創造 今後のサポートシステムの提案	〃
第 15 回	まとめ	大湾・田場

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営：授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51554	授業 科目	実践老年看護特論Ⅳ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅳ	担当 教員	○大湾明美 田場由紀 桑田美代子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1 年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30 時間				

授業概要	高齢者を取り巻く社会の変遷と社会保障、高齢者ケアに関連する政策、老人看護専門看護師の活動と看護管理の現状と実際について、理解を深める。
到達目標	1. 高齢者を取り巻く社会の変遷と社会保障について、述べることができる。 2. 高齢者ケアに関連する政策について、述べることができる。 3. 老人専門看護師の活動をとおしてその役割機能等について、述べることができる。 4. 看護管理の現状と課題について、述べることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	高齢者を取り巻く社会の変遷	大湾明美
第2回	〃	
第3回	超高齢社会における社会保障の動向	〃
第4回	〃	
第5回	保健・医療・福祉・介護の政策	田場由紀
第6回	〃	
第7回	老年看護に関連する政策	〃
第8回	〃	
第9回	老人専門看護師の活動	
第 10 回	①専門看護師誕生の背景、歴史、教育課程等	桑田美代子(非常勤)
	②老人看護専門看護師の役割機能	〃
第 11 回	高齢者ケア施設における看護管理の現状と課題	〃
第 12 回	〃	
第 13 回	高齢者ケア施設における看護管理の研究の現状と課題	大湾明美
第 14 回	〃	
第 15 回	まとめ	大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51555	授業 科目	実践老年看護演習Ⅰ Practical Geriatric Nursing Seminar I		担当 教員	○大湾明美 田場由紀		
開講年次	博士前期課程 1～2年次		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	60時間				
授業概要	在宅における高齢者ケアがエビデンスに基づいて実践できるように、重要な概念及び現状と課題について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。 また、在宅の高齢者ケアにおける高度の看護専門職者としての役割機能について、学習する。							
到達目標	1. 在宅における高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題について、述べることができる。 2. 文献学習により在宅における高齢者ケアの知識を深め、研究方法や問題解決方法等の多様性を理解することができる。 3. 文献学習の結果を自己の課題につなげ、在宅における高齢者ケアの改善のための提案をすることができる。 4. 在宅における高齢者ケア、特に生活環境、生活活動、家族関係における看護の役割機能について、述べることができる。 5. 学生の関心を基に、実践上及び研究上の疑問を明らかにし、実習や課題研究に役立てることができる。							

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	在宅における高齢者ケアの重要な概念及びケアの現状と課題	大湾明美
第3～12 回	文献学習①（認知症高齢者ケアに関する文献）〔教員または学生による提示〕	〃
第 13・14 回	文献学習の報告及び自己の課題の提案（学生報告）	〃
第 15・16 回	在宅における高齢者ケアにおける自己の課題の明確化	〃
第 17～22 回	文献学習②（自己の課題に関連する文献）	〃
第 23・24 回	在宅における高齢者ケアにおける看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	田場由紀
第 25・26 回	生活環境、生活活動に関する看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	〃
第 27・28 回	家族関係に関する看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	〃
第 29・30 回	在宅における高齢者ケアの改善のための計画書の報告及び課題の提案	大湾明美・ 田場由紀

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：演習内容により、資料や文献等を用いて進める。 運　営：前半は教員主導、後半は学生主導で行う。

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51556	授業 科目	実践老年看護演習Ⅱ Practical Geriatric Nursing Seminar Ⅱ	担当 教員	○田場由紀 大湾明美
開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				
授業概要	認知症高齢者ケアがエビデンスに基づいて実践できるように、重要な概念及び現状と課題について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。 また、認知症高齢者ケアにおける高度の看護専門職者としての役割機能について、学習する。				
到達目標	1. 認知症高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題について、述べることができる。 2. 文献学習により認知症高齢者ケアの知識を深め、研究方法や問題解決方法等の多様性を理解することができる。 3. 文献学習の結果を自己の課題に繋げ、認知症高齢者ケアの改善のための提案をすることができる。 4. 認知症高齢者ケア、特に生活環境、生活活動、家族関係における看護の役割機能について、述べることができる。 5. 学生の関心をもとに、実践上及び研究上の疑問を明らかにし、実習や課題研究に役立てることができる。				

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1回-2回	認知症高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題	田場由紀
3回-14回	文献学習① 認知症高齢者ケアの現状	〃
15 回-22 回	文献学習② 認知症高齢者ケアの開発と課題	〃
23 回-24 回	認知症高齢者ケアにおける看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	大湾明美
25 回-27 回	生活環境、生活活動に関する看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	〃
27 回-28 回	家族関係に関する看護の役割機能（直接ケア、相談、調整、教育）	〃
29 回-30 回	認知症高齢者ケアの改善のための方法	田場由紀・ 大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：演習内容により、資料や文献等を用いて進める。 運　営：前半は教員主導、後半は学生主導で行う。

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51557	授業 科目	実践老年看護実習Ⅰ Geriatric Nursing Practicum　Ⅰ		担当 教員	○田場由紀 大湾明美		
開講年次	博士前期課程 2年次前期		単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	180 時間				
授業概要	認知症や脳血管障害等により生活機能障害を持つ高齢者が生活している施設と在宅の場で、対象を総合的にアセスメントし生活ニーズを導き、直接ケア、教育、相談、調整の役割機能をいかし、高度な看護実践者としての能力を養う。							
到達目標	1. 認知症などの生活機能障害を持つ高齢者の生活ニーズを解決するために、高度のアセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整）、評価を展開することができる。 2. 施設と在宅での高齢者ケアの実習を通して、看護実践上の課題を述べることができる。 3. 高度な看護実践者として、看護実践上の課題の解決に向けた提案ができる。							

回　数	教育内容及び計画	担当者名
	1. 在宅でケアを受けている場での実習〔訪問看護ステーション等〕（4週間） （浦添市：名嘉村クリニック在宅ケアセンター） 1）訪問看護ステーション等で、老人看護専門看護師相当の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整）、評価の看護実践を行う。 2）看護実践事例のうち 3 事例を選択し、ケースレポートを作成する。事例選定は、認知症高齢者、実習先の処遇困難事例を含むものとする。 3）ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5）課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。 2. 集団でケアを受けている場での実習〔認知症高齢者の施設等〕（4週間） （那覇市：オリブ山病院認知症治療病棟） 1）認知症高齢者の施設等で、老人看護専門看護師相当の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施、評価の看護実践を3事例行い、ケースレポートを作成する。 2）3事例のアセスメント、計画、実施、評価のケースレポートを作成し、看護実践上の課題を見いだす。 3）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員及び老人看護専門看護師相当の指導者とディスカッションをする。	田場由紀 大湾明美

教育の進め方、運営、評価	進め方：学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営：学生の主体で展開する。 評価：ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	

※CNS26 単位教育課程

科　目 コード	51558	授業 科目	実践老年看護実習Ⅱ Geriatric Nursing Practicum　Ⅱ		担当 教員	○大湾明美 田場由紀		
開講年次	博士前期課程 2年次前期		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	90 時間				
授業概要	認知症高齢者の看護活動をとおして、高度な看護実践者に必要な家族を含む認知症高齢者への直接ケアを習得する。また、高齢者ケアの場で、看護職や保健医療福祉の専門職者への教育、相談、調整の能力を習得する。							
到達目標	1. 認知症高齢者専門施設などで、家族を含む認知症高齢者への高度な直接ケアができる。 2. 高齢者ケアの場で老人看護専門看護師の指導のもとに、専門看護師としての看護活動が理解できる。							
回　数	教 育 内 容 及 び 計 画							担当者名
	1. 認知症高齢者専門施設における実習（1週間）（岡山県：きのこ介護老人保健施設） 1）老人看護専門看護師相当の指導者のもとに、「実践老年看護実習Ⅰ」での認知症高齢者事例からの学びや看護実践上の課題の解決方法をいかし、家族へのケアを含めて看護活動を実践する。 2）看護活動の実践を、専門看護師に求められる役割機能（直接ケア、教育、相談、調整）にそってレポートを作成する。 3）レポートをもとに、プレゼンテーションし、担当教員とディスカッションを行う。 4）老人専門看護師が身につけるべき看護実践の知識とスキルについてレポートする。 2. 老人看護専門看護師が勤務する機関・組織における実習（1週間）（東京都：青梅慶友病院） 1）老人看護専門看護師の看護活動（直接ケア、スタッフへの教育、相談、調整、管理運営）に参加する。 2）老人看護専門看護師の看護職や保健医療福祉の専門職者へのコンサルテーションや調整の視点からレポートを作成する。 3）レポートをもとに、プレゼンテーションし、担当教員と老人看護専門看護師とディスカッションを行う。 4）老人専門看護師が身につけるべきコンサルテーションや調整についてレポートする。 3. 最終報告及び担当教員とのディスカッション 「実践老年看護実習Ⅰ」、「実践老年看護実習Ⅱ」の実習を振り返り、最終報告を行い、担当教員とディスカッションをし、「実践老年看護課題研究」につなげる。							大湾明美 田場由紀
教育の進め方、運営、評価	進め方：学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営：学生の主体で展開する。 評価：ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備　考								

※CNS26単位教育課程

科　目 コード	51559	授業 科目	実践老年看護課題研究 Practical Geriatric Nursing Problem Study	担当 教員	◎大湾明美 ◎田場由紀

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	老年看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	大湾明美 田場由紀
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

２年次 ３年次	＜4月～3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。 4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭又は筆答による）を行う。	
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。	

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51561	授業 科目	実践老年看護特論Ⅰ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅰ	担当 教員	○大湾明美　田場由紀 桑田美代子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	老年看護の基盤として、老いの理解に必要な理論や概念(生涯人間発達論、適応理論、QOL、ニーズ論)と、老年看護の高度実践に必要なモデル(ストレングスモデル、ICF モデル、セルフケア、文化看護)について学ぶ。また、高齢者ケアにおける倫理的課題と我が国の高齢者ケアの方向性ふまえ、地域志向の老人専門看護師としての役割・機能を学修する。
到達目標	1. 老いの理解に必要な生涯人間発達論、適応理論、QOL、ニーズ論を学び、老いの特徴を踏まえた高齢者の捉え方を述べることができる。 2. 老年看護の高度実践に必要なストレングスモデル、ICF モデル、セルフケア、文化看護の概念を理解し、高齢者ケアの考え方を述べることができる。 3. 高齢者ケアにおける倫理について述べることができる。 4. 我が国の高齢者ケアの動向と方向性を述べることができる。 5. 老人専門看護師の高度な実践から役割機能を学び、学んだ理論と実践をつなげて自らの課題を見出すことができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	1. 老いの理解	
第1回	①生涯人間発達論	大湾明美
第2回	②適応理論(サクセスフル・エイジング)	〃
第3回	③QOL の概念	〃
第4回	④ニーズ論	〃
	2. 老年看護のケアモデルと高齢者ケアの考え方	
第5回	①ストレングスモデル	田場由紀
第6回	②セルフケアの概念	〃
第7回	③ICF モデル	〃
第8回	④文化看護	大湾明美
	3. 高齢者ケアにおける倫理的課題	
第9回	①急性期病院における倫理的課題	大湾明美
第10回	②慢性期・高齢者施設における倫理的課題	〃
第11回	③在宅ケアにおける倫理的課題	〃
第12回	**4. 我が国における高齢者の疫学と高齢者ケアの動向およびケアの方向性**	大湾明美
	5. 老人専門看護師の活動と役割機能	
第13回	①老人専門看護師認定制度の誕生の背景と展望	桑田美代子
第14回	②老人専門看護師の役割機能と活動の実際	〃
第15回	**6. まとめ** 老人専門看護師をめざす自己の課題のプレゼンテーション(学生)	大湾・田場

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科目コード	51562	授業科目	実践老年看護特論Ⅱ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○大湾明美　田場由紀 佐久川政吉(非常勤)
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	高齢者の生活における複雑な健康課題を、身体的、精神的、社会的側面と環境、文化との相互作用で捉える包括的アセスメントについて学修する。また、認知症高齢者のアセスメント上の留意点や、高度な医療支援や生活支援を必要とする在宅高齢者のアセスメントについてEBPに基づいて学修する。				
到達目標	1. 高齢者の生活を、身体的・精神的・社会的健康の状況と環境、地域文化との相互作用の視点から包括的アセスメントについて述べることができる。 2. EBPの構成要素を理解し、エビデンスの活用と高齢者を主体とした看護実践に必要な生活ニーズのアセスメントについて述べることができる。 3. 認知機能のアセスメント上の課題と留意点を述べることができる。 4. アセスメントが看護実践に及ぼす影響について述べることができる。 4. 高齢者を主体とした看護実践を、包括的なアセスメントに基づいて実践するための自己の課題と解決策を述べることができる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
	1. 高齢者の健康と生活	
第1回	①高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と個体の適応	大湾明美
第2回	②高齢者の健康と環境との相互作用	〃
第3回	③高齢者の健康と地域文化との相互作用	〃
	2. EBPと高齢者の包括的アセスメント	
第4回	①EBPと生活ニーズ	田場由紀
第5回	②生活ニーズをアセスメントする英国式アセスメントガイドライン	〃
第6回	③高齢者総合機能評価(CGA)	〃
第7回	④高齢者の身体機能、精神機能、社会機能のアセスメントに用いられる様々なスケール	〃
	3. ケア環境に応じたアセスメントの特徴	
第8回	①治療の場におけるアセスメント	田場由紀
第9回	②療養や高齢者施設の場におけるアセスメント	〃
第10回	③在宅の場におけるアセスメント	〃
第11回	④エンド・オブ・ライフ期におけるアセスメント	〃
	4. 高齢者(在宅・認知症)のアセスメントが看護実践に及ぼす影響(事例展開)	
第12回	①高度な医療支援を必要とする在宅高齢者のアセスメントによるケアの実際	大湾明美
第13回	②治療の場における認知症高齢者のアセスメントによるケアの実際	佐久川政吉
第14回	③生活の場における認知症高齢者のアセスメントによるケアの実際	〃
第15回	**5. まとめ** 高齢者を主体とした看護実践を、包括的なアセスメントに基づいて実践するための自己の課題と解決策のプレゼンテーション(学生)	大湾・田場

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科 目 コード	51563	授業 科目	実践老年看護特論Ⅲ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅲ	担当 教員	○大湾明美　名嘉村博（非常勤）、伊志嶺恒洋（非常勤）、城間健（非常勤）、稲福哲也（非常勤）、喜納美津男（非常勤）、笠原大吾（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1 年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30 時間				

授業概要	高齢者に特徴的な健康障害と、必要な検査や侵襲性の高い治療や薬物療法の基本的な知識と高齢者の特徴である歯科口腔環境が全身状態に及ぼす影響について学修する。また、地域包括ケアシステムにおける病院の医療と在宅医療のつなぎ（医療連携の機能）について学修する。
到達目標	1. 高齢者に特徴的な健康障害の病態生理と、診断に必要な検査について述べることができる。 2. 高齢者に特徴的な健康障害の治療法（薬物療法を含む）について述べることができる。 3. 高齢者の歯科口腔環境が全身状態に及ぼす影響について述べることができる。 4. 地域包括ケアシステムにおける病院の医療と訪問診療のつなぎについて述べることができる。 5. 在宅でに薬物動態と座イラクにおける薬物療法について述べることができる。 6. 在宅での検査、治療を必要とする高齢者に必要な看護実践を提案できる。

回 数	授 業 内 容 及 び 計 画	担当者名
	1. 高齢者に多い疾患の病態生理と診断・治療法	
第 1 回	①老化を伴う呼吸器の病態生理と呼吸器疾患の診断に必要な検査	名嘉村博
第 2 回	②高齢者の呼吸器疾患の治療法（外来、入院、在宅）	〃
第 3 回	③老化に伴う循環器の病態生理と循環器疾患の診断に必要な検査	〃
第 4 回	④高齢者に特徴的な循環器疾患の治療法（外来、入院、在宅）	〃
第 5 回	⑤老化を伴う骨・筋肉の病態生理と整形疾患の診断に必要な検査	伊志嶺恒洋
第 6 回	⑥高齢者に特徴的な整形疾患の治療法（外来、入院、在宅）	〃
第 7 回	⑦高齢者の歯科口腔環境と歯科疾患	城間健
第 8 回	⑧高齢者の歯科治療法（外来、入院、在宅）	〃
第 9 回	⑨認知症の病態生理とその診断に必要な検査	稲福徹也
第 10 回	⑩認知症の治療法（外来、入院、在宅）	〃
	2. 病院の医療と在宅医療のつなぎ（医療連携の機能）	
第 11 回	①訪問診療からみた認知症高齢者の医療連携	喜納美津男
第 12 回	②訪問診療からみた在宅看取りの医療連携	〃
	3. 薬物療法と在宅	
第 13 回	①薬物治療の種類と高齢者の薬物動態の特徴	笠原大吾
第 14 回	②在宅における薬剤療法	〃
第 15 回	**4. まとめ** 検査や治療を必要とする高齢者に必要な看護実践の提案（学生）	大湾明美

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営：授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科目コード	51564	授業科目	実践老年看護特論Ⅳ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅳ	担当教員	○大湾明美　田場由紀 東嵩西寿枝(非常勤) 石橋みゆき(非常勤) 桑田美代子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	高齢者と家族を取り巻く社会の変遷から多死社会の現状と課題を導き、高齢者の権利擁護について学修する。また、家族の理解に必要な家族システム理論、家族危機理論、ソーシャルサポートを学び、老性変化による生活機能障害が家族機能と家族関係にもたらす課題について学修する。さらに、高齢者とその家族への倫理的な判断を含む高度な看護判断が求められる意思決定支援について、特に、退院支援と看取りに焦点をあてて実践的に学び、End of Life Care の看護実践および在宅看取りの可能性と限界を学修する。
到達目標	1. 我が国における高齢者と家族を取り巻く社会の変遷について述べることができる。 2. 家族の理解に必要な理論(家族システム理論、家族危機理論、ソーシャルサポート)について述べることができる。 3. 老性変化がもたらす生活機能障害が家族機能と家族関係に与える影響と課題を述べることができる。 4. 高齢者とその家族の意思決定へのアセスメントによる看護実践について述べることができる。 5. 退院支援や End of Life Care の実践から、高齢者の意思決定へのアセスメントと看護実践について具体的に提案できる。 5. 在宅看取りの可能性と限界から、在宅での看取りを推進のための在宅看護の提案ができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	1. 高齢者と家族を取り巻く社会の変遷	
第1回	①多死社会を迎えた我が国の高齢者死亡の現状と課題	大湾明美
第2回	②高齢者の権利擁護に関する国内外の動向と課題	〃
	2. 家族機能と家族関係を理解するための理論	
第3回	①家族システム理論、家族危機理論から捉えた家族機能	大湾明美
第4回	②ソーシャル・ネットワークから捉えた家族関係	〃
	3. 高齢者の生活機能障害が家族関係に与える影響と高齢者ケアの課題	
第5回	①高齢者の生活機能障害と身体拘束、高齢者虐待	田場由紀
第6回	②高齢者の生活機能障害とリロケーション・ダメージ	〃
	4. 高齢者とその家族の意思決定へのアセスメントと看護実践	
第7回	①退院支援における高齢者と家族の意思決定へのアセスメントと看護実践	東嵩西寿枝
第8回	②退院支援における高齢者と家族の意思決定を支える看護実践	〃
第9回	③在宅の場における高齢者と家族の意思決定へのアセスメントと看護実践	石橋みゆき
第10回	④家族による意思決定の限界とその看護実践	〃
	5. End of Life Care の実際	
第11回	①End of Life Care 期の高齢者への看護実践	桑田美代子
第12回	②End of Life Care 期の家族への看護実践	〃
	6. 在宅看取りの可能性と限界	
第13回	①家族と地域の価値に支えられた重介護のひとり暮らし高齢者の在宅死の可能性	大湾明美
第14回	②家族と地域および専門職の価値による在宅での End of Life Care の限界	〃

第 15 回	7. まとめ 　高度な医療を必要とする高齢者、あるいは認知症高齢者の事例を選定し、意思決定へのアセスメントを実施し、家族・関係者との協働による在宅看護を提案する（学生）	大湾・田場
テキスト		
参考文献		
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。	
備　考	進め方：各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営：授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。	

※CNS38 単位教育課程

科目コード	51565	授業科目	実践老年看護特論Ⅴ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅴ	担当教員	○大湾明美　田場由紀 坂東瑠美(非常勤) 美底恭子(非常勤)
開講年次	博士前期課程 2年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	グローバルな視点での国内外の高齢者保健医療福祉政策の変遷および、ローカルな視点での沖縄県で独自に展開された高齢者保健医療福祉政策から、環境・文化との相互作用として政策を理解し、地域の課題に照らして解決策が見いだされてきた実際を学ぶ。また、グローバルな視点としてプライマリ・ヘルス・ケアの理念を理解しつつ、ローカルな視点でひとりの高齢者のニーズから家族、関係者、地域の人々と保健医療福祉の専門職との協働で創造する高齢者のサポートシステムのプロセスを学修する。地域で生活する高齢者を取り巻く環境・文化を活かし、地域包括ケアシステムの構築に向けた高齢者ケアの提案ができる。						
到達目標	1. グローバルな視点から保健医療福祉政策の現状と課題を理解しつつ、ローカルな地域の実情に合わせ個別的な政策を学び、、環境・文化との相互作用として政策を理解する。 2. プライマリ・ヘルス・ケアの理念に基づき、地域のおかれた状況(課題)の中に解決策が潜在していることを理解する。 3. 環境・文化を活かし高齢者のサポートシステムを創造している高度実践から「協働」とは何かを実践的に理解し、サポート(政策やサービス)の活用に留まらず、高齢者のニーズからケアを創造するための老人専門看護師の役割を述べることができる。 4. 地域包括ケアシステムの実現にむけて、老人専門看護師として取り組むべき課題を考察することができる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
	1. 環境・文化の影響を受ける高齢者保健医療福祉政策	
第1回	①国内外の高齢者保健医療福祉政策	大湾明美
第2回	②国内外の認知症対策の現状	〃
第3回	③沖縄県の高齢者保健医療政策の歴史	〃
第4回	④プライマリ・ヘルス・ケアから捉えた沖縄県の高齢者保健医療政策	〃
	2. サポートシステムの理解	
第5回	①ソーシャル・サポート・ネットワークとソーシャル・キャピタル	田場由紀
第6回	③ケアマネジメントとソーシャルワーク	〃
	3. サポートシステム活用の実際	
第7回	①ケース・ワークとサポートシステムの活用	大湾明美
第8回	②グループ・ワークとサポートシステムの活用	〃
第9回	③コミュニティ・ワークとサポートシステムの活用	〃
	4.「協働」による地域包括ケアシステムの創造(実践事例)	
第10回	①看護専門職と高齢者、家族、関係者との協働による高齢者ケア	坂東瑠美
第11回	②看護専門職と地域住民との協働による高齢者ケア	美底恭子
第12回	③協働による新たな介護予防	田場由紀
第13回	④協働による新たな地域ケア	大湾明美
第14回	⑤協働による新たな地域ケアシステムの創造	〃
	5. まとめ	
第15回	地域包括ケアシステムの構築に向けて、老人専門看護師として取り組むべき課題についてのプレゼンテーション(学生)	大湾・田場

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51566	授業 科目	実践老年看護演習 I Practical Geriatric Nursing Seminar I		担当 教員	○大湾明美　田場由紀		
開講年次	博士前期課程 1 年次後期	単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・演習		授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60 時間					
授業概要	在宅において、高度な医療支援や生活支援を要する高齢者のケアがエビデンスに基づいて実践できるよう、在宅ケアの実践、教育、研究の現状について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。また、在宅の高齢者ケアにおける最新の課題（倫理的課題を含む）について学び、老人専門看護師の役割・機能を学修する。							
到達目標	1. 在宅ケアの歴史と在宅ケアの実践における現状と課題を学ぶ。 2. 在宅ケアにおける医療支援と生活支援の特徴と課題を述べることができる。 3. 在宅ケアにおける実践、教育、研究の現状について、国内外の文献を活用し調査報告することができる。 4. 最新の国内外の文献を通して得た知識に基づき、自己の課題を明確化し、老人専門看護師の役割・機能を考察できる。							

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2 回	1. 在宅ケアの歴史と現状 ①在宅ケアの概念 ②国内外の在宅ケアの歴史と動向	大湾明美
第 3・4 回	2. 在宅ケアにおける医療支援と生活支援の特徴と課題 ①在宅ケアにおける医療支援と生活支援の歴史と政策 ②在宅ケアにおける医療行為	田場由紀
第 5～14 回	3. 在宅ケアにおける実践、教育、研究の現状に関する文献検討と調査報告（学生）	大湾・田場
第 15 回	4. 調査報告の結果を踏まえた自己の課題の明確化とプレゼンテーション（学生）	〃
第 16・17 回	5. 自己の課題を明確にするためのディスカッション	〃
第 18 回	6. 自己の課題に照らした文献検討のためのディスカッション	〃
第 19～28 回	7. 自己の課題に照らした文献検討と調査報告（学生）	〃
第 29・30 回	8. 課題解決に向けて果たすべき老人専門看護師の役割・機能の考察とプレゼンテーション（学生）とディスカッション	〃

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方：各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営：授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51567	授業 科目	実践老年看護演習Ⅱ Practical Geriatric Nursing SeminarⅡ		担当 教員	○田場由紀　大湾明美 佐久川政吉(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1 年次後期	単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60 時間				
授業概要	認知症高齢者ケアがエビデンスに基づいて実践できるよう、認知症ケアの実践、教育、研究の現状について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。また、認知症高齢者のケアにおける最新の課題（倫理的課題を含む）について学び、老人専門看護師の役割・機能を学修する。						
到達目標	1. 認知症ケアの歴史と国内外の政策を学ぶ。 2. 認知症ケアにおけるケア技法を学ぶ。 3. 認知症ケアにおける実践、教育、研究の現状について、国内外の文献を活用し調査報告することができる。 4. 最新の国内外の文献を通して得た知識に基づき、自己の課題を明確化し、老人専門看護師の役割・機能を考察できる。						

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2 回	1. 認知症ケアの歴史と現状	田場由紀
第 3・4 回	2. 認知症ケアの技法 ①パーソン・センタード・ケア ②認知症ケアとして開発された多様な療法とその特徴	佐久川政吉
第 5～14 回	3. 認知症ケアにおける実践、教育、研究の現状に関する文献検討と調査報告(学生)	田場・大湾
第 15 回	4. 調査報告の結果を踏まえた自己の課題の明確化とプレゼンテーション(学生)	〃
第 16・17 回	5. 自己の課題を明確にするためのディスカッション	〃
第 18 回	6. 自己の課題に照らした文献検討のためのディスカッション	〃
第 19～28 回	7. 自己の課題に照らした文献検討と調査報告(学生)	〃
第 29・30 回	8. 課題解決に向けて果たすべき老人専門看護師の役割・機能の考察とプレゼンテーション(学生)とディスカッション	〃

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。
備　考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運　営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51568	授業 科目	実践老年看護実習Ⅰ Geriatric Nursing Practicum　Ⅰ		担当 教員	○田場由紀 大湾明美		
開講年次	博士前期課程 1年次後期		単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	180時間				
授業概要	在宅で高度な医療支援を必要とし、生活機能障害を抱え在宅で生活する高齢者とその家族に対し、総合的なアセスメントを実施して生活ニーズを導き、看護過程を展開する。また、ニーズを充足するために、本人を含めた保健医療福祉専門職、家族、関係者との協働による個別ケアを実践し、老人専門看護師としての能力を養う。							
到達目標	1. 在宅で高度な医療ケアを必要とし、生活機能障害を持つ高齢者の生活ニーズを解決するために、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）、評価を展開することができる。 2. 都市部と沖縄県において特徴的な島嶼部の在宅での高齢者ケアの実習を通して、地域の違いによる看護実践上の課題を述べることができる。 3. 老人専門看護師という高度看護実践者として、看護実践上の課題の解決に向けた提案ができる。							

回　数	教育内容及び計画	担当者名
	1. 都市部において在宅ケアを受けている場での実習（2週間以上） （実習施設：所在地，浦添市．名嘉村クリニック在宅ケアセンター） 1）訪問看護ステーション等で、老人看護専門看護師相当の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）、評価の看護実践を行う。 2）看護実践事例のうち3事例を選択し、ケースレポートを作成する。事例選定は、高度な医療支援を要する高齢者（看取りを含む）、認知症高齢者、実習先の処遇困難事例を含むものとする。 3）ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5）課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。 **2. 島嶼部において在宅ケアを受けている場での実習（2週間以上）** （実習施設・所在地，宮古島市．小規模多機能型居宅介護事業所きゅーぬふから舎） 1）小規模多機能型居宅介護事業所等で、老人看護専門看護師相当の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）、評価の看護実践行う。 2）看護実践事例のうち3事例を選択し、ケースレポートを作成する。事例選定は、都市部と同様とする。 3）ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5）課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。	田場由紀 大湾明美

教育の進め方、運営、評価	進め方：学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営：学生の主体で展開する。 評価：ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51569	授業 科目	実践老年看護実習Ⅱ Geriatric Nursing Practicum Ⅱ		担当 教員	○田場由紀 大湾明美		
開講年次	博士前期課程 1 年次後期		単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	180 時間				
授業概要	認知機能障害を抱え、多様な場でケアを受けつつ治療や療養生活をしている高齢者とその家族に対し、総合的なアセスメントを実施して生活ニーズを導き、看護過程を展開する。認知機能障害を抱える高齢者のコミュニケーション障害への支援方法を見いだしたうえで、本人を含めた保健医療福祉専門職、家族、関係者との協働による個別ケアを実践し、老人専門看護師としての能力を養う。							
到達目標	1. 急性期の治療を必要とする認知症高齢者に対し、生活機能障害を持つ高齢者の生活ニーズを解決し、治療やリロケーションへの適応を促進するために、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）、評価を展開することができる。 2. 認知症治療および慢性疾患の急性増悪に伴う急性期治療に特徴的な認知症ケアの実習を通して、認知症ケアにおける看護実践上の課題を述べることができる。 3. 老人専門看護師という高度看護実践者として、看護実践上の課題の解決に向けた提案ができる。							
回　数	教 育 内 容 及 び 計 画							担当者名
	1. 精神科病棟における認知症急性期治療の場での実習（2 週間以上） （実習施設：所在地，那覇市．オリブ山病院） 1）認知症治療病棟等で、老人看護専門看護師相当の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）、評価の看護実践を行う。 2）看護実践事例のうち 3 事例を選択し、ケースレポートを作成する。事例選定は、入院初期の高齢者、在宅移行期の高齢者、実習先の処遇困難事例を含むものとする。 3）ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5）課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。 **2. 急性期病院における慢性疾患の急性増悪の治療の場での実習（2 週間以上）** （実習施設・所在地，浦添市．浦添総合病院） 1）急性期病院等で、老人看護専門看護師の指導者（師長、所長、看護部長）の指導を受け、アセスメント、計画、実施、評価の看護実践を 3 事例選択し、ケースレポートを作成する。 2）事例選定は、認知機能が低下し不穏症状などが発症している高齢者で入院初期の高齢者、入院治療が概ね終了し在宅移行期の認知症高齢者、中核症状や周辺症状で実習先の処遇困難事例を含むものとする。 3）ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4）看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5）課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。							田場由紀 大湾明美
教育の 進め方、 運営、評価	進め方：学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営：学生の主体で展開する。 評価：ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備　考								

※CNS38 単位教育課程

科　目 コード	51571	授業 科目	実践老年看護実習Ⅲ Geriatric Nursing Practicum Ⅲ		担当 教員	○大湾明美 田場由紀		
開講年次	博士前期課程 2年次前期		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	90 時間				
授業概要	複雑な健康問題を抱える高齢者やその家族への看護活動を通して、集団としてのニーズをとらえ看護実践を展開する。また、集団を対象とした看護実践を通して、専門職、非専門職との協働連携に取り組み、専門職、非専門職への教育、相談、調整について学ぶことで、老人専門看護師としての能力を養う。							
到達目標	1. 地域ケアを担う認知症高齢者専門施設、診療所などで、家族を含む認知症高齢者への高度な直接ケアができる。 2. 高齢者ケアの場で老人看護専門看護師（およびそれに相当する看護職者）の指導のもとに、専門看護師としての看護実践（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）が理解できる。							

回　数	教 育 内 容 及 び 計 画	担当者名
	1. 施設内ケアの老人専門看護師が勤務する機関・組織における実習（1週間以上） （実習施設・所在地, 東京都青梅市. 青梅慶友病院） 1）老人看護専門看護師の指導者のもとに、「実践老年看護実習Ⅰ・Ⅱ」での学びや看護実践上の課題の解決方法をいかし、1事例を受け持ち、家族へのケアを含め看護実践をする。 2）自らの看護実践を、専門看護師に求められる役割機能（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）に照らして考察する。特に、保健医療福祉の専門職者へのコンサルテーションや調整の視点からレポートを作成する。 3）レポートをもとに、プレゼンテーションし、専門看護師、担当教員とディスカッションを行う。 4）老人専門看護師が身につけるべきコンサルテーションや調整についてレポートする。 **2. 地域ケアの高度実践者が勤務する機関・組織における実習（1週間以上）** （実習施設・所在地. 沖縄県竹富町. 沖縄県立八重山病院附属波照間診療所） 1）老人看護専門看護師に相当する看護職者の看護活動（直接ケア、スタッフへの教育、相談、調整、管理運営）に1事例を受け持ちながら参加する。 2）老人看護専門看護師の看護職や保健医療福祉の専門職者および地域住民を含む非専門職者との協働連携の視点からレポートを作成する。 3）レポートをもとに、プレゼンテーションし、担当教員と実習指導者（老人看護専門看護師に相当する看護職）とディスカッションを行う。 4）ディスカッションの内容を踏まえ、老人専門看護師が身につけるべき協働連携能力についてレポートする。 **3. 最終報告及び担当教員とのディスカッション** 「実践老年看護実習Ⅰ」、「実践老年看護実習Ⅱ」、「実践老年看護実習Ⅲ」を振り返り、「老人看護専門看護師に求められるケア力」について最終報告を行い、担当教員とディスカッションをし、自己の課題を明らかにし、「実践老年看護課題研究」につなげる。	大湾明美 田場由紀

教育の進め方、運営、評価	進め方：学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営：学生の主体で展開する。 評価：ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	

※CNS38単位教育課程

科　目 コード	51572	授業 科目	実践老年看護課題研究 Practical Geriatric Nursing Problem Study	担当 教員	◎大湾明美 ◎田場由紀

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	老年看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1.研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2.論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3.専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	大湾明美 田場由紀
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

２年次 ３年次	＜4月～3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。 4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭又は筆答による）を行う。	
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。	

科　目 コード	51610	授業 科目	新領域保健看護特論Ⅰ New Challenges in Nursing and Health Theory I	担当 教員	○金城芳秀 神里みどり

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	人々の健康上のニーズは医療の進歩と急速な社会の変化によって進化してきている。かつては、専門家のみが保持していた専門的情報もメディアによって与えられ、今日では、ヘルスケアの需要者は多くの知識を得るようになってきている。現在のヘルスケア及び看護上の問題は、広い視野から検討される必要がある。 本特論では、実践の対象となるヘルスケアの需要者と共に学際的なアプローチに焦点を当て、現在の様々な問題や変化への研究戦略を認識することである。また、看護教育者や看護管理者が現在の看護上の危機を乗り越えるうえでの困難にも焦点をあてる。教育改革では、高度な実践者の役割および情報技術の急速な進歩を活用し、ヘルスケアチームにおける看護者独自の役割を認識する。
到達目標	1. ヘルスケア需用者に対する医療及び看護実践の現状についての理解を深める。 2. ヘルスケア提供システムのモデルを批判的に検討する。 3. 疾病を反映するモデルと理論をケアの立場から批判的に検討する。 4. 看護職者の役割に関するヘルスケアシステム改革の影響について理解をする。 5. 上級看護実践の範囲及びヘルスケア需用者への利益（恩恵）について理解する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	グローバリゼーションと健康ニーズ	金城
第3－6回	健康・疾病と文化・社会的環境と測定指標	金城
第7・8回	情報システムがもたらすヘルスケア改革	金城
第9・10回	看護職者の役割拡大、看護における専門分化と上級看護実践者の育成	神里
第11・12回	エキスパートナースの実践範囲とヘルスケア消費者への影響	神里
第13・14回	医療・看護の変遷：　近代医療と補完・代替療法	神里
第15回	総括	金城・神里

テキスト	関連資料、文献等を適宜配布する
参考文献	http://www.who.int/mediacentre/factsheets/en/
成績評価の方法	評価は討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う
備　考	複数指導体制

科　目 コード	51620	授業 科目	新領域保健看護演習 New Challenges in Nursing and Health Seminar	担当 教員	○金城芳秀 神里みどり

開講年次	博士前期課程 １年次前期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	６０時間				

授業概要	看護教育においては、遠隔教育などのための最新の学習理論、教育技術および生涯教育に関する知識・技術に焦点を当てる。看護管理においては、臓器移植などの現代的医療ケアにおける看護専門職の役割および専門的知識・技術に焦点を当てる。
到達目標	1. 内省的実践（reflective practice）の長所と短所を認識する。 2. コンピテンシーを備えた実践者の内省的実践の位置づけを評価する。 3. 批判的に考えることの原則を明確にし、実践での重要性を認識する。 4. 教育提供システムとしてのｅ―ラーニングモデルの長所と短所を批判的に評価する。 5. 成人教育及び様々な学習環境に関連する学習理論への理解を深める。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１・２回	多様化するヘルスニーズへの看護職者の対応と課題	金城
第３・４回	グローバリゼイションと遠隔教育	金城
第５・６回	看護職者の内省的実践とコンピテンシー	金城
第７・８回	看護職者の技能習熟レベルと状況判断	金城
第９・10回	看護職者の臨床教育能力・コーチング	金城
第11・12回	インストラクショナルデザインとｅ―ラーニングモデル	金城
第13-18回	成人教育の実際：　補完・代替療法の実践例から	神里
第19-30回	看護専門職の役割拡大：「日本医療情報学会看護学術大会」参加 総括（金城）	金城

テキスト	関連資料・文献等を適宜配布する。
参考文献	上田礼子編著.(2006)看護大学・大学院教育の到達目標　多賀出版
成績評価の方法	評価は討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う。
備　考	複数指導体制。研究論文を読み討論に参加。

科　目 コード	51625	授業 科目	新領域保健看護実習 New Challenges in Nursing Health and Practicum	担当 教員	○金城芳秀、神里みどり 大川嶺子、赤嶺伊都子 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	医療機関、教育研究機関、行政機関や保健所、市町村などにおいて、特論、演習で学んだことと関連して現場における課題とその解決する方法・技法について指導を受けながら実習する。
到達目標	1．ヘルスケアにおける保健医療情報提供システムとネットワークの現状および課題について理解し、必要な技術をスーパービジョンを受けながら習得する。 2．看護実践能力を発展させる継続教育の現状と課題を理解し、必要な技術をスーパービジョンを受けながら習得する。 3．臓器移植医療および臓器移植コーディネーターの現状および課題を理解し、この分野における看護職の役割と必要な技術をスーパービジョンを受けながら習得する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	目標 1： ヘルスケアにおける保健医療情報提供システムとネットワークの現状及び課題について理解し、スーパービジョンを受けながら必要な技術を習得する。 内容：1）電子カルテシステム、オーダリングシステムの仕組みおよび実際 2）広域的な問題解決に向けた関係機関との連携、ネットワーク化など保健医療支援体制 3）保健医療情報の活用とその実際 方法：1）実習場所：保健医療機関 2）実習期間：2週間 目標２：看護実践能力を発展させる継続教育の現状と課題を理解し、スーパービジョンを受けながら必要な技術を習得する。 内容：1）現任教育のプロセス（ニーズ把握、目標設定、プログラムの実施、評価と看護実践能力の支援方法 2）教育プログラムの実際 3）継続教育と看護管理者の役割 方法：1）実習場所：保健医療機関 2）実習期間：2週間 目標３：臓器移植医療および臓器移植コーディネーターの現状および課題を理解し、この分野における看護職の役割と機能を理解し、スーパービジョンを受けながら必要な技術を習得する。 内容：1）臓器移植医療の現状および課題 2）臓器移植コーディネーターの役割および業務内容 3）臓器移植医療チームにおける看護職の役割 4）臓器移植医療に伴う問題・課題 方法：1）実習場所：保健医療機関 2）実習期間：１週間 ※　上記の実習内容は１つのモデルケースであり、院生の実践経験等によって異なることがあります。	金城 神里

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	評価は実習への出席状況、実習態度、成果に関するレポート等の提出物および施設実習担当者の情報などを参考に総合的に行う。
備　考	学生は実習指導教員及び施設の実習担当者と連携をとりながら実習を行う。実習終了後、レポートを提出する。

科目コード	51631	授業科目	新領域保健看護特別研究 I New Challenge in Nursing and Health Special Study I	担当教員	◎金城芳秀 ◎神里みどり 赤嶺伊都子 謝花小百合
開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目分類	専門科目・特別研究
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間	授業形態	演習
授業概要	新領域保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。				
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
1 年次	4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	金城芳秀 神里みどり 赤嶺伊都子 謝花小百合
2 年次	10 月（4 月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 修士論文 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月） 中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月） 公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（ ）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科　目 コード	51632	授業 科目	新領域保健看護課題研究 New Challenges in Nursing and Health Problem Study	担当 教員	◎金城芳秀 ◎神里みどり 赤嶺伊都子 謝花小百合

開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				

授業概要	既存の保健看護領域を超えて、現場の中で新しい科学技術や特殊な解決方法を必要とする課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で実践し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	金城芳秀 神里みどり 赤嶺伊都子 謝花小百合
2 年次	10 月（4 月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 課題研究 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月） 中間発表会 ＊ 課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月） 課題研究審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月） 公開発表会 ＊ 課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆頭）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	51910	授業科目	島嶼保健看護特論Ⅰ Island Health Nursing Theory Ⅰ	担当教員	○大湾明美　川崎道子 神里みどり

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	３０時間				

授業概要	島嶼で暮らす人々の生活を、地理的、文化的な広い視野から理解し、島嶼における健康問題の解決や健康生活上の課題を解決するために、重要な概念としてプライマリー・ヘルス・ケアとチームアプローチ(協働と連携) について学ぶ。
到達目標	島嶼・へき地におけるコミュニティアセスメントを理解し、住民の健康問題の把握とその解決方法を地域保健看護の視点から述べることができる 1. 島嶼の持つ地理的・歴史的な特徴が人々の健康問題に影響していることを説明できる。 2. 島嶼保健看護の現状と課題について説明できる。 3. 沖縄県の離島・へき地における保健看護の特徴を理解できる。 4. 島嶼保健看護の重要な概念を理解でき説明できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名	日時
第 1 回 大湾	1. 島嶼保健看護の導入 島嶼の定義、島嶼の看護職者に求められる能力		
第 2～4 回 神里 大湾 大湾	2. 文献に学ぶ国内外の島嶼保健看護の現状と課題 国外の場合 国内の場合 沖縄の場合	大湾明美 川崎道子 神里みどり	
第 5 回 川崎	3. 我が国と沖縄県の離島・へき地における医療の現状		
第 6～7 回 川崎	4. 沖縄県の離島・へき地における保健看護の特徴 離島の実践例とディスカッション		
第 8回 大湾	5.プライマリー・ヘルス・ケアとは		
第 9回 大湾	6. プライマリー・ヘルス・ケア(国際看護の視点から)		
第 10回 大湾	7. プライマリー・ヘルス・ケアの実践例とディスカッション		
第 11回 大湾	8. チームアプローチと協働連携		
第 12回 大湾	9.協働連携の実践例とディスカッション		
第 13回 大湾	10. 島嶼保健看護と文化的視座		
第 14回 大湾	11. 離島・へき地の地域保健看護活動の特徴(まとめ)		
第 15回 大・神・川	12. 学生の学びの報告と討議		

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随時、参考資料を配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢・ディスカッション・レポートにより評価する。
備考	授業計画が変更することがある。 非常勤講師の日程は変更する場合がある。

科　目 コード	51920	授業 科目	島嶼保健看護演習 Island Health Nursing Seminar			担当 教員	○川崎道子　神里みどり 大川嶺子　牧内忍	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・演習		授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間					

授業概要	特定の島嶼における健康問題の課題抽出と解決方法を具体的に学ぶ。 文献抄読・事例検討・討論等により学習を進め、これらの方法を島嶼保健看護の実践と教育･研究に応用する能力を養う。
到達目標	1. 特定の島嶼の健康問題を把握し、解決すべき課題を抽出できる。 2. 健康課題の解決方法を、その島嶼の地理的・文化的特徴をふまえて検討できる。 3. コミュニティアセスメントの技法と支援技法を説明できる。 4. 特定の地域の健康問題の課題解決に向け、他の島嶼の文献検討、事例検討、討議などの方法を用いて議論する。 5. 特定の島嶼の保健看護の課題とその解決方法を説明できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	日　時
第１回	演習計画の検討 特定の島嶼の選定 特定の島嶼に関する文献収集方法の検討	川崎道子 神里みどり 大川嶺子 牧内忍	
第２・３回	特定の島嶼における地理的・歴史的・文化的背景		
第４～６回	地域活動とコミュニティアセスメントツールとアセスメント方法 人口動態、領域毎の量的データ・質的データ、 コミュニティ・アズ・パートナーモデル　等		
第７～16回	特定の島嶼のコミュニティアセスメント及び報告		
第17・18回	支援方法 個別支援、集団支援		
第19・20回	特定の島嶼での保健看護活動の事例検討		
第21～26回	文献学習 島嶼における健康問題と解決方法 過去の文献から多様な島嶼での健康問題とその解決方法を学習し、その共通点･相違点を討議により整理する。		
第27・28回	島嶼における健康問題・保健看護の課題と解決方法の整理 健康問題及び保健看護の課題の整理・検討 課題に即した文献の収集と整理		
第29・30回	特定の島嶼の保健看護の課題とその解決方法に向けて実習計画書(案)の報告と討議		

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随時、文献・資料を配布する。
成績評価の方法	授業に臨む準備状況、学習への参加姿勢、プレゼンテーション、レポート等により評価する。
備　考	各回の授業の担当者と実施日時については､開講時に提示する。

科目コード	51925	授業科目	島嶼保健看護実習 Island Health Nursing Practicum	担当教員	○牧内忍 大川嶺子 川崎道子 神里みどり

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				

授業概要	演習で学んだ特定の島嶼の保健看護の課題とその解決方法に向けて実施計画書に基づいて実践し，島嶼における課題解決の方法を学習する。また、他の島嶼での課題を抽出し、その解決方法を提示できる。
到達目標	1. 立案した計画に基づいて、多職種協働のもとで支援活動を実践できる。 2. 実践した支援活動を評価できる。 3. 島嶼における生活者の健康問題をアセスメントし、課題を明確化できる。 4. 特定の課題に対して、実施計画を作成できる。 5. 実習を踏まえて、課題研究につなげることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
実習開始前	〈 オリエンテーション・実習準備 〉 4週間の実習計画書を作成する。 実習の目的、内容、日程、実習機関、実習記録様式等 実習計画に基づいて、実習機関との日程調整等を行う。	牧内 忍 大川嶺子 川崎道子 神里みどり
実習期間中	〈 実習の展開 〉 実習地域は、自己の勤務地とその他の島嶼とする。 各実習機関の指導者や実習担当教員の指導の下で行う。 週の最終日には、実習機関の指導者と担当教員の参加を得て、実習内容と達成成果についてカンファレンスを行う。	
実習終了時	〈 実習報告会の開催 〉 実習により学んだ事項や考察について、実習関係者・担当教員等を対象に行う。	
実習終了後	〈 実習報告書の提出（実習内容、記録、課題レポートを含む）〉	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要時、文献・資料を紹介する。
成績評価の方法	実習に臨む準備状況、自主的な実習実施状況、カンファレンスや報告会でのプレゼンテーション、実習報告書等により評価する。
備考	実習地区・機関・日程については、早めに調整を行う。 実習中は、Eメールや電話等で担当教員と綿密に連絡を取る。

科　目 コード	51931	授業 科目	島嶼保健看護特別研究 I Island Health Nursing Special Study I	担当 教員	◎大湾明美 ◎神里みどり ◎川崎道子 牧内忍

開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				

授業概要	島嶼保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次	4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	大湾明美 神里みどり 川崎道子 牧内 忍
2 年次	10 月（4 月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 修士論文 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月） 中間発表会 ＊ 修士論文 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月） 公開発表会 ＊ 修士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	51932	授業科目	島嶼保健看護課題研究 Island Health Nursing Problem Study	担当教員	◎大湾明美 ◎神里みどり ◎川崎道子 牧内 忍
開講年次	博士前期課程 1～2 年次	単位数	8 単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240 時間				
授業概要	島嶼保健看護領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。						
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
1 年次	4 月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	大湾明美 神里みどり 川崎道子 牧内 忍
2 年次	10 月（4 月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 課題研究 第 1 稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1 月（7 月） 中間発表会 ＊ 課題研究 最終稿 の提出 ＊ 2 月（8 月） 課題研究審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3 月（9 月） 公開発表会 ＊ 課題研究 保存版 の提出 ＊ ※（ ）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆答）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科　目 コード	51941	授業 科目	実践島嶼保健看護特論 I Practical Island Health Nursing Theory　I	担当 教員	○神里みどり 川崎道子、他 非常勤講師

開講年次	博士前期課程 1 年次	単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30 時間				

授業概要	実践島嶼保健看護のプログラムの目的と概要を理解した上で、県内外の島嶼地域における医療・保健看護の現状、「実践島嶼保健看護専門看護師」の必要性とその役割、実践島嶼保健看護の重要概念および実践島嶼保健看護師のコンピテンシーとその教育について学習する。
到達目標	1．実践島嶼保健看護の養成目的を我が国の医療の現状を踏まえて説明できる。 2．プライマリー・ヘルス・ケアとプライマリー・ケアの概念を説明できる。 3．実践島嶼保健看護専門看護師の定義と必要性を説明できる。 4．我が国ならびに沖縄県の島嶼地域における医療の現状を説明できる。 5．沖縄県の島嶼地域における保健看護の現状と特徴を討議によって理解できる。 6．島嶼保健看護に係わる重要概念を列挙でき、それぞれについて具体的に説明できる。 7．実践島嶼保健看護専門看護師に必要なコンピテンシーと教育について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第 1・2 回	オリエンテーション 島嶼性と島嶼保健看護 ルーラルとリモート看護	神里みどり 川崎道子
第 3・4 回	高度実践看護師制度の変遷と現状 1）高度実践看護師に必要な実践能力(コンピテンシー）と役割、教育	
第 5・6 回	2）高度実践看護師に必要なリーダーシップ、ディスカッション プライマリー・ヘルス・ケアとプライマリー・ケア	
第 7･8 回	チームアプローチ（連携と協働）の理論、専門連携教育 チームアプローチ（連携と協働）の実践とディスカッション	
第 9・10 回	我が国と沖縄県の島嶼地域における医療の現状	
第 11・12 回	沖縄県の島嶼地域における保健看護の特徴 1）特定離島の実践例(診療所看護師/しまナース/保健師) 2）ディスカッション	
第 13・14 回	島嶼保健看護と文化的視座（学生による文化看護に関するインタビューなど）	
第 15 回	まとめ	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	事前準備・プレゼンテーション・ディスカッション・レポート等を総合的に査定し、到達目標の達成度を評価する。
備　考	事前に課題及び課題図書等を指示する。非常勤講師の都合で授業計画が変更する場合もあるので、十分注意して下さい。

科　目 コード	51942	授業 科目	実践島嶼保健看護特論Ⅱ Practical Island Health Nursing Theory Ⅱ	担当 教員	○未定 非常勤講師

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修		時間数	30時間				

授業概要	プライマリ・ヘルス・ケア領域において、あらゆるライフスパンを通して、一般的によく見られる症状について、その症状のメカニズムを踏まえた上で、臨床推論や鑑別判断、ならびに臨床検査や臨床判断の手法を学習し、症状マネジメントのための薬物及び非薬物療法に関する知識と高度実践看護及び技術について修得する。
到達目標	1. 島嶼地域でよく起こる症状の臨床判断、検査、治療（薬物・非薬物療法）について説明できる。 2. 島嶼地域でよく起こる急性疾患への初期対応や、比較的軽い症状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対して、看護学の視点から包括的アセスメントを行い、症状マネジメントの方略について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1～3回	オリエンテーション 1.島嶼地域におけるコモンディジーズの症状アセスメントとそのマネジメントに関するケーススタディ 発熱、咳・喘鳴、発疹	未定
第4～6回	痛み：頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、関節痛	
第7～9回	呼吸困難、動悸、めまい、しびれ、倦怠感、不眠、不安感	
第10・12回	出血：吐血、下血、血尿、	
第13回	悪心・嘔吐、下痢、便秘	
第14・15回	2.まとめ：実践事例の展開（学生の発表・検討）	未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	・コモンディジーズ　ブック　日常外来での鑑別と患者への説明のために、一般社団 法人日本内科学会　専門医部会 ・新・総合診療医学、家庭医療学編、書林 ・新・総合診療医学　病院総合診療医学編、書林 ・提言ー日本のコモンディジーズ、consortium vol.3 ・プライマリー・ケアの現場で役立つ一発診断100　一目で見ぬく診断の手がかり、文光堂 ・新家庭医　プライマリー・ケア医入門、日本家庭医療学会　編別途指示する
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき総合的に評価する。
備　考	ICTなどの遠隔通信の活用など 担当教員が変更になる場合がある。

科　目 コード	51943	授業 科目	実践島嶼保健看護特論 Ⅲ Practical Island Health Nursing Theory Ⅲ	担当 教員	○大川嶺子、他 非常勤講師

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	基礎科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	プライマリ・ヘルス・ケア領域において、あらゆるライフスパンを通して、一般的によく見られる疾病に対する臨床推論や鑑別判断、ならびに臨床検査や臨床判断の手法を学習し、疾病の治療のための薬物及び非薬物療法に関する知識と高度実践看護及び技術について修得する。
到達目標	1. 島嶼地域であらゆるライフスパンを通してよく起こる疾病の臨床判断、検査、治療について説明できる。 2. 島嶼地域でよく起こる急性疾患への初期対応や、比較的軽い症状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対して、看護学の視点から包括的アセスメントを行い、疾病予防や疾病管理のための方略を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	オリエンテーション 1.　島嶼地域の急性状況の緊急時対応、診断、検査、治療: ケーススタディ かぜ症候群(急性気道感染症)、感染性胃腸炎 損傷(窒息、血管損傷、頭部外傷、くも膜下出血、腹部、四肢/骨盤)	大川嶺子
第3・4回	咬傷、アナフィラキシー、中毒、精神急性症状、糞線虫、レプトスピラ症	未定
第5・6回	2.　島嶼地域の慢性疾患の予防から早期発見、診断、検査、治療 :ケーススタディ 糖尿病、高血圧症、狭心症、脳梗塞、慢性腎臓病	未定
第7・8回	COPD、気管支喘息、熱中症、貧血	未定
第9・10回	パーキンソン症、認知症	未定
第11回	関節症、骨訴訟症	未定
第12・13回	胃がん、肺がん、肝硬変	未定
第14回	統合失調症、うつ、アルコール性精神疾患	未定
第15回	まとめ:離島・へき地における日常の疾病管理の課題 (学生の発表・討論)	未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	『提言-日本のコモンディジーズ』尾島医学教育研究所(2013)他
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	ICTなどの遠隔通信の活用など 担当教員が変更になる場合がある。

科目コード	51944	授業科目	実践島嶼保健看護特論Ⅳ Practical Island Health Nursing Theory Ⅳ	担当教員	○未定、他
開講年次	博士前期課程 2年次	単位数	3単位	科目分類	専門科目・講義	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	45時間				
授業概要	島嶼地域における周産期の保健問題、および保健看護に関する知識を学習する。また、乳幼児、および発達障がいを有する子どもとその家族への支援、子どもに一般的にみられる症状と看護ケア、子どもの健康増進に関する理論、環境整備、村保健事業の施策化などの計画を多職種と連携して実施する方策を学び、島嶼保健看護におけるCommon disease に関する看護実践の技術を修得する。				
到達目標	1. 島嶼地域における周産期・小児期にある人とその家族の特徴について理解し、説明できる。 2. 島嶼地域における周産期・小児期にある人の健康問題を解決するために必要な知識・技術について説明できる。 3. 小児の発達、障がいに関する諸理論を学習する。 4. 島嶼地域において子どもによくみられる疾病の症状とその対処法、看護援助について説明できる。 5. 島嶼地域での小児の疾病予防、健康増進のための活動、育児支援の状況について説明できる 6. 島嶼地域全体での子育て環境の整備に関する行動計画や保健事業施策について説明できる。 7. 多職種間の連携による育児支援、発達支援、健康増進、疾病予防活動について説明できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	オリエンテーション 正常な妊娠経過のアセスメントと保健指導 1. 妊娠の正常経過と妊娠各期の特徴 2. 妊娠期のアセスメントと保健指導	未定
第2回	妊娠中によくみられる異常の見分け方と対処 1. 妊娠悪阻・流産・早産 2. 妊娠高血圧症候群(PIH)・HELP 症候群・子癇前症・常位胎盤早期剥離・前置胎盤など	
第3回	母子の健康への支援制度 1. 母子保健・医療・福祉施策の変遷 2. 少子化・子育て支援に関する保健・医療・福祉施策	
第4回	家族計画(若年妊娠・エイズ・DV)	
第5回	分娩の正常経過とアセスメント 1. 分娩開始徴候、破水、分娩進行の見方 2. 分娩の異常:陣痛・産道の異常、胎位の異常、胎児機能不全	
第6回	産褥期の正常経過と保健指導、母乳育児支援	
第7回	母子看護と倫理 1. 不妊治療と倫理的課題 2. 出生前診断・中絶にともなう倫理的課題	
第8回・9回	子どもの発達に関する諸理論と成長・発達の評価法 1. 愛着理論、認知発達理論、子どもの気質に関する理論など 2. DENVERⅡ、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法など	
第10回	子どもと家族の最善の利益を守る看護(こどもの権利と擁護) ・子どもの意志決定(子どもとインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント)	
第11回	島嶼における小児期によくみられる病気の季節的流行パターン、症状とその対処法	
第12・13回	特殊なニーズをもつ子どもと家族への支援(痛みの評価、重症心身障害児の重症度・大島分類、we-FIM 等)	
第14回	長期療養が必要な子どもと家族への支援(在宅療養、利用できる社会資源)	

第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19-21 回 第 22 回	家族看護理論と保健看護への応用(家族システム理論・家族発達理論等) 児童虐待とその対応・施策 島嶼地域での疾病予防活動: 予防接種の管理・実施、乳幼児の健康管理(健康診査の実施とフォロー)と診療所と村役場、関係者、住民の連携 障がいをもつ子どもと養育者への地域での支援: 発達支援、養育者への心理的サポート、保育士・幼稚園教諭・養護教諭との連携による支援、島内外の支援体制構築 住民参加型子育て環境整備: 次世代育成支援行動計画策定、要保護児童対策協議会および村保健事業 事例のプレゼンテーション(発表と討議) ・.沖縄県における子どもと家族が直面している保健・医療・福祉・教育上の課題 まとめ:母子保健施策、社会資源、および衛生統計、資料などの整理	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	1) 井上裕美・他監修 病気がみえる MEDIC MEDIA 2) 上田礼子(2013) 生涯人間発達学 三輪書店 3) 荒賀直子・後閑容子ら編集(2013): 公衆衛生看護学.JP 第 3 版,インターメディカル. 4) 井伊久美子ら(2013):保健師業務要覧 第 3 版,日本看護協会出版会. 5) 五十嵐隆監訳(2008): 一目でわかる小児科学 第2版,メディカル・サイエンス・インターナショナル. 6) W.K.Frankenburg,M.D.(1990/2005).社団法人日本小児保健協会標準化,DENVERⅡ-デンバー発達判定法ー,日本小児医事出版社 7) 遠城寺児宗徳他.(2012).遠城寺式 乳幼児分析的発達検査法,九州大学小児科改訂新装版,慶應義塾大学出版会	

科　目 コード	51945	授業 科目	実践島嶼保健看護特論Ⅴ Practical Island Health Nursing Theory Ⅴ	担当 教員	○神里みどり、他		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	島嶼地域で生活している成人期にある人とその家族の特徴を理解し、成人期の健康問題を解決するための高度な看護実践の方略について学習する。						
到達目標	1. 島嶼地域で生活する成人期にある人とその家族の特徴について説明できる。 2. 島嶼地域における成人期に生じる一般的な健康問題について説明できる 3. 島嶼地域における成人期の健康課題を解決するための高度な看護実践について説明できる。 4. 成人の健康推進、生活習慣病の発症予防及び重症化予防について説明できる。						

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	島嶼地域で生活する成人期の特徴と健康問題(急性期から終末期まで)	神里みどり
第2・3回	成人期における健康問題を解決するために必要な主なる看護理論 (危機理論、病みの軌跡、健康の全体性理論など)	
第4回	島嶼地域での健康推進、生活習慣病の予防対策と保健指導	
第5回	島嶼地域における成人女性の健康問題と健康支援対策 1) 性感染と避妊教育 2) 婦人科疾患 3)更年期	
第9～11回	島嶼地域における成人期の健康課題を持つ人・家族に対するアセスメントと看護援助 1) 急性疾患:心疾患、脳血管疾患、ショック・外傷時のケーススタディ 2) 慢性疾患:高血圧、糖尿病、COPD、腎・肝疾患のケーススタディ 3) がん:肺がん、大腸がん、成人T細胞白血病、乳がん、子宮がんのケーススタディ	
第12・13回	緩和ケアと終末期における患者・家族・遺族に対するサポートシステム	
第14回	島嶼における成人期特有の健康問題を抱えた患者・家族に対する多職種連携 急性期(救急含む)、慢性期、終末期におけるケーススタディ	
第15回	まとめ:島嶼における成人の健康課題とその解決技法に関するプレゼンテーション	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	ICTなどの遠隔通信の活用など

科　目 コード	51946	授業 科目	実践島嶼保健看護特論Ⅵ Practical Islands Health Nursing Theory Ⅵ	担当 教員	○田場由紀、他

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30 時間				

授業概要	島嶼で生活している高齢者とその家族の特徴を理解し、老年期の健康問題を解決するための高度な看護実践の方略について学習する。
到達目標	1. 島嶼で生活する高齢者とその家族の特徴と健康問題について説明できる。 2. 高齢者のコモンディジーズに対する看護援助について説明できる。 3. 島嶼での高齢者の健康増進と重症化予防について説明できる。 4. 高齢者の生活ニーズにそったアセスメントとその看護実践について説明できる。 5. 島嶼における高齢者とその家族を支えるサポートシステムについて説明できる。 6. 島嶼で生活する高齢者とその家族の健康課題を解決するための看護実践(プライマリ・ヘルス・ケア)について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第 1 回 第 2 回	1. 島嶼で生活する高齢者の特徴と健康問題 2. 老年看護で用いられる主な理論・モデル(セルフケア、ストレングス等)	田場由紀
第 3～8 回	3. 高齢者のコモンディジーズに対する看護援助 1)老化と老年症候群 2)骨・関節系 3)皮膚・感覚器系 4)認知症 5)創傷管理 6)高齢者の内服管理	
第 9 回 第 10 回	4. 地域での高齢者の健康増進と重症化予防 1)島民主体の村高齢者保健福祉計画策定支援及び村保健事業施策化 2)後期高齢者健康診査の受診勧奨と保健指導	
第 11 回 第 12 回	5. 高齢者の生活ニーズにそったアセスメントとその看護実践 1)高齢者の捉え方(健康の連続性、ICF、ニーズ論) 2)生活ニーズに沿ったアセスメントとその看護実践例	
第 13 回 第 14 回	6. 島嶼における高齢者と家族のサポートシステム 7. 在宅における高齢者ケア	
第 15 回	8. まとめ:島嶼における高齢者の課題に関するプレゼンテーション	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	別途指示する　第 6 回:公衆衛生看護学.JP, 保健師業務要覧
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	ICT などの遠隔通信の活用など

科目コード	51947	授業科目	実践島嶼保健看護特論Ⅶ Practical Island Health Nursing Theory Ⅶ	担当教員	○ 未定、他		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・講義	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	精神的健康問題を持ちながら島嶼で暮らす個人とその家族の理解と、その問題解決方法について学習する。また、地域を基盤とした精神保健看護活動について学習する。						
到達目標	1. 島嶼における地域精神保健の特徴と課題を理解できる。 2. 島嶼に暮らす人々の精神的健康問題の早期発見・早期治療について理解できる。 3. 精神的健康問題をもつ対象のアセスメントと看護について理解できる。 4. 精神的健康問題解決のための個人と家族へのアプローチ方法を理解できる。 5. 精神障害者が島嶼地域において継続的に保健・医療サービスを享受できる方法を理解できる。 6. 精神的健康問題をもつ対象に対する島内外の関係者との連携のあり方を理解できる。 7. 感染症予防対策と発生時の対応及び被災時の対応について理解できる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1-2回	1. 精神的健康・不健康の捉え方／メンタルヘルス 精神保健の第1次予防・第2次予防・第3次予防 2. 精神看護で用いられる主な理論・リカバリー概念	未定
第3回	3. 地域精神保健活動と離島支援体制（診療所と関連医療機関の連携）	
第4回	4. 通院・入院医療、訪問看護、地域生活支援	
第5回	5. 被災時のメンタルヘルスへの対応	
第6-8回	6-8. 代表的な精神的健康問題の生活および身体的健康へ及ぼす影響と対応 躁うつ病、統合失調症、アルコール依存症者のアセスメント	
第9-10回	9-10. 精神科治療の特徴と精神科医療体制 薬物療法、精神療法、服薬継続支援、危機介入、心理教育、SST等	
第11回	11. 地域精神保健の課題と精神保健活動(個別支援、集団支援、グループ支援)及び職場・学校・行政の連携	
第12回	12. 身体・知的・精神の障がい者への支援: 障がい者基本計画策定及び障害者総合支援法等に基づく支援	
第13回	13. 地域での災害(台風・津波・地震等)対策と発生時の対応 地域での感染症対策と発生時の対応	
第14-15回	14-15. 発表と討議	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	1) 武井麻子ら(2013):精神看護の基礎 精神看護学①,医学書院. 2) 武井麻子ら(2013):精神看護の展開 精神看護学②,医学書院. 3) 中井久夫・山口直彦(2004): 看護のための精神医学 第2版,医学書院. 4) 荒賀直子・後閑容子(2015): 公衆衛生看護学.JP 第4版,インターメディカル.
成績評価の方法	授業での参加度、レポートに基づき、総合的に評価する。
備考	・保健師免許を有しない学生は、参考文献４）を用いて事前学習し授業に参加する ・本学またはサテライト教室等において、ＩＣＴを活用して行う

科　目 コード	51948	授業 科目	実践島嶼保健看護演習Ⅰ Practical Island Health Nursing Seminar　Ⅰ	担当 教員	○川崎道子、他 非常勤講師

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60 時間				

授業概要	島嶼地域における保健・医療・福祉に関する概要を把握し、島嶼住民の健康課題の現状と課題を見出すことができる包括的なアセスメント能力を修得する。さらに、日常・非日常で起こる健康問題に関して、エビデンス・ベースド・プラクティス(EBP)の概念に基づき、高度な看護実践や多職種との調整・連携活動が実践できる能力を身につける。
到達目標	1. 小規模離島の保健・医療・福祉の概要を説明できる。 2. 島嶼住民の健康課題を見出すための疫学的データ収集・分析し、包括的な課題をみいだす。 3. 島嶼地域での臨床推論を活用した危機管理、災害時の初期対応や救急ができる。 4. 島嶼地域の健康問題について、EBP の概念に基づいた高度な看護実践と多職種との調整・連携活動について説明できる。 5. 島嶼地域で必要な固有の保健看護活動が説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第 1～6 回	1 小規模離島村を１箇所選択し、地域のアセスメントモデルに基づき保健・医療・福祉の既存資料を小児、成人、高齢者の視点で収集する。 2 小規模離島村の疫学データ（人口動態統計、人口静態統計など）の収集、分析方法、解釈及び図表の作成を行う。	川崎道子
第 7～10 回	1 第 1～6 回で概要を把握した小規模離島村の訪問計画を立案する。 2 当該地域の地区踏査（フィールドワーク）を実施する。 3 2）にて既存資料の照合及びデータを追加し当該地域の特性及び課題を小児、成人、高齢者のライフステージで整理し、地域全体の包括的な課題を把握する。包括的な島嶼のアセスメントを行うことで、マンパワーの少ないなかでの住民を含めたケア調整・協働連携体制のあり方を考察する。	
第 11～15 回	島嶼地域での臨床推論を活用した初期救急対応技術 １トリアージと多職種との連携（ケーススタディを活用したシミュレーション） 1）救急外来トリアージ 2）災害看護におけるトリアージ、BLS/ACLS、 3）ヘリ搬送対応時における医師・看護師・保健師・役場職員・住民を想定した協働連携、親病院との連携など（シミュレーション） ケーススタディ例 ① 小児喘息（重責発作） ② 溺水 ③ 外傷 ④ 心筋梗塞や脳梗塞患者の搬送 ⑤ 高齢者の大腿骨骨折 ⑥ 台風時などの虚弱者に対する対応(高齢者・障がい者等)	
第 16・17 回	2 助産演習（学内） 1）児娩出介助、出生直後の児のケア 2）分娩直後の母体のアセスメントとケア 3）ケーススタディ：島嶼地域における母子保健の課題 例：若年妊娠、妊娠高血圧症、妊婦健診未受診によるヘリ搬送事例等	

第 18～20 回 第 21～26 回 第 27・28 回 第 29・30 回	EBP に基づいた島嶼地域における保健看護活動における健康教育 EBP に基づいた島嶼地域における診療所看護活動における健康課題に関する方略や疾病予防に関する健康教育 典型的な事例を提示し、臨床推論に基づく包括的なアセスメント、EBP に基づいた看護実践（予防、治療、ケア）、多職種との協働（住民含む）等を想定した看護援助や健康教育の方略 小児から成人、高齢者の事例を基に展開する。 島嶼における倫理的な課題と倫理的意思決定支援の方略 島嶼地域の多様な健康問題のある事例を EBP に基づいた看護実践と多職種との連携・調整を踏まえた解決策及び評価の事例の報告とまとめ	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	沖縄県企画部地域・離島課.(2015).離島関係資料 沖縄県企画部統計課.(2015).沖縄県統計年鑑 沖縄県企画部統計課.(2015).沖縄の統計 大滝純司監訳.(2015).マイナーエマージェンシー（原著第 3 版）　エルゼビア・ジャパン株式会社 徳田安春.(2012).新・総合診療医学　病院総合診療医学編　株式会社カイ書林 藤沼康樹.(2012).新・総合診療医学　家庭医療学編　株式会社カイ書林 前野哲博・松村真司.(2012).帰してはいけない外来患者　株式会社医学書院　　等	
成績評価の方法	演習内容毎の参加状況やレポート80点、総合テスト20点	
備　考	シミュレーターや ICT などの遠隔通信機器の利用、ロールプレイの活用 担当教員が変更になる場合がある。	

科　目 コード	51949	授業 科目	実践島嶼保健看護演習Ⅱ Practical Island Health Nursing Seminar Ⅱ	担当 教員	○未定、他 非常勤講師

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60 時間				

授業概要	プライマリ･ヘルス･ケア領域において求められるエビデンス･ベースド･プラクティス(EBP)に基づく高度な看護実践や看護技術を修得する。
到達目標	1.　島嶼における慢性疾患のアセスメント、治療･処置、服薬指導･管理、看護援助が実施できる。 2.　島嶼に必要な遠隔医療システムの活用ができる。 3.　小規模離島の保健・医療･看護の課題解決に必要な計画立案ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	1.　EBP に基づいた生活習慣病予防や健康教育ならびに療養支援	未定
第 1～4 回	糖尿病・高血圧疾患外来指導の実際 糖尿病患者１事例 高血圧疾患患者１事例 EBP に基づいたプロトコールの作成 血糖コントロールのためのインスリンの投与量の調整	
第 5～7 回	創傷ケアの実際：在宅における褥瘡予防ケアの実際 ＷＯＣ 外来：ストマケアー(１事例) EBP に基づいたプロトコールの作成 エビデンスに基づく褥瘡関連のスキンケア技術 スキンテア(皮膚裂傷)を防ぐ技術	
第 8～12 回	呼吸管理の実際: ①在宅における酸素療法 ②小児喘息の外来指導の実際 EBP に基づいたプロトコールの作成 呼吸状態に応じた酸素投与量と薬剤調整の技術（人工呼吸器含む） 呼吸管理についてのコンサルテーション技術	
第 13～16 回	服薬管理 ①　親病院における診療所の薬剤管理と小離島診療所の薬剤管理の実際 ②　EBP に基づいた服薬指導の実際 精神薬関連の状態変化（臨時の場合）の薬剤調整の技術 輸液療法の技術	
第 17・18 回	小離島での事例を通したプライマリ･ヘルス･ケアの実際：これまでの演習で学んだことを活用して、実際の事例にて EBP に基づいた看護援助を報告する。	
第 19・20 回	プライマリ･ヘルス･ケアにおいて求められる医療技術提供のための関連法規と事例検討：ゲストスピーカー 変死、自殺等への対応方略	
第 21・22 回	リハビリテーション:栄養摂取/嚥下障害、運動機能保持増進:EBP とケーススタディ	

	高齢者の骨折予防のための運動機能向上のための技術 肺炎予防のための口腔ケアの技術	
第 23・24 回	抗がん剤治療と副作用症状の緩和：EBP とケーススタディ インフュージョン・リアクションや副作用症状等のマネジメント技術 抗がん剤等の血管外漏出時のステロイド剤の薬剤投与技術	
第 25・26 回	緩和ケアと終末期医療の対応: EBP とケーススタディ 麻薬等の鎮痛剤薬剤調整とマッサージー等などの非薬理学的療法技術	
第 27・28 回	2. 小規模離島の保健･医療･看護の課題解決の検討 コンサルテーション技術 ･遠隔システムの活用･情報処理･ネットワーク･多職種連携 Web システムを活用した専門職間のコンサルテーション技術	
第 29・30 回	小規模離島におけるプライマリ･ヘルス･ケアに関する課題解決のためのプロジェクト案の検討	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	大滝純司監訳.(2015).マイナーエマージェンシー（原著第 3 版）　エルゼビア・ジャパン株式会社 徳田安春.(2012).新・総合診療医学　病院総合診療医学編　株式会社カイ書林 藤沼康樹.(2012).新・総合診療医学　家庭医療学編　株式会社カイ書林 前野哲博・松村真司.(2012).帰してはいけない外来患者　株式会社医学書院等別途指示する	
成績評価の方法	演習内容毎の参加状況やレポート70点、総合テスト30点	
備　考	シミュレーターや ICT などの遠隔通信機器の利用、ロールプレイの活用 担当教員が変更になる場合がある。	

科　目 コード	51952	授業 科目	実践島嶼保健看護実習 I Practical Island Health Nursing Practicum I	担当 教員	○牧内忍、他

開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2 単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択 必修	必修	時間数	90 時間				

授業 概要	小規模離島の保健医療福祉の全体像を把握し、小規模離島で活躍する島嶼保健看護師の役割とその特徴を学ぶ。小規模離島に在住する住民の保健看護上の課題を導き出し、課題解決に向けて、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤にした島嶼保健看護の特徴を活かした高度な看護援助を実践する。
到達 目標	1. 小規模離島における保健医療福祉の現状と課題の全体像を述べることができる。 2. 小規模離島におけるコモンディジーズを基盤としたあらゆる健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者へのプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした島嶼保健看護師の役割を把握し、その特徴について述べることができる。 3. 小規模離島における様々な健康レベルにある小児から高齢者を対象にプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした、島嶼看護職の役割(連携・調整・相談含む)とその特徴を活かした看護援助が実践できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	<u>プライマリ・ヘルス・ケア実習</u> 〈事前準備〉 1.　学生が県内の 39 の小規模離島のなかから、1 離島を実習場として選択する。 2.　事前準備として、小規模離島の保健医療福祉の行政等のデータ、先行研究を通して、フィールドの地域概要や保健医療福祉の現状について把握する。 3.　フィールドの地域行事、保健医療福祉の事業計画等を把握する。 4.　実習前に1回（可能ならば地域行事に合わせて）、フィールドに出向き、地区踏査を行う。また、診療所の看護師、保健センターの保健師と調整する。 5.　行政等のデータやフィールドにおける情報を踏まえ、実習計画を作成する。 〈実習内容〉 　小規模離島における診療所看護師と保健師の役割全体を概観し、マンパワー少ないなかでのプライマリー・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護実践を行う。 ここでいう小規模離島の診療所とは、医師・看護師 1 名で医療を提供している場で、かつ、保健師 1 名あるいは保健師不在の小規模離島の場を実習場とする。 1.　診療所や地域で展開されるコモンディジーズを基盤とした様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者への看護援助を実習指導者（診療所看護師、地区担当保健師）のもとで実践する（診療所での外来、訪問診療、住民健診、救急搬送等）。 2.　診療所看護師や地区担当保健師の助言のもと、住民への看護援助を行う。 3.　看護援助として、診療所や在宅の場などで、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画、実践、評価を行う。 　必ず様々な健康レベルを対象にした、小児・成人・高齢者の事例を 1 事例以上選択し、看護実践を展開する。対象者の健康レベルに応じて、医師・保健師・福祉関係者・住民との調整(倫理調整含む)や協働連携(相談含む)のあり方について、島嶼性を意識した看護職の役割や特徴について学修する。 4.　実習記録として「行動計画」を作成し、実習した内容については「日々の実習記録」で整理する。本実習のまとめとして「実習レポート」（到達目標に沿う）を	学内教員 学外実習指導者（看護師、保健師、医師等）

	提出する。 (5)カンファレンスを開催し助言を得る。 ①実習カンファレンス: 診療所看護師、診療所医師、保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス: 中間カンファレンス(大学内の各領域の教員) 最終カンファレンス(看護部長、島ナース、施設の実習指導者など)	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。	
備　考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。	

下記は実習施設と実習指導者のリスト:学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種(氏名)
①　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属粟国診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
②　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属渡名喜診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
③　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属南大東診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
④　沖縄県立宮古病院附属多良間診療所	病院長 診療所長 副院長兼看護部長 看護師長(下地千里)
⑤　沖縄県立八重山病院附属小浜診療所	病院長 副院長兼看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑥　公立久米島病院	看護部長
⑦　粟国村役場	沖縄県保健医療政策課保健師
⑧　多良間村役場	保健師
⑨　竹富町役場	竹富町保健師
⑩　久米島町役場	沖縄県保健医療政策課保健師
⑪　南大東村役場	保健師

科　目 コード	51953	授業 科目	実践島嶼保健看護実習Ⅱ Practical Island Health Nursing PracticumⅡ	担当 教員	○宮里智子、他		
開講 年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	6 単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択 必修	必修	時間数	270 時間				
授業概要	実習Ⅱは専門強化実習で、実習 1 で学んだ小規模離島で活躍する島嶼保健看護職の特徴を基盤に、プライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストの役割を明確にし、小児から老年までの専門看護師等から小規模離島で活用できる Care と Cure を融合した高度な看護実践の技能を修得する。さらに、小規模離島で解決できない困難事例の照会のためにアセスメント能力を強化し、小規模離島と沖縄本島とを結ぶ各専門看護師・医療職間との連携・調整・相談活動の方略を学ぶ。						
到達目標	1.　小規模離島で活躍する島嶼保健看護のプライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストとしての役割と高度な看護実践の技能について述べることができる。 2.　照会のためのアセスメント能力の強化、島嶼保健看護に特徴的な Care と Cure を融合した高度な看護実践、海を越えた島外の専門職間の連携・調整・相談役割を意識して実践できる。						
回　数	授　業　内　容　及　び　計　画						担当者名
	<u>専門強化実習</u> 1.実習概要と実習場 1)小規模離島には存在しない、沖縄本島に存在する各専門看護師等から小規模離島で活用できる小児から老年までの各専門看護師の Care と Cure を融合したミニマムエッセンスを学び、島嶼保健看護師としてのプライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストの役割について学ぶ。よって、実習場は沖縄本島に在住している各専門看護師等が在職している沖縄本島の医療現場とする。小児、母性、成人、老年、在宅、精神の看護・医療専門職が存在するクリニックや病院など。 2)さらに、小規模離島で難渋する困難事例を島外へ照会するためのアセスメント能力の強化や島外の専門職との連携・調整・相談活動を学ぶ。 2. 実習方法 1)クリニックや後方支援病院等で展開されるコモンディジーズを基盤とした様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者への看護援助、健康予防・増進活動など、実習指導者（各専門看護師、医師、多職種など）のもとで実践する。 ①各専門看護師のもとで、小規模離島から沖縄本島に入院あるいは通院している患者の事例を受け持ち、Care と Cure を融合した高度な看護実践を展開する。小児、母性、成人、老年、在宅、精神に関する事例(1 事例以上)を受け持ち看護援助を展開する。 ②本島に在住する医療・保健・福祉の多職種との連携・調整・相談活動に関する小規模離島の実践事例を展開する。 2)実習記録として、「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録する。 3)本実習のまとめとして「実習レポート」（到達目標に沿う）を提出する 4)カンファレンスを開催し助言を得る。 ①実習カンファレンス 各専門看護師、医師、多職種、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス						学内教員 学外実習指導者(看護師、保健師、医師等)

②全体カンファレンス
中間カンファレンス(大学内の各領域の教員)
最終カンファレンス(看護部長、島ナース、施設の実習指導者など)

実習の概要:下記の実習期間については、院生の背景・希望によって異なる。

領域	場所	概要
母性	病院	妊娠および出産の経過における母体と児のアセスメントとケア、保健指導について、助産師から指導を受け、実践する。
小児	クリニック	急性胃腸炎や喘息などのコモンディジーズに関する臨床推論、および、展開予測について、また、予防接種の保健指導について、医師・小児の専門看護職から指導を受け、実践する。
老年	老人介護施設および訪問看護ステーション	認知症など、高齢者に一般的にみられる疾患に対する看護援助、および、高齢者の生活ニーズに沿ったアセスメントと看護援助について、看護師および医師の指導を受けて、実践する。
急性期	病院	心疾患、脳血管疾患、ショック・外傷における診断、治療、フォローアップのアセスメントと看護援助について、専門看護師、認定看護師の指導を受け、実践する。
慢性期	病院	高血圧、糖尿病、COPD、腎・肝疾患の予防、および、診断、治療、フォローアップのアセスメントと看護援助について、専門看護師の指導を受け、実践する。また、創傷ケアの実際について、認定看護師から指導を受け、実践する。
リハビリテーション	病院	嚥下機能および運動機能の保持増進の援助の実際について、理学療法士や作業療法士、言語療法士の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな要素を学ぶ。
がん	病院	抗がん剤治療と副作用症状の緩和の実際について専門看護師の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな看護の要素を学ぶ。また、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。
緩和ケア終末期	病院	緩和ケアと終末期医療の実際について専門看護師の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな看護の要素を学ぶ。また、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。
精神	病院	精神的健康問題をもつ対象の臨床推論、および、展開予測、看護ケアについて、専門看護師の指導を受け、実践する。また、精神的健康問題をもつ対象への島嶼地域における対応について、看護の要素を学ぶとともに、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。

成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。
備　考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。

下記は実習施設と実習指導者のリスト：学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種（氏名）
①　医療法人がじまるの会糸数病院	看護師長（具志春美）
②　沖縄県立宮古病院	病院長 副院長 看護師長（下地千里）
③　沖縄県立八重山病院	病院長 看護部長 看護師長（宮良久美江）
④　医療法人わらべの会わんぱくクリニック	院長
⑤　社会医療法人仁愛会浦添総合病院	看護部長兼急性・重症患者看護専門看護師（伊藤智美） 糖尿病看護認定看護師（前川スミ子）
⑥　医療法人沖縄徳洲会グループホームひめゆり	所長
⑦　医療法人 HSR 名嘉村クリニック　在宅ケアセンターおもろまち訪問看護ステーション	老人看護専門看護師
⑧　沖縄県立宮古病院家庭医療センター	センター長
⑨　医療法人天仁会天久台病院	精神看護専門看護師（上原勝子）
⑩　那覇市立病院	がん看護専門看護師（吉澤龍太）
⑪　アドベンチストメディカルセンター	がん看護専門看護師（濱田香純）
⑫　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	副院長 皮膚・排泄ケア認定看護師（砂川悦子） 島ナース（下地和枝）
⑬　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	リハビリテーション室長
⑭　地域医療振興協会　与那国町診療所	管理者兼所長

科　目 コード	51954	授業 科目	実践島嶼保健看護実習Ⅲ Practical Island Health Nursing PracticumⅢ	担当 教員	○宮里智子、他		
開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	必修	時間数	90 時間				
授業概要	小規模離島の診療所を受診する様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者に対し、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、島嶼保健看護師として、専門職や非専門職(住民など)と協働連携し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発技法を修得する。						
到達目標	１．小規模離島の健康課題の解決に向け、保健医療福祉の専門職及び住民等の非専門職との協働連携ができる。 ２．小規模離島の診療所を受診する様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者に対し、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 ３．実践島嶼保健看護実習ⅠおよびⅡで選択した小規模離島以外の離島を選択し、保健・医療・福祉の現状を比較し各離島の共通性と相違性について説明できる。						

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	課題解決実習 1.実習内容：実習の場は、小規模離島における診療所など 1)小規模離島の課題解決に向けて必要な保健・医療・福祉の専門職及び住民等の非専門職と協働による看護援助が展開できるように相談・調整を行う。 2)診療所を受診する様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者の困難事例や実践課題に関して、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 3)これまで実践してきた小規模離島以外の離島を1つ選択し共通性と相違性から小規模離島特有の課題を明確にする。 2.実習方法： 1)小規模離島における保健看護上の困難事例や実践課題(1 事例以上)に関して、診療所看護師または医師、地区担当保健師との情報共有を徹底し、相談・調整を行い、実践する。 2)看護援助として、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画の立案、実践、評価を、課題解決するまで繰り返す。実習期間中に課題解決できない場合は、看護師または保健師に引き継ぐ。 3)実習記録として、「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録していく。 4)比較する他の小離島は以下の離島例から一つの離島を選択する。 例：座間味島・渡嘉敷島・阿嘉島 粟国島・渡名喜島 北大東島・南大東島 竹富町離島 与那国島 国外小規模離島（グアム、サイパン、テニアン等） 5)カンファレンスを開催し助言を得る。 ①実習カンファレンス 診療所看護師、診療所医師、保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス 中間カンファレンス（大学内の各領域の教員） 最終カンファレンス（看護部長、島ナース、施設の実習指導者など）	学内教員 学外実習指導者（看護師、保健師、医師等）

	6)本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する。	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。	
備　考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。	

下記は実習施設と実習指導者のリスト:学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種(氏名)
①　南部医療センター・こども医療センター附属渡嘉敷診療所	診療所長 副院長 島ナース
②　南部医療センター・こども医療センター附属粟国診療所	診療所長 副院長 島ナース
③　南部医療センター・こども医療センター附属座間味診療所	診療所長 副院長 島ナース
④　沖縄県立宮古病院附属多良間診療所	病院長 診療所長 副院長 看護師長(下地千里)
⑤　沖縄県立八重山病院附属波照間診療所	病院長 診療所長 看護部長 看護師長(宮良久美江) 看護師(美底恭子)
⑥　沖縄県立八重山病院附属大原診療所	病院長 診療所長 看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑦　沖縄県立八重山病院附属小浜診療所	病院長 看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑧　地域医療振興協会　与那国町診療所	管理者兼所長

科目コード	51951	授業科目	実践島嶼保健看護課題研究 Practical Islands Nursing and Health Problem Study	担当教員	◎神里みどり、◎大湾明美、◎川崎道子、宮里智子、赤嶺伊都子

開講年次	博士前期課程 2年次	単位数	２単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				

授業概要	島嶼地域に関連した現場で直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。

回数	授業内容及び計画	担当者名
	＜2年間での修了予定の場合＞	
１年次	4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* ＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞ 実習体験を通して課題を明確化する。	神里みどり 他
2年次	4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 ＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊ 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊ 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊ 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会 ＊ 課題研究報告書(保存版)の提出 ＊ ※(　)内は前学期修了予定の日程	
・・・・	・・・・

３年次	実習体験を通して課題を明確化する。 4月　課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定 5月　研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 ＊ 10月(4月)　課題研究報告書作成 主査・副査の決定　考察・論文作成 12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出* 1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月)　公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※(　)内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭又は筆答による）を行う。	
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。なお、担当教員が変更になる場合がある。	

科目コード	52110	授業科目	継続保健看護教育Ⅰ Continuing Education in Health Nursing Ⅰ	担当教員	○宮里智子 嘉手苅英子 非常勤（未定）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	コア科目	授業形態	講　義
選択必修	必修	時間数	30 時間				

講義概要	看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状、看護職としての成長過程および看護職のキャリア開発と支援システム、看護継続教育における教育方法について学習する。さらに、看護実践の場における看護職への具体的な教育・指導場面の分析を通して、看護者としての成長を支援する教育方法について学習する。
到達目標	1 わが国の看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状について説明できる。 2 成人学習者の特徴を踏まえ、目的や対象に即した適切な教育方法を選択することができる。 3 看護職者の成長過程と看護生涯教育への支援システムについて説明できる。 4 看護職者としての成長を支援する教育的関わりとは何かについて例示しつつ説明できる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	1．わが国の看護教育制度とその変遷／看護教育課程と法的基盤 看護基礎教育、高度実践看護者（専門看護師、認定看護師など）の教育	嘉手苅
第2回	2．看護継続教育の現状と課題、対策 看護学生から看護職者へ、新人から熟達者へ	宮里
第3回	3．看護職のキャリア開発と支援システム 1）キャリア、キャリア開発とは	宮里
第4回	2）キャリア発達を支援するシステム プリセプターシップ、クリニカルラダ―制など	〃
第5回	4．学習者主体の教育方法	嘉手苅
第6回	1）共同学習	〃
第7回	2）アンドラゴジー 成人学習者の特徴，看護職者の特徴、成人教育の特徴	〃
第8回	3）自立度に即した教育；コーチング	〃
第9回	4）実践の場におけるシミュレーション教育	非常勤（未定）
第10回	5）実践を振り返りつつ学ぶ；リフレクション 協同教育	嘉手苅
第11回	6．看護実践の場における看護職への教育的関わりの振り返り ・教育実践の過程的構造と認識の発展	〃
第12〜15回	7．看護実践の場における看護職への教育的関わりの分析 ・体験を事実的に再現し記述する（再構成） ・看護職への関わりを分析し、看護職としての成長を支援する関わりであったのかを検討する ・総括	嘉手苅

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	講義の際に提示する
成績評価の方法	評価は授業への参加状況（プレゼンテーション、討議を含む）50点 レポート　50点　により総合的に行う。 （欠席およびレポート提出の遅れは評価に反映する）
備　考	授業は院生のプレゼンテーション・討議を中心に進める。

科　目 コード	52140	授業 科目	保健看護と研究Ⅰ （Nursing and Health Research Ⅰ）	担当 教員	○大湾明美・ 金城芳秀

開講年次	博士前期課程 1年次　前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義
選択必修	必修	時間数	30時間				

授業概要	看護ならびにヘルスケアの課題を解決するために、看護研究の基礎的知識および倫理的配慮、研究のプロセス、科学論文の書き方等を学習する。
到達目標	① 看護実践を研究する意義をEvidence Based Practice(EBP)の概念に基づき説明することができる。 ② 研究の倫理的配慮について説明することができる。 ③ 看護研究の基礎的知識を学習し、研究の準備、方法を説明することができる。 ④ 質的研究・量的研究の特徴を述べることができる。 ⑤ 研究方法の特徴を踏まえ、文献検索、倫理審査書類、科学論文の書き方，プレゼンテーション技術を説明できる。

回数	教育内容及び計画	担当者
第1回	EBPの概念に基づいた看護実践と看護研究	大湾
第2回	研究テーマ・研究方法の選び方	大湾
第3回	研究方法(1)研究計画作成方法	大湾
第4回	研究方法(2)文献レビュー、研究デザイン	大湾
第5回	研究方法(3) データ収集（質問紙・調査票の作成方法）	金城
第6回	研究方法(4)量的研究の分析	金城
第7回	研究方法(5) 質的研究の分析	大湾
第8回	研究方法(6)結果・結論の示し方	大湾
第9回	効果的な文献検索(1)	金城
第10回	効果的な文献検索(2)	金城
第11回	看護研究と倫理的配慮	大湾
第12回	倫理審査書類の書き方(1)	大湾
第13回	量的研究論文の書き方(1)	金城
第14回	質的研究論文の書き方(2)	大湾
第15回	発表のプレゼンテーション技術	大湾

テキスト	福田吉治・山懸然太朗監修（2007）保健医療福祉の研究ナビ，金原出版
参考文献	Beverly M.Henry 著、上田礼子監訳（2004）：看護研究ハンドブック，医学書院 John W. Creswell，他　著(2007)研究デザインー質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会 Immy Holloway，他　著(2006)ナースのための質的研究入門ー研究方法から論文作成まで，医学書院 高木廣文・林邦彦著(2006)：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方，中山書店 澤田昭夫（2011）：論文の書き方，講談社 澤田昭夫(2011)：論文のレトリック，講談社
成績評価の方法	1．授業への参加状況 2．到達目標に関わる課題レポート
備　考	学生と教員間のディスカッションと演習を通して，論理的・科学的思考能力を磨く。

科目コード	53160	授業科目	生涯人間発達学 Life-span Development	担当教員	○上田礼子（名誉教授）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	生命の誕生から死亡まで人間の生涯を発達的観点からとらえる種々の理論を学習し、理論構築の背景となった実証的研究と保健看護への応用を学習する。人生の各期における健康上のリスク児・者の問題を発達的観点から理解し、問題解決を保健看護の立場から支援に役立てる最近の理論、方法・技法を学習する。
到達目標	1．各々のライフステージの人を対象に高度なケアを計画、実行、評価するために発達理論を応用する。 2．発達的視点から複雑な健康問題を評価し、対応する。 3．人間の成長・発達上の問題を歴史的、社会・文化的、生態学的に分析し、総合的に理解する。 4．先進国、開発途上国と比較して日本における人間発達的特徴の理解を深める。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	総論　生涯人間発達の概念、年齢と時代、人生各期の区分	上田
第2回	発達理論	
第3回	各理論の保健看護への応用	
第4回	生涯発達の研究方法（1）	
第5回	生涯発達の研究技法（2）	
第6回	各論　出生前発達とケア	
第7回	乳児・幼児前期の発達と支援	
第8回	幼児後期の発達と支援（1）	
第9回	幼児後期の発達と支援（2）	
第10回	乳幼児期の発達評価と支援	
第11回	学童期の発達と支援	
第12回	青年期の発達と支援	
第13回	成人期の発達（成熟）と支援	
第14回	老年期の発達（成熟）と支援	
第15回	総括	

テキスト	上田礼子　「生涯人間発達学」　改訂第2版増補版第3刷　三輪書店　2013
参考書	上田礼子編著　「子どもの発達と支援」　中外医学社　2001 上田礼子著　「上田式発達簡易検査」医歯薬出版　2011 新井清三郎, 上田礼子　リハビリテーション医学全書2,「人間発達」, 第1版第23刷, 331-333, 医歯薬出版　1996 上田礼子著, 「子ども虐待予防の新たなストラテジー」医学書院, 2009 Alison Clark-Stewart, Lifelong Human Development, Wiley, N.Y. 1988,　その他
成績評価の方法	評価は出席、授業参加時の態度、試験、レポートなどを総合して判断する。
備考	学習方法：教科書および関連する参考書、文献の活用、発達簡易検査の活用、子どもの養育環境評価資料、ビデオの使用、Field での観察・面接による学習

※奇数年度（西暦）開講

科　目 コード	53170	授業 科目	生体機能とリスク Functions of the Human Body and Risk	担当 教員	○佐伯宣久

開講年次	博士前期課程 １年次前期	単位数	２単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講　義
選択必修	選　択	時間数	３０時間				

授業概要	人体の正常な構造および機能との関連性についての知識を与える。これらを基礎とし病気の発生機序を理解させると同時に、基礎的な検査、診断および治療（薬理作用など）を教授する。
到達目標	1．各器官系の構造・機能を理解し、疾患の発生メカニズムを理解する基礎とする。 2．検査や治療について、解剖生理学的観点から理解する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
全１５回	各器官系の構造と機能について解説する。また、症例を提示し、その中で示された症状や行われた検査及び治療法について、その生理学的基礎を考察し、討論を行う。	佐　伯
第１回	細胞と遺伝	
第２回	骨格系	
第３回	筋系	
第４回	呼吸器系	
第５回	循環器系	
第６回	泌尿器系	
第７回	消化器系（１）	
第８回	（２）	
第９回	内分泌系	
第１０回	神経系（１）	
第１１回	（２）	
第１２回	血液系	
第１３回	体液調節	
第１４回	感覚器系	
第１５回	免疫系	

テキスト	関連する文献などを適宜配付する。
参考文献	各授業で必要に応じて参考文献を紹介する。
成績評価の方法	授業への参加状況とレポートで評価する。
備　考	各講義の前準備として事前に設定する課題について調べ、授業に参加していただきたい。

科目コード	53110	授業科目	疫学と保健統計Ⅰ Epidemiology and Health Statistics I	担当教員	○金城芳秀

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	ある特定の集団（地域、職域、学校などを含む）における健康に関連した状態や事象の分布（記述疫学による）と決定要因（分析疫学による）及び健康管理への疫学および統計学の活用について学習し、グローバル化時代に対応した疾病のリスクマネジメントを、疫学的方法論からアプローチし、解決方法を探索する。 看護分野の研究における疫学および統計について理解を深め、その手法について説明できること、及び実践のための疫学研究を理解し、実行できるよう学習する。
到達目標	1. 学術論文に用いられる疫学および統計手法を理解、説明、活用できる。 2. 自らの研究（特別研究Ⅰ、課題研究）において疫学および統計手法を活用できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	疫学と統計学の看護学への応用	金城　芳秀
第2回	統計的検定、推定	
第3回	医療従事者のための統計手法（理論）	
第4回	医療従事者のための統計手法（応用）	
第5回	SPSSによるアンケートの調査・集計・解析	
第6回	応用統計Ⅰ：回帰分析	
第7回	応用統計Ⅱ：生存分析	
第8回	保健看護への疫学の導入	
第9回	患者・対照研究	
第10回	コホート研究	
第11回	環境と疫学	
第12回	感染症の疫学	
第13回	がんの疫学	
第14回	社会疫学	
第15回	討議およびレポート課題	

テキスト	講義資料を配布する。
参考文献	随時紹介する。
成績評価の方法	レポート課題と参加状況により評価する。
備考	

科　目 コード	53130	授業 科目	ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ Health Promotion and Health Education I	担当 教員	○川崎道子 守山正樹（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	疾病の早期発見／治療からリスク軽減など従来の予防医学的な展開から、積極的に個人や集団の健康を求める方向に向かう中で、健康教育の考え方が生まれた。さらに周囲の人々や社会を健康的な方向に動かし、導く考え方としてヘルスプロモーションが生まれた。本授業では、これらの考え方の理論的発展過程を学び、日々の生活や研究での応用力を磨く。 ヘルスプロモーションの理論の中心は、主に欧米で形成されたが、南米生まれのエンパワーメントの考え方は、ヘルスプロモーションの核になりつつある。また日本も含め、アジア諸国でヘルスプロモーションの展開においては、沖縄も含め、アジアの人々の思考過程や感性も考慮する必要がある。本授業では、受講者相互の対話や、感覚体験の演習から、エンパワーメントの意味を実践的に理解し、学校保健も含めて医療と教育、福祉の分野における連携とそれぞれの役割について学際的、国際的視野から学習する。 慢性疾患をもって地域で生活する人のセルフコントロールとそれに関連する要因、患者教育などポジティブヘルスからアプローチを学習する。
到達目標	1. 健康教育とヘルスプロモーションの歴史的・理論的背景を理解できる。 2. 健康教育・ヘルスプロモーション研究を適切に位置づけられる。 3. 保健看護に健康教育・ヘルスプロモーションを位置づけられる。 4. 保健看護に応用できる健康教育・ヘルスプロモーションの方法と技法を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	20世紀以前の健康教育	守山正樹
第2回	健康教育の母体となった実験心理学の視点	
第3回	行動科学の発達が健康教育に及ぼした影響	
第4回	社会心理学的なモデルと健康教育の社会化	
第5回	公衆衛生革命とヘルスプロモーションの誕生	
第6回	オタワ憲章からヘルスプロモーションを読み解く	
第7回	エンパワーメントとヘルスプロモーション	
第8回	構成主義的な学習理論とヘルスプロモーション・健康教育	
第9回	人々と世界の再構築を続けるヘルスプロモーション・健康教育	
第10,11回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(小児・母性編)	川崎道子
第12,13回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(成人・老年編)	
第14回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(精神編)	
第15回	保健看護におけるヘルスプロモーション・健康教育の実践的な展開方略に関する発表とまとめ	

テキスト	日本健康教育学会編、「健康教育＿ヘルスプロモーションの展開」、保健同人社
参考文献	ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｗｉｆｙｗｉｍｙ．ｃｏｍ／
成績評価の方法	評価は、課題レポート、討議への参加度・理解度によって総合的に判定する。
備　考	集中講義方式で行う。講義では積極的な質疑、討論を期待する。

科目コード	53140	授業科目	保健看護情報 Nursing and Health Informatics	担当教員	○金城　芳秀		
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				
授業概要	離島・へき地を抱える沖縄県では、ICT を応用したテレヘルス、テレナーシングによる保健医療システムの質改善が期待されている。その際、保健看護の専門職者にはどのような看護能力（知識・技術・態度）が求められているのだろうか。さらに看護能力の向上では、ｅラーニングや継続教育がどのような役割を果たすことができるのであろうか。ここでは、対面授業でのディスカッションを中心に、ｅラーニングシステムを活用しながら、学習者の知識と技術の向上を目指す。						
到達目標	1. 病院・施設、家庭、地域それぞれの場面において有用な保健看護情報について述べる。 2. 遠隔地における保健看護上のニーズおよびコミュニケーションについて説明する。 3. 患者情報の守秘、法的倫理性、保護など、専門領域における情報の活用方法を述べる。						

回　数	教　育　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	看護情報学　－看護情報学に必要な能力	金城　芳秀
第2回	Telenursing	
第3回	e-learning と看護継続教育	
第4回	情報の伝達とコミュニケーション	
第5回	ポピュレーションの健康	
第6回	健康の決定要因	
第7回	健康格差	
第8回	健康政策	
第9回	健康情報へのアクセス（情報リテラシー）	
第10回	プレゼンテーション	
第11回	患者の権利とインフォームド・コンセント	
第12回	ICT とプライバシー、守秘、情報保護	
第13回	看護における継続教育	
第14回	データ、情報および知識の統合にむけて（ディスカッション）	
第15回	島嶼県沖縄のニーズと ICT	

テキスト	関連資料、文献等を適宜配布する
参考文献	Hunter MK: International professional standards for telenursing programmes standards and competencies　International Council of Nurses 2001 American Nursing Association: Nursing Informatics -Scope and standards of practice- 2nd Edition 2015
成績評価の方法	評価は討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う
備　考	

科　目 コード	53220	授業 科目	地域文化看護論 Community Culture and Nursing Theory	担当 教員	○大湾明美 津波高志　岩﨑弥生 小川寿美子

開講年次	博士前期課程 1年次･前期	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	３０時間				

授業概要	看護における地域文化の影響、地域文化に根ざした看護について検討する。
到達目標	1.文化の概念と琉球弧の文化を学ぶ。 2.健康と文化の関係を学び、異文化看護、地域文化看護について説明できる。 3.看護における地域文化の影響について説明できる。 4.地域文化に根ざした看護の必要性について具体的に説明できる。 5.国内外の地域文化と看護に関する課題を学び看護実践に生かすことができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	オリエンテーション	大湾明美
第1回	文化の定義：	津波高志
第2回	琉球孤の文化概観：	津波高志
第3回	異文化看護とは　地域文化看護とは：	岩﨑弥生
第4回	看護における地域文化の影響：	岩﨑弥生
第5・6回	海外にみる異文化と看護実践：	小川寿美子
	海外事例研究と実践事例から	
第７・8回	沖縄に見る地域文化と看護：	大湾明美
	沖縄の事例研究と実践例から	
第9・10回	看護実践における地域文化の影響事例について学生の報告：	大湾明美
第11・12回	国内外の地域文化と看護に関する課題（海外）	小川寿美子
第13・14回	国内外の地域文化と看護に関する課題（国内）	岩﨑弥生
第15回	まとめ：	大湾明美

テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考文献	講義のテーマに沿って、その都度紹介する。 高橋孝代(2006) 、境界線の人類学、重曹する沖永良部島民のアイデンティティ、弘文堂 レイニンガー(1992/1995) 、稲岡文昭監訳、レーニンガー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、医学書院 Kiefer, CW(2006/2010)、木下康仁訳、文化と看護のアクションリサーチ、保健医療への人類学的アプローチ、医学書院 Roper, JM(2000/2003)、麻原きよみ・グレッグ美鈴訳、エスノグラフィ、日本看護協会出版会
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

※偶数年度（西暦）開講

科目コード	53180	授業科目	看護倫理 Nursing Ethics	担当教員	○ 山本敬子 村上満子 手島恵(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	看護倫理の基本的原則を理解し、倫理的課題を検討し、実践現場で活用できる倫理的判断能力と問題解決技法を学ぶ。
到達目標	１．看護倫理の原則・規範について説明できる。 ２．看護倫理の主要な概念について述べることができる。 ３．倫理課題とその解決技法について述べることができる。 ４．倫理的問題について多様な価値観に耳を傾けると共に自分の意見を述べることができる。 ５．倫理的感性を高める必要性について理解する。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1・2回	看護倫理の概念と倫理原則、倫理規範	村上
第3・4回	看護倫理の主要な概念	山本
第5～9回	看護職の臨床現場における倫理的ジレンマと課題解決	手島
	倫理的ジレンマにおける意思決定や解決モデル	手島
	看護をめぐる法的問題と倫理	手島
	看護管理における倫理	手島
第10・11回	倫理課題とその解決技法　事例検討①	山本
第12・13回	倫理課題とその解決技法　事例検討②	山本
第14・15回	専門看護師の倫理調整の役割	非常勤講師

テキスト	小西恵美子編、看護倫理 - よい看護・よい看護師への道、南江堂
参考文献	看護倫理を教える・学ぶ　倫理教育の視点と方法.　日本看護協会出版会 西川満則他. 本人の意思を尊重する意思決定支援. 南山堂 宮坂道夫.(2005). 医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ. 医学書院 適宜、授業で文献を紹介する
成績評価の方法	授業への参加姿勢(20%)、プレゼンテーション（20%）、レポートの内容(60%)
備考	事例検討について プレゼンテーションと討議を行なう。 事例検討は受講生が体験した事例を取り上げる。発表者は授業の前日までに発表資料を参加者に配布する。

科　目 コード	53190	授業 科目	看護コンサルテーション （Nursing Consultation）	担当 教員	○村上満子 吉澤龍太(非常勤) 上原勝子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 １年次後期	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30 時間				

授業概要	援助関係の基本となる問題解決過程とコンサルテーション過程についての理解を深め、看護組織におけるコンサルテーション機能の重要性について学習する。また、事例検討を通して専門看護師に必要な看護コンサルテーションの基本的技法を学ぶ。
到達目標	1. 看護実践に必要なコンサルテーションの意義を説明できる。 2. 看護組織におけるコンサルテーション機能の必要性を説明できる。 3. 看護実践の問題解決法としてコンサルテーション過程の適用を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１・２回	コンサルテーションの概念 コンサルタント及びコンテルティの役割	村上
第３・４回	専門看護師の役割・機能とコンサルテーション 援助関係としてのコンサルテーション	村上
第５・６回	プロセス・コンサルテーション 問題解決過程とコンサルテーション過程	村上
第７・８回	コンサルテーションのタイプ クライエント中心のケースコンサルテーション コンサルティ中心のケースコンサルテーション プログラム中心の管理に関するコンサルテーション コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション	村上
第９・10 回	臨床現場におけるコンサルテーションと CNS の役割	吉澤・上原 (非常勤)
第 11・12 回	コンサルテーションが必要な事例・場面の設定と組み立ての演習	村上
第 13・14 回	コンサルテーションに関する文献学習により，コンサルテーションの技法や評価について学ぶ	村上
第 15 回	コンサルテーション活動の実践と評価（まとめ）	村上

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	・シャイン,E.H.(著) (1996/2004). 稲葉元吉, 尾川丈一.(訳).プロセス・コンサルテーション〜援助関係を築くこと〜. 白桃書房. 随時、資料を配付する。
成績評価の方法	評価は授業への参加度、プレゼンテーション、レポート等を総合して行う。
備　考	授業の前半は集中講義、後半はグループ学習形式で行う。

科目コード	53201	授業科目	看護管理・政策 Nursing Administration & Health Policy	担当教員	○宮里　智子 田村やよひ（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	保健看護サービスシステムについての理解を深め、看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。 わが国の保健看護政策の決定過程を学び、看護界の直面している問題および改善するための道筋を明らかにする。
到達目標	1．現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスを理解し、患者ケア提供システムの改善策などについて検討できる。 2．保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際を知る。 3．看護政策の人材育成・キャリア開発への効果的なサポートシステムを提言できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名	授業方法
	《看護管理》		
第1回	保健医療福祉制度改革の現状と看護職の直面する課題の明確化	宮里	講義
第2回	保健医療提供組織の特徴：法的根拠、看護組織のしくみ、専門職の連携	未定	講義
第3回	組織行動の考え方：組織の中の個人、モチベーション、コミットメント	宮城	講義
第4回	変革の時代における看護専門職のリーダーシップ	宮城	講義
第5回	看護専門職の役割拡大と責務の範囲	宮里	講義
第6回	医療における質保証	翁長	講義
第7回	病院における医療安全管理の実際：リスクマネージャーの役割	饒平名	講義
第8回	直面している看護管理上の課題と改善策（報告：一人あたり10分）	宮里	講義
	《看護政策》		
第9回	看護政策と政策決定過程	田村	講義
第10回	医療提供体制の改革と課題	田村	講義
第11回	保健師助産師看護師法と看護職者の責務、課題	田村	講義
第12回	看護職員の需給と確保	田村	講義
第13回	看護職者の資質向上に向けた政策の変遷と課題	田村	講義
第14回	看護の国際化とわが国の課題	田村	講義
第15回	政策課題（報告：一人あたり15分）	田村	講義
第16回	看護専門職に必要な政策力（まとめ）	田村	講義

テキスト	・「看護管理学習テキスト」①②③別巻　日本看護協会出版会 ・田村やよひ．（2015）．私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法　第2版．日本看護協会出版会． その他、事前に必読文献を提示する。
参考文献	・日本看護協会．（2007）．看護業務基準2007改訂版．日本看護協会出版会 ・中西睦子（編）（2013）．看護サービス管理　第4版．医学書院． ・見藤隆子他．（2007）．看護職のための政策過程入門．日本看護協会出版会 ・日本看護協会編．（2010）．日本看護協会の政策提言活動．日本看護協会出版会．
成績評価の方法	評価は講義への出席状況と参加姿勢およびレポート等を総合して行う。

科　目 コード	53230	授業 科目	実践臨床薬理学 Practical Clinical Pharmacology	担当 教員	○植田真一郎（非常勤） 糸嶺達（非常勤） 赤嶺伊都子

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選択	時間数	３０時間				

授業概要	薬剤と生体との相互作用および、薬剤の基本的な作用機序を理解し、急性期や慢性疾患の患者、妊婦・授乳中の女性、小児から高齢者まで、各対象別に処方されている薬剤についての症状緩和や薬物の使用・中止の判断と、服薬管理能力を高めるための指導に必要な基礎知識を学ぶ。さらに、薬物治療を受けながら療養している患者の症状緩和、モニタリングおよび疾病の回復への支援について学習する
到達目標	１．薬剤と生体との相互作用が説明できる。 ２．薬剤の体内での吸収、分布、代謝、排泄の機序が説明できる。 ３．薬剤の基本的な使用方法について、病態時の特徴を含め説明できる。 ４．在宅療養者に投与されることの多い薬剤について、作用機序、副反応、投与方法が説明できる。 ５．医療資源の乏しい地域の住民が、在宅で服用している薬剤の服用方法や管理等について、当該住民が理解し、実践できるよう指導ができる。 ６．妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害を有する人の服薬についてモニタリングし、危険の可能性が判断でき、必要時服薬中止し主治医に連絡するよう助言することができる。 ７．薬剤の主な副反応についてアセスメントし対処法を説明できる。 ８．薬剤の多剤服用および食品等との併用時の禁忌について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
第１・２回	薬理学の基礎（薬物動態学、薬物代謝）	植田 （医師）	講義
第３・４回	薬剤の処方・変更における医師の判断過程 薬剤の基本的な使用方法および病態時の特徴		
第５・６回	慢性疾患・在宅療養者に投与されることの多い薬剤		
第７・８回	主な薬剤、作用機序、副反応、投与方法等、薬剤効果（臓器別、効能別等） 特殊な条件にある人の薬剤使用の特徴		
第９・10回	妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能・肝機能障害を有する人等 薬剤の多剤服用および食品等との併用禁忌 副反応のアセスメントと対処法		
第11・12回	多剤服用の事例、特殊な条件下にある事例の服薬使用の特徴 ・事例検討を通して服薬使用の特徴、留意点を理解する。 妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害・肝機能障害をもつ患者など		
第13・14回	服薬の製剤・調剤・保管、変質の管理について	糸嶺達 （薬剤師）	講義
15回	服薬指導が必要な事例（薬剤の必要性、服用上の留意点、指導） ・事例検討を通して服薬指導のアセスメントと指導の実際を体験する。 服薬が遵守できない事例、服薬確認が困難な事例、薬剤の自己管理ができない事例など	赤嶺	講義 討議

テキスト	デービット・Ｅ．ゴーラン他、日本語版監修、清野裕（2005/2006）、ハーバード大学テキスト、病態生理に基づく臨床薬理学、メディカル・サイエンス・インターナショナル その他：随時資料を配付する。
参考文献	随時参考文献などを紹介する。
成績評価の方法	授業参加態度（ディスカッション等の参加状況）、事例検討レポートを総合して評価する。
備　考	事前学習としてハーバード大学のテキストの各単元を熟読して授業に参加する。

科　目 コード	53240	授業 科目	実践ヘルスアセスメント Practical Health Assessment	担当 教員	○上原和代、 謝花小百合、佐伯宣久 非常勤講師: 伊藤智美、砂川長彦 林成峰、外間実裕 山内豊明、徳田安春

開講年次	博士前期課程 1 ~2 年次	単位数	2 単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選択	時間数	45 時間				演習

授業概要	小児から高齢者までの各ライフサイクルに特有なアセスメントの特徴を理解し、クリティカルシンキングをベースにした包括的なアセスメント能力を養うためのヘルスアセスメントの知識・技術・技能を学び、実践で活用できるようにする。
到達目標	1. 対象理解に基づく適切なヘルスアセスメントを実施できる。 2. ライフサイクル各期に特有のアセスメントの特徴を述べることができる。 3. アセスメント技術を通して、正常・異常を包括的に判断し説明できる。 4. 実践で活用できるフィジカルアセスメントが実施できる。

回数	授業内容及び計画	担当者	授業方法
第 1 回	はじめに：授業ガイダンス ヘルスアセスメントに必要な技術の確認 　シミュレーターを用いたベースライン・テスト	上原・謝花	講義・演習
第 2・3 回	面接・健康歴聴取、身体診察の技法と看護師の行う臨床推論 頭頚部のヘルスアセスメント	上原・謝花	
第 4・5 回	専門看護師に必要なヘルスアセスメント	伊　藤 （専門看護師）	
第 6・7 回	呼吸器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	徳　田（医師）	
第 8・9 回	循環器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	砂　川（医師）	
第 10・11 回	消化器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	林　（医師）	
第 12 回	腎・泌尿器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	外　間（医師）	
第 13-14 回	感覚・神経系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	山　内 （医師/ 看護師）	
第 15-16 回	筋・骨格器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開		
第 17 回	乳幼児のヘルスアセスメントと看護展開	上原・佐伯	
第 18・19 回	急変時のヘルスアセスメントと看護展開	徳　田（医師）	
第 20・21 回	臨床事例を用いたヘルスアセスメントの実際 　シミュレーター用いたケース別ヘルスアセスメントの実際	伊　藤 （専門看護師）	
第 22・23 回	ヘルスアセスメントに必要な技術の確認	上原・謝花	

	シミュレーターを用いた到達度テスト まとめ：看護師の行うヘルスアセスメントの特徴と実践への活用 レポート課題の報告、ディスカッション		
テキスト	山内豊明訳(2015)、ベイツ診療法ポケットガイド　第２版、メディカル・サイエンス・インターナショナル　　＊最新版を購入してください。		
参考文献	1. Lynn S.Bickly, 福井次矢, 井部俊子(2015), ベイツ診療法　第 2 版　Bates' Guide to Physical Examination and History Taking　11th Edition, メディカル･サイエンス･インターナショナル, 東京. 2.中木高夫（翻訳)、山内豊明（翻訳）(1998)：ヘルスフィジカルアセスメント（上下巻)、日総研出版 3.Wolters Kluwer(2011) 、 NURSING HEALTH ASSESSMENT, A Best Practice Approach,Lippincott Williams & Wilkins.		
成績評価の方法	1. 授業の初回と最終回に行う、シミュレーターを用いた技術試験（15%） 2. 各回の授業への参加度（10%）、臨床推論やディスカッションの内容（30%） 3. 課外の時間で小児、成人、高齢者へのヘルスアセスメントを実施し、レポートを作成する（各事例10%、計30%）。 4. 最終日の事例の報告とディスカッション（15%） ＊レポート作成時は事例の個人情報保護に十分留意すること。また、事例の健康状態に指定はありません。 ＊遅刻・欠席・早退、倫理的に問題のある行動等は減点となります。		
備　考	・テキストは参考文献１の簡易版となっています。参考文献１は図書館から借り出して予習・復習に利用してください。 ・第 6～16 回は、講師による部位別あるいは対象別に特徴的な機能のアセスメント･診察技法･検査結果の読み方などの解説、看護でよく用いるヘルスアセスメントの技法の実践(学生同士あるいはシミュレーターを用いて)、事例のヘルスアセスメントを元にした看護展開、で構成します。 ・学内で開講される際はユニフォーム（勤務先のものでよい）を着用してください。 ・聴診器、ペンライト、定規などフィジカルアセスメントに必要な物品を持参してください。 ・事前学習として、テキストの各単元を熟読し、病態生理を復習しておきましょう。 ・事前に、担当教員と履修生のメールでの連絡網を作成します。非常勤講師の都合により日程変更となる場合がありますので随時、メールでの連絡をします。 ・レポート課題は最終回にて提出となります。開講期間の前半に取り組むと授業内容の理解が深まります。		

科目コード	53250	授業科目	実践臨床病態生理学 Practical Clinical Pathophysiology	担当教員	○佐伯宣久、宮里智子 非常勤講師（予定）

開講年次	博士前期課程 １～2年次	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講　義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	病態の成因を細胞、組織、遺伝子レベルから学習し、さらに先天性異常・循環器疾患・炎症・腫瘍など領域別による疾患や障害の成因を理解し、診断や治療方針について学習する。 学習した病態生理の知識を活用し、エビデンスに基づいた臨床判断能力を養うための技法を修得する。
到達目標	1. 疾患の発生・進展・治癒のメカニズムを生理学的視点から理解できるようにする。 2. 各疾患の病態生理に基づき、検査・診断・治療方針などを理解できるようにする。 3. 医療現場において、常に疾患の病態生理を念頭におきながら臨床判断と看護展開を行うことができるよう、その方法論的基礎を修得する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
授業番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 １０ １１ １２ １３ １４ １５	病態生理学総論・血液凝固異常の病態生理学 血液疾患の病態生理学 運動器疾患の病態生理学 循環器疾患の病態生理学 内分泌・代謝疾患の病態生理学 腎疾患の病態生理学 感染症・免疫異常の病態生理学 先天異常の病態生理学 消化器疾患の病態生理学（１） 消化器疾患の病態生理学（２） 神経疾患の病態生理学（１） 神経疾患の病態生理学（２） 呼吸器疾患の病態生理学 病態生理と看護展開（１） 病態生理と看護展開（２） ・授業の日程については別途配布する。	佐伯 非常勤講師 宮　里 〃	講義・討論

テキスト	特に指定しない
参考文献	矢崎義雄　総編集：内科学　第10版，　朝倉書店　2013 医療情報科学研究所　編集：病気がみえる Vol. 1－9，メディックメディア 御手洗玄洋 総監訳：ガイトン生理学　原著第11版，　エルゼビアジャパン　2010
成績評価の方法	授業参加状況、レポート、プレゼンテーションなどで評価する。
備　考	本科目では、講師による講義に加え、講師と受講生による討論を重視したいと考えている。 授業の事前準備として各自以下のことを行い、活発な討論をお願いしたい。 ・講義のテーマについて標準的な教科書などを読む。 ・講義のテーマに関する学術的な疑問や医療現場で生じた疑問があれば整理しておく。

科　目 コード	53260	授業 科目	医療の質保証と安全管理 Guarentey for Quality of Medical Heath Care and Safty Management	担当 教員	○未定

開講年次	博士前期課程１～2 年次	単位数	2 単位	科目 分類	専攻分野共通科目	授業 形態	講義
選択必修	選択（領域必修）	時間数	30 時間				

授業概要	質の高い医療、ケア提供のための医療倫理、医療安全の基本や体系的取り組み、リスクマネジメントの理論を学ぶ。また　ケーススタディをとおしてプライマリ・ヘルス・ケアナースプラクティショナー(NP)として医療の質保証と評価、安全管理とリスクマネジメントに対応できる能力を養う。
到達目標	１．質の定義について説明できる。 ２．安全管理とリスクマネジメントの理論が説明できる。 ３．医療倫理を基盤とし、医療の質保証と医療安全（安全管理）の観点からプライマリ・ケア NP としての質の高い看護実践と評価、安全管理について思考し述べることができる。 ４．自己のリスクマネジメントについて思考し述べることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	オリエンテーション　医療倫理４原則	未定
第２回	質の定義、概念的探究	
第３回	質の定義　実証調査研究	
第４回	評価のための基本的な方法	
第５回	医療の質と評価	
第６回	看護サービスの質と評価、 クリティカルパス（医療の標準化）	
第７回	第３者評価としての病院機能評価（日本）とＪＣＩ（Joint Commission International）枠組み、指標項目	
第８回	医療の質管理の手法：TQM	
第９回	安全管理とリスクマネジメント	
第 10～14 回	ケーススタディ 次のキーワードをポイントにする。 構造・過程・結果 技術要素、療養環境（診療環境）・安全管理 薬剤管理 チームケアと多職種連携 情報管理と個人情報保護 コミュニケーション 自己のリスクマネジメント（セルフマネジメント） （ケースは、授業で提示）	
第 15 回	プレゼンテーション ライマリ・ヘルス・ケア NP としての医療の質保証 プライマリ・ヘルス・ケアの「質保証のための行動」モデル	

テキスト	資料配布
参考文献	医療倫理・医療の質の定義と評価方法　健康評価機構 井部俊子　中西睦子監修　看護管理学習テキスト「看護マネジメント論」日本看護協会出版会
成績評価の方法	授業参加とレポートとプレゼンテーションにより評価する。
備　考	事前に必読文献を提示する。 授業は、講義とケーススタディ

※奇数年度（西暦）開講

科目コード	53281	授業科目	質的研究方法論 Qualitative Research	担当教員	○ 未定 長谷川美貴（非常勤講師）

開講年次	博士前期課程 1年次前後期	単位数	2単位	科目分類	共通科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30 時間				

授業概要	保健看護分野において質的研究を実施するための基礎知識・技法を学修する。そのため、先ず質的研究の一連のプロセスを学習し、次に幾つかの代表的な研究方法を詳しくみていく。さらに、インタビュー、（参与）観察といった基本の技法を演習形式で学ぶ。データ分析についても、実際に行われた研究プロジェクトのトランスクリプトを用い、コーディングやカテゴリー化の演習を実施する。
到達目標	1　質的研究が量的研究とどのように異なるかを述べることができる。 2　研究の課題・問いに応じて適切な研究方法を選ぶことができる。 3　質的研究の信頼性・妥当性について述べることができる。 4　インタビューや観察といった基本的な技法を用いることができる。 5　コーディングやカテゴリー化を通して初歩的なデータ分析を行うことができる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第１回	イントロダクション：質的研究とは―定義、特徴、研究法の種類―	未定
第２回	質的研究のプロセス①：問いの設定、文献収集・検討、研究のデザイン、協力者のサンプリング、フィールドへのアクセス	長谷川美貴
第３回	質的研究のプロセス②：データの作成、インタビュー・観察・記録の種類、データの分析、論文の執筆	〃
第４回	質的研究における信頼性・妥当性について	〃
第５回	様々な研究方法①：「質的記述的研究」と「グラウンディド・セオリー」	〃
第６回	様々な研究方法②：「エスノグラフィー」と「現象学」	〃
第７回	様々な研究方法③：「事例研究」と「アクション・リサーチ」	〃
第８回	インタビューと（参与）観察の仕方	〃
第９回	インタビューの演習	〃
第10回	（参与）観察の演習	〃
第11回	インタビューと（参与）観察の演習へのフィードバック	〃
第12回	実際のプロジェクトから学ぶ①：コーディングの仕方と演習	〃
第13回	実際のプロジェクトから学ぶ②：演習の続き	〃
第14回	実際のプロジェクトから学ぶ③：演習へのフィードバック	〃
第15回	コーディングから論文へ　　総括	長谷川・未定

テキスト	グレッグ美鈴・他（編著）.(2016).よくわかる質的研究の進め方・まとめ方,看護研究のエキスパートをめざして，第2版，医歯薬出版 ＊随所で補助教材を使用し、様々な研究方法の学習にあたってはサンプル論文を用いる。
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
成績評価の方法	出席、講義への参加状況、演習への取り組みなどを総合して評価する。
備考	

博士後期課程

科目コード	61111	授業科目	保健看護管理・教育特論Ⅱ Nursing and Health Administration and Education　Theory　Ⅱ	担当教員	○嘉手苅英子 勝原裕美子（非常勤）
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選　択(領域必修)	時間数	30時間				
授業概要	保健看護サービスシステムの現状とヘルスニードについて分析し、組織行動論、変革理論等を活用して保健看護管理に関する政策を分析・評価する力を養う。さらに、高度看護実践に対応するために、保健看護管理領域の新たな役割・機能を開拓する。 看護基礎教育および看護継続教育の歴史的変遷及び今日的問題について、諸外国との比較において我国の特徴を学ぶ。さらに、看護教育実践の土台となる弁証法及び認識論について具体例を取り上げながら学ぶ。				
到達目標	1．保健看護システムやマネジメント・リーダーシップ理論について保健政策との関連で分析する。 2．保健看護管理に関するマネジメント・リーダーシップの概念を統合する。 3．わが国における看護教育の特徴を諸外国との比較において論述できる。 4．看護継続教育の現状を社会背景との関連について論述できる。 5．看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践の関連について説明できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	ヘルスニードの優先度決定；看護管理の理論と実践の適用。	非常勤（未定）
第2回	ヘルスニードの分析（諸理論の活用）	非常勤（未定）
第3回	倫理的な管理行動に関する諸理論	非常勤（勝原）
第4回	保健看護管理領域における役割・機能の拡大	〃
第5回	保健看護管理に関する政策の分析・評価	非常勤（未定）
第6回	保健看護管理政策に関するマネジメント・リーダーシップ	非常勤（未定）
第7回	保健看護管理の情報に関するネットワーク	非常勤（勝原）
第8回	我が国の教育制度の特徴と看護教育	嘉手苅英子
第9回	〃	〃
第10回	我が国の看護教育制度の変遷と現在	〃
第11回	諸外国における看護教育制度	〃
第12回	看護継続教育の現状と課題	〃
第13回	看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践との関連	〃
第14回	〃	〃
第15回	総括	嘉手苅／未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	適宜、指定する
成績評価の方法	評価は講義への参加姿勢およびレポート等を総合して行う。
備考	講義はゼミ形式で行い、授業内容の順序や時間配分は，参加者の背景や理解状況に応じて適宜調整しながら進める。それぞれのテーマについて、あらかじめ提示された資料及び検索した文献を読んで参加し、発表、討議を通して理解を深める。

科　目 コード	61121	授業 科目	保健看護管理・教育特別研究Ⅱ Nursing and Health Administration and Education Special Study Ⅱ	担当 教員	◎嘉手苅英子 宮里智子

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	保健看護管理・教育領域における研究課題について取り組み、学位論文を形成するプロセスを通して看護学研究方法論を修得すると共に、看護学の発展に寄与する保健看護教育論を探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	嘉手苅英子 宮里智子
3年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61211	授業科目	地域・精神保健看護特論Ⅱ Community and Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○川崎道子、大湾明美

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	精神保健医療福祉の基礎的知識を持ち、多様な地域と文化の中における精神保健の現状把握・問題発見・解決・精神健康の維持促進等についての課題を分析評価する能力を養う。また、実践の場や教育・研究において、自立して優れた看護実践の指導的な立場に立てる人材の育成および広く学際的な知識を持つ研究者・教育者を育てる。また、地域保健看護領域の現状より課題を把握し研究的視点で分析できるなど研究者としての視点を身につける。
到達目標	1. 日本・世界各国の精神保健看護の現況を把握し、精神保健看護が直面する今日的課題を広く深く認識し、課題解決に応用できる理論や実践方法について学び、検討を深めることができる。 2. 精神保健看護領域における学問的な進歩を常に敏感に捉え、最新の理論や治療方法などの状況を把握し、その中で精神看護に応用出来る知識・方法・技術の実践可能性を吟味し習得する。 3. 精神保健看護に必要な最新の研究方法を常に学び、応用できる能力を養う。 4. 地域保健看護活動における健康課題解決を活動方法、施策化、地区組織育成の視点から分析し成功要因を記述できる。 5. 4を踏まえて地域保健看護領域の研究の動向を活動方法などの視点から整理し、研究Ⅱへ繋ぐことができる。 6. 地域保健看護活動、研究活動上の倫理的問題を理解し実践に繋ぐことができる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1～3回	日本・沖縄・世界各国の精神保健看護の現状と問題点の分析	川崎道子 大湾明美
第4～6回	精神保健看護関連領域の研究の最新の情報について	
第7回	精神保健看護と社会・文化的・倫理的問題	
第8～10回	日本・沖縄・諸外国の地域保健看護活動の現状と課題の分析	
第11～13回	地域保健看護領域の研究の動向について	
第14回	地域保健看護活動における倫理的問題	
第15回	まとめ	

テキスト	講義開始時に提示する。
参考文献	随時資料・文献を用いて行う。
成績評価の方法	評価は、授業への参加状況と発言・討論内容・授業態度・レポート・テスト等を統合して行う。
備考	

科　目 コード	61221	授業 科目	地域・精神保健看護特別研究Ⅱ Community snd Mental Health and Psychiatric Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎川崎道子 大湾明美

開講年次	博士後期課程 1～３年次	単位数	８単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240 時間				

授業概要	地域及び精神保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析し、考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。あるいは卓越した実践者として必要なコンピテンシーを探究し、地域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、地域保健看護における問題解決および支援方法を実証的に探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
１年次	４月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析 ３年次 11 月（5 月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 博士論文 第１稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ １月（7 月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ ２月（8 月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 ３月（9 月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	川崎道子 大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・資料を紹介し検討する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61410	授業科目	母性・小児保健看護特論Ⅱ Maternal and Child Health Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○未定 （母性） 未定 （小児）		
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選 択（領域必修）	時間数	30時間				
授業概要	乳幼児・子ども・青少年、妊産婦、女性とその家族が一般に経験する健康問題を検証するために正常な生涯発達・家族発達の理解を基礎におく。文献検討により、上記対象の健康信念、健康行動、包括的保健看護ケアシステムに焦点を当てる。小児と家族問題および女性問題の研究、問題解決の評価、健康に関する生涯発達的および生態学的観点の統合を通して看護理論の発達を考える。						
到達目標	1. 小児、妊産婦および一般女性における健康問題に気づくことができる。 2. 上記の健康問題を包括的に分析できる。 3. 適切なケアマネジメントプログラムに可能な看護支援を統合できる。 4. いくつかの選択的健康問題に関する研究アプローチを特定できる。 5. 発達理論を健康の維持・増進・回復と結びつけることができる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	母性の心理	未定
第2回	母親役割の獲得/母子関係の成立①	（母性）
第3回	母親役割の獲得/母子関係の成立②	（小児）
第4回	母子関係に関する実験的研究	
第5回	家族とは何か	
第6回	子どもと家族①	
第7回	子ども虐待と家族②	
第8回	母子関係の障害	
第9回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論①	
第10回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論②	
第11回	子どもの養育が困難な家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第12回	急性期及びターミナル期にある子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第13回	慢性疾患を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第14回	障害を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第15回	まとめ	

テキスト	Hockenberry & Wilson eds.Wong's Nursing Care of Infants and Children. 9th .Mosby,2010 他
参考文献	参考書、文献等は別途指示する。
成績評価の方法	評価は授業への参加など及び課題に関するレポート、プレゼンテーションの内容に基づいて行なう。
備考	事例検討、文献抄読などはゼミ形式で行なう。

科　目 コード	61420	授業 科目	母性・小児保健看護特別研究Ⅱ Mother and Child　Health Nursing Special Study　Ⅱ	担当 教員	◎未定（母性） ◎未定（小児）

開講年次	博士後期課程 1～3 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240 時間				

授業概要	母性・小児保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集・分析し、結果を考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。あるいは高度な実践能力を修得し、卓越した実践家として必要なコンピテンシーを探究し、専門領域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、疾病の有無にかかわりなく子ども及び母親のおかれた状況、健康上の問題、支援方策を実証的に探究する。
到達目標	1. 専門領域において、最新で意義のある研究課題を設定できる。 2. 研究課題に関する文献を探索でき、統合できる。 3. 研究課題に適した最新の研究方法・分析方法を選択し、実施できる。 4. 結果を母子保健看護の視点から広く深く考察できる。 5. オリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 6. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理観や倫理的態度を身につけることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次

科　目 コード	61510	授業 科目	成人・老年保健看護特論Ⅱ Adult and Geriatric Health Nursing Theory Ⅱ	担当 教員	○神里 みどり 大湾 明美 山本 敬子
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論
選択必修	選　択（分野必修）	時間数	30時間	授業 形態	講義
授業概要	成人・老年保健看護領域における実践・教育・研究の現状を幅広く概観し、そこから課題を明確にしながら、課題を分析して問題解決できるような研究・教育指導者としての能力を養う。さらに、成人・老年保健看護の中心的概念や理論の基礎的な知識を修得しながら、それらを実践・教育・研究へと導入できる能力、発展的で学術的な視点について修得できる能力を養う。				
到達目標	1．成人・老年保健看護領域における国内外の現状を把握し問題点を導くことができる。 2．それらの問題点を改善するための方略について検討することができる。 3．成人・老年保健看護領域において活用されている概念や理論と実践・教育・研究への応用可能性について述べることができる。 4．臨床現場で活用できるような保健看護援助やケアシステムの開発について検討できる。				

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	成人保健看護領域における実践・教育・研究の動向(国内)とその多角的検討･分析	神里・山本
第3・4回	成人保健看護領域における実践・教育・研究の動向とその多角的検討・分析(国外)	神里・山本
第5・6回	成人保健看護における中心的概念および理論の文献的検討	神里・山本
第7回	EBNに基づいた保健看護援助の開発やケアシステムの構築についての検討	神里・山本
第8・9回	老年保健看護領域における実践・教育・研究の動向(国内)とその多角的検討･分析	大湾
第10・11回	老年保健看護領域における実践・教育・研究の動向とその多角的検討・分析(国外)	大湾
第12・13回	老年保健看護における中心的概念および理論の文献的検討	大湾
第14回	EBNに基づいた保健看護援助の開発やケアシステムの構築についての検討	大湾
第15回	まとめ	神里・大湾・山本

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	評価は授業への参加態度や討論、プレゼンテーションや課題レポートを総合して行う。
備　考	最新の文献や資料、テキスト等を使用しながらゼミナール方式で授業を進める。

科　目 コード	61520	授業 科目	成人・老年保健看護特別研究Ⅱ Adult and Geriatric Health Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 田場由紀、謝花小百合

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	成人・老年保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成し自立した研究者となることを学習する。あるいは卓越した実践者としてのコンピテンシーを探索し、専門領域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、問題解決および支援方法を実証的に探求することを学ぶ。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里みどり 大湾明美 田場由紀 謝花小百合
3年次	11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。（←該当する科目のみ記入）

科　目 コード	61610	授業 科目	新領域保健看護特論Ⅱ New Challenges in Nursing Health Theory Ⅱ		担当 教員	○金城 芳秀 神里 みどり	
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選　択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	The lack of nurse specialists is one of the serious issues in medical care and health fields. It is an international issue to maintain quality of nurses because it improves or declines since nurses and assistants move across the countries. Considers the problem solution grounded on existing theory through setting up the new research theme through Japanese and foreign literatures and materials on various problems in all of nursing fields. Considers the current practical problem solution and develops the theory based on actual materials.
到達目標	1. To critically examine models in nursing education that include the integration of practice, education and research. 2. To examine the impact of the diverse nursing education student population and the importance of cross cultural communication 3. To demonstrate and understanding of the diversity of the patient populations and the challenge of cultural safety for consumer satisfaction in health care 4. Critically evaluate the role of supervision and mentors in the development of the expert practitioner 5. Critically analyze quality issues in health care - consumer satisfaction surveys and consumer complaint procedures 6. Critically examine theories of change and develop strategies for successful change activities 7. Critically examine models of nursing service delivery 8. Critically examine ethical theories and articulate the advocacy role of the nurse 9. Critically examine issues that are confronting the nursing profession worldwide related to recruitment and retention of nurses 10. Examine models of successful nurse entrepreneurs internationally

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	Nursing Practice, Nursing Education and Nursing Research integration for the development of the relevant highly skilled practitioner	神里 金城
第2回	Change theory and the issues challenging nursing	
第3回	Nursing and the global village	
第4回	The cultural diversity inherent in nursing students and in nursing service delivery populations	
第5回	The availability of the highly skilled nurse - recruitment and retention of nurses worldwide.	
第6回	Mentorship and leadership	
第7回	Career planning	
第8回	Succession planning	
第9回	Balancing the equation - quality of nursing service delivery, the ratio of nurse to patient, and the quality of health outcomes for patients	
第10回	Socio-political awareness and the formation of relevant health care policy	
第11回	Quality issues in health care - the sophisticated health care consumer	
第12回	Measurement of Quality	
第13回	Emergent opportunities for nurse practitioners e.g. diabetes, cardio-vascular disorders	
第14回	Ethics in health care - the challenge related to increasing ethical dimensions in decision making	
第15回	Nurse Entrepreneurs in private practice	

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	Student's presentation and discussion, report, attendance.
備　考	

科　目 コード	61620	授業 科目	新領域保健看護特別研究Ⅱ New Challenges in Nursing　Health Special Study　Ⅱ	担当 教員	◎神里 みどり ◎金城 芳秀 謝花小百合

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240時間				

授業概要	新領域保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析し、考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。また、保健看護における新しい役割創設のために、卓越した実践者として必要なコンピテンシーを特定し、その修得方法を探究する。特に保健看護情報と看護実践および看護教育との関係を探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里 金城 謝花
3年次	11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61910	授業科目	島嶼保健看護特論Ⅱ (Island Health Nursing Theory Ⅱ)	担当教員	○大湾　明美 神里　みどり

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	島嶼地区の健康問題と健康生活上の課題について、地理的、歴史的、文化的、またそれに規定される生活様式の面から分析・検討方法について論じる。
到達目標	1. 島嶼保健看護領域における国内外の現状を把握し問題点をみいだすことができる。 2. 問題点に関して改善するための方略について検討することができる。 3. 島嶼保健看護の概念を理解し、島嶼における実践・教育・研究課題を論じることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1・2回	オリエンテーション・島嶼における健康問題	大湾・神里
第3・4回	島嶼における看護職の活動の現状と課題	大湾・神里
第5・6回	島嶼における文化と看護活動	大湾・神里
第7・8回	島嶼における遠隔教育とテレナーシングケア	大湾・神里
第9・10回	島嶼における健康問題解決の方法	大湾・神里
第11～13回	島嶼に関する国内外の看護研究の現状	大湾・神里
第14・15回	島嶼に関する国内外の看護教育の現状	大湾・神里

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随時参考資料を配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(40%)とレポートの内容(60%)で評価を行う。
備考	本大学または、宮古島サテライト教室にて、土曜日・日曜日に開講する。

科　目 コード	61920	授業 科目	島嶼保健看護特別研究Ⅱ Island Health Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎大湾明美 ◎神里みどり ◎川崎道子

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	島嶼地区の健康問題ならびに健康生活支援上の問題について、島嶼の特性の観点及び、国内外の島嶼看護に関する研究成果等を用いて分析研究し、島嶼看護学的に考察し、研究論文を作成する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析 11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	大湾明美 神里みどり 川崎道子
3年次		

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	62110	授業科目	継続保健看護教育Ⅱ Continuing Education in Nursing and HealthⅡ	担当教員	○嘉手苅英子 宮里智子 舟島なをみ(非常勤) 非常勤

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	コア科目	授業形態	講　義
選択必修	選　択	時間数	30　時間				

講義概要	看護基礎教育課程から卒後の継続教育に至る看護生涯教育の現状と課題の理解を前提に、看護専門職のキャリア開発と看護生涯教育への支援システムの構築について教授する
到達目標	1 看護における専門分化の方向性とエキスパート・ナース育成の必要性について説明できる。 2 看護専門職のキャリア開発と看護生涯教育への支援システムについて考察できる。 3 看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯学習の現況と課題について理解を深める。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	「継続保健看護教育Ⅱ」の導入、学習課題の共有	嘉手苅
第2回	看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状と課題	宮　里
第3回	看護職者の生涯学習ニーズとその支援システム	非常勤（未定）
第4回	人間のライフサイクルとキャリアサイクル	
第5回	人間の成熟過程と看護専門職者のキャリア開発	宮　里
第6回	同	
第7回	研究（文献）からみた看護職者のキャリアの実態と課題	宮　里
第8回	同	
第9回	エキスパートナース（専門看護師、認定看護師）育成の現状と課題	嘉手苅
第10回	同	
第11回	看護における専門分化とその方向性（米国の動向との比較）	嘉手苅
第12回	同	
第13回	研究からみた看護継続教育の課題	舟島なをみ
第14回	同	
第15回	総括	嘉手苅 宮　里

テキスト	指定はない。関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	初回講義で紹介する
成績評価の方法	講義への参加状況（討議への参加、プレゼンテーション）、レポート
備　考	授業は院生のプレゼンテーション・討議を中心に進める。

科　目 コード	62121	授業 科目	保健看護と研究Ⅱ (研究デザイン編) Health Nursing ResearchⅡ (Reserch design)	担当 教員	○神里 みどり 前田　和子(非常勤) 玉城　清子(非常勤)

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	この科目は保健看護と研究Ⅰで研究の基礎を学んだ後に履修するオムニバス科目である。この科目では博士論文の研究計画を書くために必要な基本的知識を学ぶ。量的研究、質的研究、混合研究法をデザインしていく際に必要となる概念枠組み、研究プロセスとそのアプローチについて、必要な基本的知識を学ぶ。
到達目標	1.研究計画をデザインする際に必要な基本知識を、学生自身の修士論文を材料に説明できる。 2.博士論文の研究計画を書き上げるまでのプロセスに必要な基本的知識を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	オリエンテーション、 研究デザイン デザインの枠組み①	神里 前田
第2回	デザインの枠組み②	前田
第3回	文献レビュー① ゲストスピーカー：私の戦略	神里
第4回	文献レビュー②	神里
第5回	執筆作戦と倫理的配慮	前田
第6回	序論について	前田
第7回	目的の言明	前田
第8回	研究上の問いと仮説	前田
第9回	理論の活用	神里
第10回	定義、限界、意義	神里
第11回	量的研究法の研究計画	玉城
第12回	質的研究法の研究計画	神里
第13回	混合研究法の研究計画	神里
第14回	看護学発展のための研究①	非常勤
第15回	看護学発展のための研究②	非常勤

テキスト	John W. Creswell. (2003/2007). 操華子, 森岡崇（訳）, 研究デザイン. 日本看護協会出版会.
参考文献	・J.W.クレスウェル他著、大谷順子訳：人間科学のための混合研究法.北大路書房.2010 ・ビヴァリー M. ヘンリー著・上田礼子監訳: 看護研究ハンドブック. 医学書院、2004 ・キャロル・ガービッチ著, 上田礼子他訳: 保健医療職のための質的研究入門. 医学書院、2003 ・D. F. Polit & C.T.Beck (2004/2011). 近藤潤子（監訳), 看護研究　原理と方法. 医学書院. ・澤田昭夫著 その他、適宜、参考文献、課題文献等を示します。
成績評価の方法	・出席状況、事前準備（課題レポート含む)、授業への貢献度から目標 1,2 の達成度を評価（前田） ・学生の出席、パフォーマンス、プロセス、学習成果を総合的に評価します。

備　考	・集中講義で行いますが、都合により講義の順序は入れ替わることがあります。 ・すべての授業に出席し、活発に参加することが求められます。 ・授業は講義、PBL、ゼミナール形式など多様な方法で行います。 ・学生のチームワーク、創造性、革新性が強く期待されます。

科　目 コード	62122	授業科目	保健看護と研究Ⅱ(執筆編) Health Nursing ResearchⅡ (Writing)	担当教員	○神里　みどり 前田　和子(非常勤)　他

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	必修科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	博士論文を執筆するための基盤となる方略を学修し、質の高い論文作成の実際について学ぶ。
到達目標	1. 研究論文の基盤となる論文構成について述べることができる。 2. 研究論文のアウトラインが記述できる。 3. 質の高い研究論文について吟味できる。 4. 研究論文の概要を記載することができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	オリエンテーション 論文の構成	神里
第2回	文献レビューの実際・統合・文献マップの作成	神里
第3・4回	研究目的・研究設問・理論的枠組の作成	前田
第5・6回	研究方法とその手順の実際	神里
第7・8回	結果の書き方	神里
第9・10回	考察の書き方	神里
第11・12回	博士論文の具体的な展開例：邦文2件以上	前田
第13・14回	博士論文の具体的な展開例：英文2件以上	前田
第15回	看護学発展のための研究	非常勤

テキスト	澤田昭夫(2015)論文の書き方　第70刷．講談社学術文庫153．講談社 澤田昭夫(2016)論文のレトリック　第48刷．講談社学術文庫604．講談社 木下是雄(2017)理科系の作文技術　第82版．中公新書624．中央公論社
参考文献	野矢茂樹(2001/2017) 論理トレーニング．第46刷、産業図書株式会社、東京 本多勝一(2017)新版　日本語の作文技術．第3刷．朝日新聞社 沖森卓也(2016)文章が変わる接続語の使い方．初版．ベレ出版 John W. Creswell&J. David Creswell (2018) Research Desighn. 5th ed., Sage, Los Angeles John W. Creswell(2003/2007).操華子・盛岡崇(訳)、研究デザイン、日本看護協会出版会 J.W. クレスウェル、V.L.プラのクラーク著(2007/2010)、大谷順子(訳) 人間科学のための混合研究法、北大路書房 D.F.ポーリット&　C.T.ベック著(2004/2010)、近藤潤子(訳) 看護研究　原理と方法　第2版、医学書院
成績評価の方法	評価は、討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う
備　考	

科目コード	63110	授業科目	疫学と保健統計Ⅱ Epidemiology and Health Statistics Ⅱ	担当教員	○金城　芳秀
開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				
授業概要	ある特定の集団（地域、職域、学校などを含む）における健康に関連した状態や事象の関連要因と保健看護への疫学と統計学の応用を考究する。また、保健看護分野及び研究で用いられる統計手法に関して内外の文献を検討し、それらの妥当性及びデータ分析法を学習し、新しい看護学構築への疫学及び統計学の応用を考究する。				
到達目標	1.保健看護分野及び研究および学術論文で用いられる統計手法に関して理解、説明および活用できる。 2.自らの研究（特別研究Ⅱ）において疫学および統計手法を活用、応用できる。				

回数	教育内容及び計画	担当者名
第1回	統計学の目的（検定と推定、仮説検定、P値とは）	金城　芳秀
第2回	医療統計学	
第3回	医療従事者のための統計手法（理論）	
第4回	医療従事者のための統計手法（応用）	
第5回	看護研究における統計学の応用	
第6回	データ分析の方法	
第7回	回帰分析と相関係数	
第8回	多変量解析（重回帰分析とロジスティック回帰分析）	
第9回	多変量解析（主成分分析と因子分析）	
第10回	保健看護研究における統計手法の文献検討	
第11回	保健看護研究における疫学手法の文献検討	
第12回	EBM実践のための臨床疫学	
第13回	保健看護研究における疫学の応用	
第14回	社会疫学	
第15回	討議およびレポート課題	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随意紹介する。
成績評価の方法	レポート課題と参加状況により評価する。
備考	

科　目 コード	63130	授業 科目	ヘルスプロモーション・健康教育Ⅱ Health Promotion and Health Education Ⅱ	担当 教員	○未定(非常勤) 井上　洋士(非常勤)

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	疾病の有無にかかわりなくヘルスプロモーション、健康教育は生涯を通して重要であるとの認識から近年の理論と実践を理解し、その上で個人、グループ、地域、国のレベルにおける今日的課題とその対策を考察し、新たな実践方法の考案あるいは理論の構築を探索する。
到達目標	1.　健康教育とヘルスプロモーションの概念を歴史的・理論的に記述できる。 2.　国内外で実施されているヘルスプロモーション、健康教育の現状を説明できる。 3.　ヘルスプロモーションに関連ある人的・物的資源及び健康を理解できる。 4.　ヘルスプロモーションの視点から国・コミュニティ・施設・組織レベルでのアセスメントができる。 5.　課題の分析と評価、質の高いプログラム開発や理論化ができる。 6.　ヘルスプロモーション分野で看護職としてリーダーシップが発揮できる。 7.　健康教育・ヘルスプロモーション研究の指導ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	健康教育は何めざす？－健康教育とくに保健行動の理論	未定
第2回	健康教育からヘルスプロモーションへ、ヘルスプロモーションは何めざす？ ―エンパワメントアプローチとサルートジェニックアプローチ、「健康への力」の諸概念－	未定
第3回	健康生成論とストレス対処能力概念SOC	未定
第4回	SOCを高める介入・支援方策の開発に向けて－SOCが見えてきた!?－	未定
第5回	研究と研究論文そして研究者に求められるものは何か？	未定
第6回	介入研究・評価研究の理論と方法－慢性疾患セルフマネジメントプログラムとその評価研究からも学ぶ－	未定
第7回	15年に亘る我々の薬害HIV感染生存者・家族調査研究を語る ―ヘルスプロモーション理論の応用をみる－	未定
第8回	各人の研究の紹介と討論	未定
第9回	QOLとヘルスプロモーションについて再考する	井上
第10回	健康行動及び介入の理論的アプローチを先行研究から学ぶ	井上
第11回	スティグマと健康の関係を国・コミュニティ・個人などのレベルで考察する	井上
第12回	健康教育・ヘルスプロモーション研究でのソーシャルマーケティング	井上
第13回	当事者参加型リサーチの基本的な考え方と実践例	井上
第14回	健康教育・ヘルスプロモーションでのウェブ等新技術の活用可能性	井上
第15回	まとめ	井上

テキスト	教科書は別途指示する。
参考文献	
成績評価の方法	評価は、出席、課題レポート、討議への参加度・理解度によって総合的に判定する。
備　考	集中講義方式で行う。 講義の前に、課題レポートを提出し、講義では積極的な質疑、討論を期待する。

人間が人間を支えていく人材を
世に送り出す看護大学としてのイメージを
NURSING（看護）の英文頭文字の**N**の
文字によって人体をデザイン化し、
シンボライズしました。

SYLLABUS
２０１９年度

編　集：沖縄県立看護大学大学院

住　所：〒 902-8513
沖縄県那覇市与儀１丁目 24 番１号
ＴＥＬ：０９８－８３３－８８００（代表）
ＦＡＸ：０９８－８３３－５１３３
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http://www.okinawa-nurs.ac.jp